長井さんの「息子」

やまだ紫

「昔」というと自分も昔の中にいた事が
バレるのでいやなのだけれど
長井さんや青林堂を語るには
どうしても「むかし」が資料なので仕方ない。

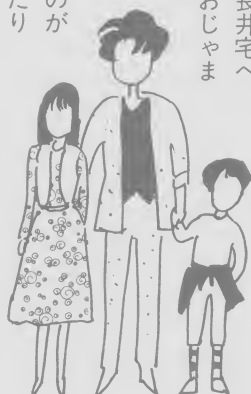
あ〜
どうも
どうも
いらっしゃい

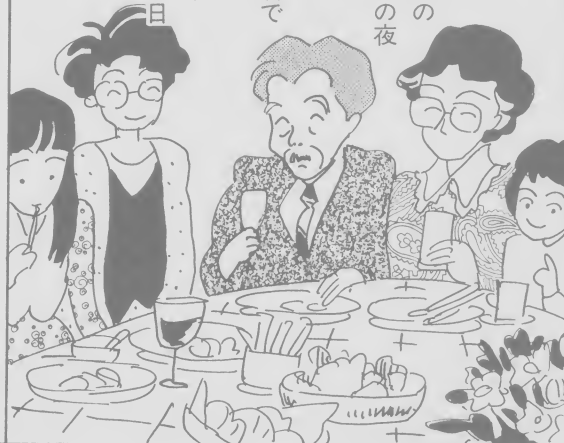
長井さんは今年
「古希」を迎えられた。

初めてお逢いしたのは20年前だから
長井さんは 50歳 だったわけだ。

若い頃はね
僕も無茶したね
うん うん…

――と言うのは
昔からのログセらしい

うちの子供たちが小さい頃
阿佐ヶ谷の長井宅へ
泊りがけでおじゃま
したことも
幾度か
あった
銭湯へ行くのが
楽しみだったり

長井宅には今は亡き
ミーコというトラ猫
がいて
その他にも外から
あそびにくる猫や
外に住みついて
しまった母子猫などが
沢山いて
明子夫人がエサを

やったり病気の
面倒をみておられ
窓からいつも猫が
住まいを覗いて
いる――――という
お宅なのでした

するとやにわに長井夫人
しゃっきりと足どり高く
大通りへと

すたこら

「そんなにのんで」とあとで
明子夫人に叱られていた

あぶなかった……

――なんてこともありました。
青林堂三十周年おめでとうございます
「ガロ」という長井さんの息子は三十年に
して独立し、とうとう長井さんも明子夫人
も親業を引退される時が来たそうです。
本当にごくろうさまでした。それに
ありがとうございました。

月刊ガロ1991年１２月号掲載

座談会 1985年

みんな『ガロ』から生まれ育った

長井勝一・南伸坊・林静一

長井　南が「ガロ」の編集部にいたのは、いつごろだったかなあ。

南　七二年から七九年まで。「ガロ」二十年のうち、七年間いたわけですよ。

長井　そうかい。なにしろいいかげんだからな、うちの場合。（笑）俺が体をこわしてからは、南に編集長をまかせたのにな。いつごろいたかも忘れちゃってる。

南　実はこっちもいいかげんなんですよ。（笑）ボクの友達に沢井というのがいて、赤瀬川（原平）さんのところで一緒だったんですけど、彼が青林堂で仕事してたもんで、ときどき冷やかしに行ってたわけです。そのころボクはデザイナーかなんかやってて、その会社が左前になった。就職活動でもすればいいのに、毎日ブラブラしてたんですね。そしたら長井さんが、どうせならうちにおいでって……。

長井　あれッ、そうだったかなあ。（笑）ホントにうちはいいかげんだから。（笑）

南　でも、ヨソで話すときはちょっと違うんですよ。沢井を冷やかしに行ったら、たまたま「ガロ」の返品がドドッと来た。そいつをボクがエイヤッと持ち上げたものだから、力もあるし、よく働く青年だというんで入社を許可された、と。（笑）

林　まあ、入社試験なんかなかったんだろうし。

長井　いや、一回だけやってるんだ。誰を選ぼうとオレの勝手だと思ってたんだけど、推薦する人やなんかがけっこういてね。じゃあ試験でもやろうとなったら、これが来るわ来るわ。二人採るのに百人も来ちまった。もう面倒臭いのなんのって、やれ履歴書だ、やれ作文だ、やれ面接だ。面接ったって、こっちのほうが恥ずかしくてね。社長のオレが、隅の方でニヤニヤ見てる。

▲イラスト・林静一
「文藝春秋」85年5月号より転載

南　余計な仕事がひとつ増えたって感じだろうな。

長井　だいいち、ナベだもの、あのときは。

南　ナベ？

長井　南と一緒に編集部にいた、㊎(ビ)の渡辺和博。

南　うん、だけど、ナベは試験受けてないでしょう？

長井　違う、違う。試験官がナベだったの。

林　すごい。（笑）

南　そりゃあメチャクチャだよ。（笑）

長井　「あれがいいんじゃない？」なんて、オレの横腹を鉛筆でつついたりしてね。もう実にいいかげんなの。

南　それ、ボクが結石で入院してるときの話だね、きっと。

長井　結局、入社試験は一回こっきりでやめちゃったけどな。

南　渡辺和博っていえば、この男もドサクサに紛れて社員になっちゃったクチだね。

長井　いつだったか、ナベに「おまえ、どうして入ったの？」って聞いたら、「エッ、長井さんが電話をくれたんじゃないですか。南さんが倒れて、しょうがないから、おまえ出てこいって。それで社員になったんです」って。

南　これもかなりいいかげん。（笑）あ

●イラスト／「長井勝一氏を偲ぶ会」寄書きより

のころのナベは、毎朝アパートで起きるとね、きょうはどうやって一日過ごそうかと悩んでたんだって。それが青林堂に通うようになって、とりあえず一日の行動を考えなくてすむ。ホントにありがたかったみたいだよ。

滝田修からのファンレター

長井　林君が初めてうちに原稿を持ち込んだのは……？

林　六七年ですから、二十二歳のとき。ただ、その前に郵送した作品があったんですよ。

長井　二作目なのか、持ってきたのは。

林　そうなんですよ。一作目はウンでもスンでもない。送ったきり、原稿もなくなっちゃった。

南　じゃあ、幻の処女作になったわけだ。

長井　いや、そいつがあるんだ。

林　えッ、あるんですか⁉

長井　今度「ガロ二〇年史」をつくるために倉庫をひっくり返してたら、そいつが出てきたらしいよ。

林　そうなんですか。

長井　ヘタな絵だったそうだ。（爆笑）

南　幻の作品にしといたほうがいいね。（笑）白状しますけど、高校生のとき、ボクも一度だけ原稿を持ち込んだことがある。

長井　原稿って、何を？

南　漫画を。

長井　へえー、驚いたな。初耳だよ。

南　だって、その時も長井さんが会ってくれたんですよ。

長井　オレ、何ていった？

南　サラッと見てね、「寸法が違うぞ」って。（笑）

長井　つまらないこといったもんだな。

林　どういう高校生だったのかな。

長井　覚えてないなあ、全然。だってさ、当時は少なくたって月に百人以上来てたもの。いちいち覚えてられないんだ。

林　ボクが描いてたころは、掲載してもらうだけでたいへんだった。若げの至りで、一度載せてもらえば、ずっと続くもんだと思ってましてね。毎月一本のペースで描こうなんて勝手にスケジュールをたててた。そしたら長井さんが原稿の山をバンと叩いて、「困るんだよ君。こんなに載せる作品があるんだよ」って。「君のは三カ月先！」なんていわれて、えらいショックでした。

南　林さんが描き始めたころというのは、いちばんの激戦区だったんだよね。白土三平さんの『カムイ伝』が毎号百ページくらいとってたんだから。

長井　そうそう。『鬼太郎夜話』の水木しげるさんも毎月描いてたし、つげ義春さんとか滝田ゆうさんとかが常連でね。「サンデー」「マガジン」と、少年誌は二つあったけど、おとなの漫画雑誌は「ガロ」しかなかった。だから活気があったよね。八万五千部刷って、返品がほとんどない時代だったもの。

林　あの頃ボクは、東映動画に勤めてましてね。白土さんが描いてるというんで、スタッフ全員が読んでる感じでしたよ。

南　ボクが「ガロ」をまかされたのは、三平さんが描かなくなってしばらくたった頃。すごい勢いで部数が減りましてね。

長井　うん、毎月五千部ずつ落ちてったもんな。まあ、「ガロ」っていうのは、わりと時代に密着してたところがあってね。三平さんの『カムイ伝』なんか、一種の革命思想みたいに読まれたりした。

南　学生運動の時代でしたよね。

長井　投稿ページで「読者サロン」というのがあって、あの竹本信弘さん、のちの滝田修さんから手紙をもらっているんだ。『私は、白土三平氏の漫画を大変おもしろく、且つ、貴重なものと思いながら、愛読しています。私は、

●イラスト／「長井勝一氏を偲ぶ会」寄書きより

京大経済学部の大学院に在籍し、マルクスの革命思想を研究し、公式的な石頭的公認マルクス主義の再生を日夜祈りながら勉強しております。……』。一九六五年の十一月号に掲載されてるんだよ。

林　ボクの時代は、学生運動を背景に、ヤクザ映画と歌謡曲、かな。

長井　そういえば、林君の『花の紋章』は六八年で、『赤色エレジー』が七〇年。六八年といえば、つげ義春さんが『ねじ式』でたいへんな話題を呼んだ年だよな。

南　ボクは一介の読者にすぎなかったんだけど、林さんの漫画はよく見てまして。週刊誌のアンケートなんかで、林さんがヤクザ映画とか歌謡曲を好きだと書いてるのをみると、とても気になったんですよね。歌謡曲のこと、全然知らないとマズイかなあとか、ヤクザ映画も見なくちゃいけないかなあ、とか。(笑)

林　あの頃のマスコミって面白かったよね。週刊誌のグラビアなんか、ボクを撮る場所がいつも同じなのね。新宿あたりへ連れていかれて、「ちょっとこちらへ」、で、着いたところはきまってヤクザ映画の看板の前。(笑)観てない映画もずいぶんあったけど。(笑)

ガロの〝人探し広告〟

長井　つげさんのブームもすごかったよなあ。

林　ボク、たまたまつげさんの近くに住んでましたけど、ホントにすごかった。どうやって住所を調べるのか、若い女の子がワンサと押しかけてくる。大家さんが困ってね。いくら留守だといっても、全然帰ろうとしない。

南　当時のつげさんは、テレビのアイドルタレントって感じだったもの。

林　なぜか、赤い風船を持ってる女の子がいたりしてね。(笑)なんともすさまじい人気だった。

長井　つげさんとは貸本漫画の時代からの付き合いなんだけど、「ガロ」創刊当時は行方がわからなくてね。六五年の四月号に〝人探し広告〟を出して、やっと見つけたわけですよ。

林　つげさんは、しばらく水木しげるさんのアシスタントをやりましたよね。

長井　そう、一般の読者にはあまり知られていないことだけどね。それから滝田ゆうさん、この人の存在というのは、「ガロ」にとってずいぶん大きかったと思うんだ。

林　『寺島町奇譚』で売れ出す前は鬱々としてましたよね、毎晩のように飲んで。

長井　貧乏のドン底だったよな、あの人も。だから、どんどん作品を持ってくるんだよ。とても載せられないのに、一カ月に三本も四本も描いてくる。

南　当時はキチンと原稿料を払ったんだ。

長井　うん、いくらかはな。

南　ハッハハハ。

長井　ところが『寺島町』で売れてからは、締切が近づいてもなかなか原稿があがらない。一転して、催促する側に回ったわけさ。で、いつだったか、たまたま俺が原稿取りで滝田さんの家に行ったわけ。ドアを開けたら、夫婦が声を揃えて「あ、長井さん!」。そしたら二人の子供が、突然ワーッと泣きだしたんだよ。(笑)

南　どうしたんです、それ?

長井　つまりさあ、俺がしょっちゅう、催促の電話をしてただろ。そのたんびに奥さんが、「長井さん、怒ってるわよ」とか「また長井さんよ、どうするの?」とかいってたらしい。それを子供が聞いていて、長井さんという人は鬼のような人だと……。

南　それで反射的に泣きだしたわけだ。

長井　失礼な話だよ、まったく。(笑)

●イラスト／「長井勝一氏を偲ぶ会」寄書きより

物理学専攻の漫画家

林　ボク思うんだけど、長井さんて人は、社長というよりオヤジって感じがしてね。

南　そうそう。ボクなんか、小さい時に父親を亡くしてるもんで、よけいにその思いが強かった。

林　いつだったか、亡くなった寺山修司さんの出版記念会かなんかがありましてね。その日は朝から猛烈に胃が痛くて、会場を出たら、もう一歩も動けぬくらい。ところが、なぜか病院に行くのを思いつかないんだ。結局、長井さんとこへ行っちゃった。

長井　それで？（笑）

林　必死で胃の痛みを訴えたら、長井さんはひとこと、「それなら酒飲もう」。（笑）

長井　なるほど、そうきたか。（爆笑）

林　こんなに胃が痛くて酒が飲めるか、と思ってたら、いきなり鍋をとった。まず酒を飲ませ、次に野菜をたらふく食わせて、最後に餅を食べさせられた。これがなんと、ケロッと治ったから不思議なんですよ。まあ、なんて偉大なオヤジだろうと……。

長井　そういうことだな。（笑）酒というのは薬だもの。

南　ボクはね、長井さんに編集のイロハとかなんとか、固苦しいことを教わった覚えがまるでないんです。入社したその日から、自分で適当にやれって感じでね。近ごろ若い人に、編集のノウハウを教えて欲しい、といわれたりするんだけど、ちっとも参考になりゃしない。こんな社長はめったにいないんですから。（笑）

林　当時のボクの日課をいいますと、午後の二時くらいに青林堂へ行く。しばらくブラブラして、三時になると長井さんのタオルと石鹸を借りて神田神保町の銭湯に行くんです。時には若い編集者も一緒にね。で、ひとっ風呂浴びて帰ってくると夕方でしょう。そろそろ行くか、となるわけで、長井さんにくっついてって飲ませてもらう。（笑）

南　それ、夏の感じだね。

林　そうです、そうです。

長井　まあ、林君の頃は、いろんな漫画家が青林堂でゴロゴロしてたよな。林君、（佐々木）マキさん、勝又（進）君なんか、ウチの机でしょっちゅう仕事してた。来客があると、こっちは忙しいから「勝又君、ほら」なんて。彼も心得てて、「はい、はい」とかいって応対に出る。（笑）

林　同世代の漫画家が多かったせいで、「ガロ」で結びついた友達関係というのがありましたよね。勝又さんとは一緒に泳ぎにいったことがある。あの人、物理学の大学教授の息子を連れてきてましてね。

長井　だって勝又君は物理学を専攻してたんだもの。大学院まで進んだ優秀なやつなんだよ。

林　その物理学のせいで、勝又さんと飲むと必ず喧嘩になったんです。ボクが宇宙の話を聞くでしょう。そうすると、だんだん禅問答みたいになってくる。物理学士が禅問答でいいのか、とからむと、あの人、えらく怒りましてね。きまって女のことでやり返された。（笑）

長井　でも、漫画のことで議論したりは一切なかったよな。

南　みんなで集まっても、陽気にワイワイ騒ぐだけで。

林　ただ、漫画評論家が入ると変になるんですよ、石子順造さんとかね。もう亡くなりましたけど。

南　石子さんはすごく面白い人だったけど、言葉使いがいわゆる評論家風だったでしょう。土着の情念がどうしたこうしたとか。マキさんや林さんが、評論家をからかうような漫画を描いてたのを覚えてますよ。

長井　まあ、いろいろあったけど、南

●イラスト／「長井勝一氏を偲ぶ会」寄書きより

もえらく売れてきたし。（笑）

南　唐突だなあ。（笑）

長井　こんど「ガロ二〇年史」を作るにあたっても、みんながみんな原稿料はいらないといってくれてね。感謝してるよ、俺は。

林　二〇年史はともかく、原稿料については、なんか馴らされちゃった感じで。（笑）

長井　そうなんだよな。ウチは払ったり払わなかったり。払っても安いし。

林　ただし、ボクはしっかりいただいてましたよ。

長井　林君の頃は『カムイ伝』が売れてたからさ。まあ、ゼニがあるなら払ったほうがいいけど、なければ払えないだけのこと。非常に簡単なことだと思ってるんだ。（笑）

林　ボクはほかの雑誌を知らなかったから、こんなものかなと思ってたんですよ。ただ、早稲田大学の講演に、マキさんと一緒に呼ばれたことがありましてね。漫研の学生が実に計算高くて、「これぐらいお払いできます」とかいうんです。ボクは思わず、「えッ、もらえるの!?」。そしたらマキさんが横でつっついて、「物欲しそうな顔をするんじゃない」って。（笑）

長井　自分でいうのもなんだけど、「ガロ」っていうのはあくまでスタート台だと考えてほしいわけよね。ゼニカネじゃなくてさ。

林　実際、「ガロ」はデビューの舞台だというのは、暗黙の了解としてありましたよね。

長井　ところが、林君やマキさんの時代とは違うんだな。今じゃあ「一ページいくらいただけるんですか」っていうのがたまにいる。俺はね、「あんた、ガロの読者じゃないの？」っていってやるわけ。さすがにムカッとはしないけど、ちょっと抵抗は感じてさ。（笑）君は「ガロ」二〇年の伝統を崩すつもりか、なんて。（笑）

南　ボクは新しい漫画家が来ると、とにかく「ガロ」で一回描いてみなさい、といったのね。勉強してる編集者は必ず読んでるから、そういう人が頼んでくるかもしれない。「ガロ」にこだわることはないんだ。一回やって、面白いものが描けるようになったら、原稿料をキチンとくれるところにドンドン描けばいい。いつもそういってたんですよ。

『家族ゲーム』は「ガロ」の世界

長井　手前味噌になるけど、「ガロ」でやってきたことっていうのは、世間のテンポよりいつも何年間か早すぎたって感じがするんだ。

林　それはありますよ。馬でいうと、手綱をグーッと突っ込みすぎてるみたいな。

長井　昔ね、赤塚不二夫さんの『おそ松くん』を出版したことがあるんだよ。

南　青林堂で？

長井　うん、どこよりも先に目を付けて、五冊出したわけ。

林　初めて聞いた。

長井　ところが、これが全然売れないんだ。まるで儲からないのよ。なのに、それから五年ぐらいたって曙出版というところが出したら、ものすごい売れ行きでね。アッという間に、ビルが建っちゃったくらい。

南　五年早かったわけだな。

長井　俺って、いつもそうなんだよ。だからこのごろね、「こんな漫画、どこが面白いんだ」なんていわれるとさ、「三年先を見てなさい」なんて胸張って答えちゃう。ヘンな自信だけどさ。（笑）

南　長井さんて人は、つくづく不思議な人だと思うんだよな。いまフリーになって、送っていただく「ガロ」を読むでしょう。ボクの知らない新人がドンドン描いてるんだけど、なかなかスッと入れないというか、どうしてこんなものを載せるんだろう、という感じ

長井さん
本当に色々ありがとうございました
私の父の遺作展にまでわざわざ郡山に来て下さったこと忘れません
芳賀由香
これからまた少しずつ描きますね
さようなら

●イラスト／「長井勝一氏を偲ぶ会」寄書きより

があったりするわけ。ボクは自分を、かなり柔軟性のある人間だと思ってたわけですよ。新しい面白さというのがかなりわかるんじゃないか、と。でも、やっぱりダメなんですね。長井さんの度量というか許容量は、いったいどれほどのものなのか。本気で考えちゃうんだな。

林 なにしろ、それを二〇年も続けてるんだからねえ。

長井 だけど、そういう南だって、糸井重里さんとか湯村輝彦さんなんかを十年も前に起用したものな。フォーク歌手の泉谷しげるさんに七本も漫画を描かせたり。

南 いや、ボクの場合は自分が面白いもの、自分の好みというのに限定されてたわけですよ。枠が決まっちゃってるわけね。実際に「ガロ」にいたときも、たとえば新人の作品に対して感想をいうとき、長井さんのほうがはるかに自由なんだな。

長井 それはわからんけどね。

南 たとえばほら、川崎ゆきおさんて人がいるでしょう。かなり進歩的な編集者でも一度は見送りたくなる人。絵がメチャクチャにヘタなんですよ。

長井 でも、面白い。

南 そう、そうなんですよ。こういう新人を認める決断力というか、度量がねえ……。

長井 こないださあ、『家族ゲーム』って映画をみたのよ。

林 森田芳光監督の。

長井 うん。で、スクリーンを見てるうちに、なんだか妙な気分になってきた。これはもしかしたら、「ガロ」でやってきた漫画の世界じゃないか、と。ワンショット、ワンショットが、俺がいろんな漫画家の作品に見てきた世界なんだよ。おかしいな、おかしいなと思ってたら、あの人、「ガロ」の大ファンだったんだってね。

林 あの監督が?

長井 うん、森田芳光が。若いときから読んでてくれたらしいの。あの映画を見ててね、気持ちがピタッと合うんですよ。これは絶対漫画を知ってる人だぞ、って。で、俺は一緒にいた女の子に……いや、一緒にいた人にだねえ……。(笑)

南 いい直さなくてもいいじゃない。

長井 活字に残るからさあ。(笑)ま、とにかくそう思った。(笑)そしたら今度、「二〇年史」に文章を書いてもらって、ファンだったことがわかったわけさ。やっぱり俺の感じは間違ってなかった。励ましというか、ひとつの勇気になるよな。

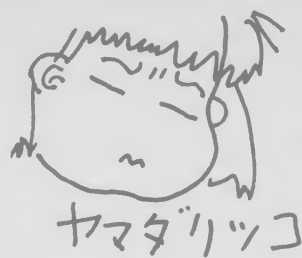
林 かつての「ガロ」ファンには、そうそうたるメンバーがいますよ。とくに〝隠れ「ガロ」ファン〟というのがクセ者なんだ。

南 ボクが編集してるときでも、たとえば湯村さんに漫画描いてもらったらどうなるかなと思っても、なかなかきっかけがつかめなかったんですよ。どうにも行きづらかったわけだけど、回りから話を聞いてみると、湯村さんは昔から「ガロ」を読んでてくれたことがわかった。そういうことって、すごく多かったな。

林 あるパーティでね、フォークのさだまさしがマイク持って近づいて来るんです。すごく緊張した顔でね。何かと思ったら、ぼくは学生時代、「ガロ」を読んでました、って突然ボクにインタビューするんですよ。驚いちゃってね。ミュージシャンの松本隆とか、ハッピーエンドとか、YMOとか、みんなファンだったんですよ。

長井 なるほどねえ。

林 だから、森田さんが「ガロ」を読んでたと聞いても、さもありなん。映画をみた感じとつなげてみると、興味深い組み合わせがけっこうあるんですよ。たとえば、長谷川和彦監督はつげ義春の大ファンだった。

長井 『青春の殺人者』を撮った監督だろう? 面白いねえ。

●イラスト／「長井勝一氏を偲ぶ会」寄書きより

南　作家の村上春樹はボクよりちょっと年下なんだけど、佐々木マキさんの大ファンで、自分の本をマキさんに装丁してもらったりね。

長井　名もない読者にも、ホントにありがたい人がいるよ。なにしろ自費で「ガロ作品総目録」を作ってくれた人がいる。

南　青林堂のズサンさをよく知ってるわけだね。（笑）

長井　同好の士に配ったというんだけど、百万円かかったというものね。奥付けには、「この印刷物は内容の全部または一部を自由に転載・引用してもかまいません」と書いてある。

林　泣かせるなあ。（笑）

漫画バカの思い出

長井　「二〇年史」を作りながらつくづく思ったのは、楠（勝平）さんにもう少し生きてててもらいたかったこと。白土三平さんのただひとりの弟子なんだけど、若くして亡くなったからねえ……。

南　ボクも楠さん、印象に残ってますね。死ぬ直前に原稿を取りに行ったら、コタツに入ってまして。小さい、汚い部屋なわけですよ。下町の、目の前を電車がガタガタ通るアパートの一室でね。ものすごい病気で、たまに漫画を描いてカツカツに生活してた。

長井　まさしく早逝の天才だよ。心臓病でガリガリにやせた身体で、ほんとに素晴らしい漫画を描いたもの。それから時々、豊島雅男君のことを思い出すわけよ。

林　水木しげるさんのところでアシスタントをやってた？

長井　そう、林君と同時に「ガロ」に入選したはいいが、その後、伸び悩んでね。おまけに結核を患ってた。俺は何度もいったんだよ、生活保護を受けて、国の援助で病院に入れって。でも、豊島君は決心がつかない。ある日彼は、睡眠薬と酒をいっぺんに飲んでね、新宿御苑の池に頭を突っ込んで死んじまった。漫画バカっていうのか、「ガロ」にはそういうやつもたくさんいたわけよ。

南　「ガロ」で仕事してたときの人間関係というのは、いろんな意味で特別ですね。フリーになって、いちばん最初に仕事を回してくれたのは荒木（経惟）さんとか、嵐山（光三郎）さん。「ガロ」で知った人たちなんです。今のボクは、やっぱり「ガロ」抜きには考えられないんだな。

長井　俺はかなりイージーに思うわけ。どんなに困っても、「ガロ」にかかわってたやつが誰か救ってくれる――。

林　「ガロ」から出たやつは、ハラハラしながら互いに見守ってるという感じがありますよね。ボクが映画を撮ったとき、嵐山さんに「どうして俺を出さねえんだ」と叱られまして。ああ、そうか、これはつまり家族意識なんだ、と。

南　それはあるな。

林　逆にいうと、親族のうとましさもあるんです。こっちは祝儀出したのに、どうしておまえはよこさない、みたいな。

南　だれかが出版記念パーティやったりすると、たいへんなんだ。だれを呼んだの？　誰が来たの？　ってね。ボク、面倒臭いから、一回も出版記念会やってない。（笑）

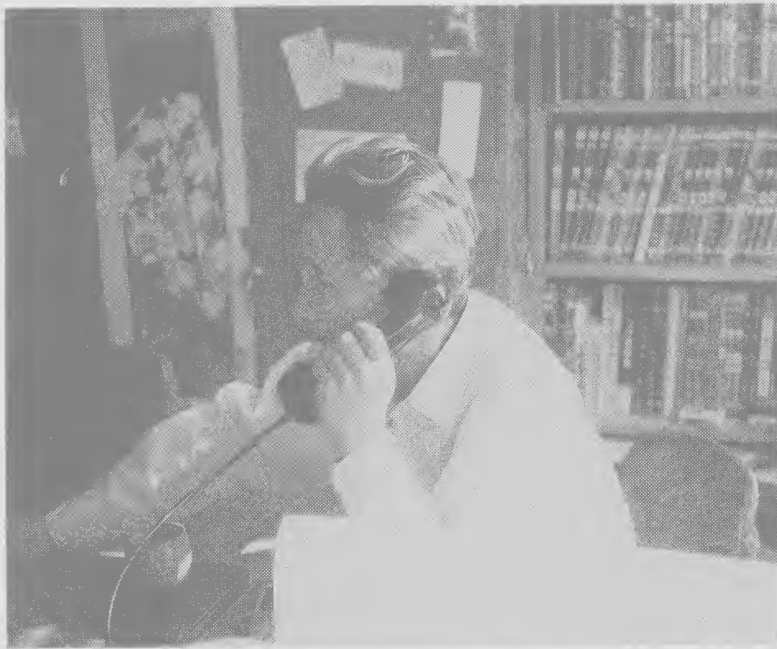
長井　長男から次男から全部呼ばなくちゃならないものな。

林　やっぱり家族ですよ。

南　そうだね。お互いにどうしようもないと思いながらも、やっぱり家族。

長井　借金すでにン千万円。（笑）やっとこさ二十年続いた家族ってわけだ。

【「文藝春秋」85年5月号より再録】

長井勝一インタビュー

「ホントに好きじゃなきゃ漫画家にはなれないよ」

◆約30年もの間、毎日のように投稿作家を見続けてきた長井会長が、久々に誌上でアドバイス。漫画家を志す若者よ、刮目して読めっ!!

1975年頃の長井会長

——現在でも投稿者が多いんですが、長井さんに原稿を見て欲しい、という人が多いので、今回は誌上で投稿作家へのアドバイスをお願いしたいと思いまして。

長井　最近はどう？　熱心な人は来るかね？

——勿論熱心な人もいますが、とりあえず漫画家にでもなってみようか、という人も来ますよ。それで「どうしてガロに投稿しようと思ったんですか？」と聞くと「いや、ガロは読んだことありません」って平然と言います（笑）。それで見ると、レポート用紙か何かに、ボールペンで殴り描きしたようなものを出して、それが原稿だって言うんです（笑）。

長井　困ったねぇ（笑）。ホント気軽なんだね。そこらへんにお菓子を買いに行ったり弁当買いに行ったりするのとは違うよね（笑）。漫画を描こうとするなら、将来漫画家になりたいっていう原点があるワケなのに、それもないで、漫画もキチッと描いてない。それで出版社に訪ねてこられたって、ガッカリするしさ、正直いってバカにするなって思うよなぁ。やっぱりどこの出版社の社員も、プライドてえのがあるからね（笑）。

——まず、自分が投稿しようとする雑誌くらいは見て欲しいですよね。

長井　ある程度読んでさ、その雑誌がどういう方針でどういう方向に向かっていて、どんな読者層を抱えているのか、くらいは研究しないと。どこの雑誌にだってそれぞれ特徴があるんだから。そういうのもわきまえないで、メチャクチャに来たって、相手にできないよなぁ（笑）。

——そういう人は昔からいたんですか。

長井　いやあまりいなかったよ（笑）。どんなに未熟であっても一応漫画を描いてきたよ。それに真剣な人は一目でわかるからね。もうブルブル震えて緊張してるから。それだけ自分が熱を入れてかいたものだからね。

一年以内のものだったら一本見りゃもう充分。

――一本描くのに、一日や二日の作業じゃないですからね。

長井　長いことかかってやっと完成させた作品だからね。でもボールペンで描いてこられちゃかなわねえなぁ。冗談じゃねえよな（笑）。

――それで「見て下さい」といわれても、思わず顔の方を見てしまう（笑）。

長井　問題はさ、ちゃんと描けるか描けないかにあるんだから。やっぱり載せるからには、経験が深いか浅いかは別として、漫画家として載せるんだからな。要するにこっちは漫画家になれるかどうかを見極めるんじゃないのね。漫画雑誌に載せられるかどうかを見るんだから。その先どうなるかはその人次第だしね。それにどんなジャンルの漫画にしろ、キチッと描くという一番しんどい所を抜いちゃって、それで「どうですか？」と言われてもなぁ、どうでもないもんな（笑）。漫画家なんて誰でもそう簡単にできる商売じゃないんだよ。

――あと、一度に何本も作品を持って来る人もいますけれど、長井さんは「一本みればわかるから、あとは見ません」ってよく怒ってましたよね（笑）。

長井　作品っていうのはさ、一年くらいじゃそう変わらないんだよ。だから俺は「いつ描いたの？」って聞くのね。で、一年以内のものだったら一本見りゃもう充分。一年以内に描いたものでそれが雲泥の差だったら、そら大天才でしょ。でも大天才なんて滅多にいないから（笑）。でもね、こういう場合もある。一本見て「あ、いいね、だけどちょっと物足りないな、それは何か？」と思ったとき、もう一本を見せてもらって「ああ、あなたの欠点はこういうところにあるんだ」って捜し出せることもある。でもね、一本見ればわかるワケ、粗方。

――じゃ、投稿する人は、自分で一番いいと思うものを選んで来るのが一番ですね。

長井　そういうこと。問題は量じゃないからね。質だから。だからどうやったら質のいいものを描けるか、いろいろ考えて勉強しなきゃいけないよね。漫画をやるんだってさ、例えばAとBという人を登場させて絡み合わせるとしたら、それぞれの家族構成や、どんな町のどんな家に住んでいるかとかさ、高校生ならどんな学校に通ってて、同級生はどんなやつとか、そういう基盤をキチッと開いておかなきゃいけないでしょ。それからストーリーを作っていくワケだから。まず固めるものをちゃんと固めて、という基本的な作業は、漫画家はみんなちゃんとやってるんだよね。

イラスト：渡辺和博「ハードキャンディ」より

――設定は基本ですからね。

長井　俺ね、（白土）三平氏に関心したのはさ、ある農民の娘が美人で、家老の息子と恋仲になって、でも殿様に犯されて、気が狂って死んじゃうって話を描いたとき、娘の父親の鼻を「ちょっと鷲鼻ふうにしとこうか」って言うんだよな。昔は美男子だったってわかるようにね。要するに美男でなければ美女は生まれないってことだよね（笑）。そこまで考えるわけだよ。そうでないと話の筋が嘘っぽくなってしまうって言うんだよな。そういう所も疎かにしてないのね。でないと長編なんかを描く場合困るから。

――そうなると、当然資料も必要になってくるワケですよね。

長井　膨大な資料がいるね。でも気をつけなきゃいけないのは、それにのめり込んでしまうと、抜け出せなくなるんだよな（笑）。でもね、資料と言ったらその大家は水木（しげる）さん。あんな立派な人はいないよ。物凄い量の資料を持ってて、しかも各資料がどこにしまってあるかっていう記憶力もすごいの。ただ集めてるだけじゃないんだよ。

――適当に描いてると思われがちですが、みんなちゃんと調べているんですよね。

長井　やっぱり勉強することも才能だからな。だからいい加減なことかいてくるやつは勉強する才能もないんだよ（笑）。才能のある人は、何かに関心を持つと、探求心が強いから、どんどん詳しくなっていくでしょ。そういう入れ込みがないとダメだね。それに、関心があることだから、本人もやってて楽しいんじゃない。好きこそものの上手なれでさ、やっぱり好きじゃないとダメだと思うね。

――長井さんは投稿者へのアドバイスとして、よく「映画を観なさい、本を読みなさい」と、盛んにおっしゃってましたけれど。

長井　要するにものを作り出すのは感性の問題だからね。感性を磨け、ということですよ。映画でも、ここがよかった、あそこがよかった、て観ていると、段々鋭くなってくるからね。例えば骨董なんかもそうなんだけれど、大きな骨董屋に弟子入りすると、毎日毎日本物を見せられるんだって。偽物は絶対に見せないらしいよ。壺なら壺、雪舟なら雪舟をね、一日中ジーッと見てるの。そうすると、偽物が来て、それがどんなに上手く出来てても、どこか違うって一目でわかるようになるらしいよ。いいものばかり見てるから、いつのまにか偽物は寄せ付けないようになってるんだよね。

――なるほど。

長井　勘だよね。感性は世間で言う教養だから。自分なりに受け止めて、それを咀嚼して栄養として吸収できるかどうかだからね。だからいいものを作るには、自分自身がよくなっていかないと、いいものはいつまでたってもできないワケ。だからね、自分の感性を高めるために映画を観たり本を読んだりしなさい、て言ってたのね。接しているうちに、どんどん面白いと思うことが発見できて、そうすると、人間、貪欲になってくるからね。ある監督に興味を持ったら、じゃ、ほかの作品も観てみよう、ってなるでしょ。それを繰り返していると、もっともっと興味が深まって、力がついてくるでしょ。そこまで行くには感性の問題が大きく拘わってくるから。それは漫画であれ骨董であれ、なにか一つものにしようと思ったら、必要なことですよ。

――今は漫画の市場も拡大してるし、漫画家を希望する人が後をたたないので、そういう場所で仕事をしようと思ったら、たくさんの人の中から選ばれなきゃいけないわけですから、大変ですよね。

長井　大変だよなぁ。だから才能のないやつは、もうどうにもならんよ。やっぱりね、才能のある人は、どっか一つ他人より抜きん出ているものを持ってるよね。同じ漫画家でも皆どこかそれぞれ違ってさ。でもそれぞれ感性は鋭いね。

――同じものを見ても、人が気が付かないような所をよく見てますしね。

長井　見えないのは感性が低いからだよね。だから目に触れてこないんだよ、肝心なところが。見えない人が見るとただの石ころなんだけれど、見る人が見れば玉なんだよな。昔からいうだろ、〝目のより所は玉〟ってさ（笑）。で、その目は鋭いんだよ。興味あるものには集中して見てるってことでしょ。

――だから、逆に無駄なものはすぐにわかるんですよね。

長井　そうそう。だから無駄なことはしなくなるんだよ。

――若い人の中には、何に興味をもったらいいのか、なかなか定まらない、という人もいるんですが……。

あまり焦らない方がいいよ。だって俺だってさ、ガロ始めたの43の時だもんな。

1991年 水木しげる氏と

長井 深い意味でいったら、人間ってある年齢になるまでは、なかなか思い定まらないもんだよ。あーでもない、こーでもない、っていろいろ試行錯誤してさ。だからあまり焦らない方がいいよ。だって俺だってさ、ガロ始めたの43の時だもんな。だから30年たったら70になっちゃったんだよ（笑）。だから、俺よく言うんだよ、「慌てるな」って。気がついてからコツコツ始めたって60くらいまでには何とかなるんだから（笑）。

――なんだかえらく重みのある言葉ですね（笑）。

長井 いやホントだよ。20年やったらなんらかの形になってくるんだから。だから今まで好きなことやってたから、これからは一つに絞って、キチッとやっていこうて、それだけでいいんだよ。自分の決めた仕事を精力的にやればいいの。でも漫画家とかは、いくら一生懸命やっても才能がなきゃダメだけれどな（笑）。

――それに、世の中に作品を発表するワケですし、また周りがみんなライバルになってしまいますから、精神的にもキツイ仕事ですよね。

長井 それはでも仕方ないよな。自分で選んだ仕事だし、好きなことで飯食っていける分、それなりにキツイことは覚悟しなきゃ。だからこの世界で食ってる人はみんなそれなりに強いよね。世間でどうこう言われたって、頑張ってやってるよ。そんなことみんないちいち言わないけれど、並大抵では乗り切れない道を歩んで来てるよね。

――それに漫画家っていうのははたで見てるよりずっとジミな仕事ですし。基本は一人でコツコツと、ですから。長井さん、よく「あなたは一日中机にむかうだけの忍耐力がありますか?」って聞いてましたよね（笑）。

長井 ホント、根気がないとできない仕事だからさ。だからやっぱり基本的に好きじゃないとできないよ。ただ人気者になりたいとかじゃねえ（笑）。それに、描いたものを他人が読んで「ああ、面白い」って思わせなきゃいけないしさ、感動させなきゃいけないんだから、大変な仕事だよ。よくさ、やたらデカいテーマで描いてくる人いる

でしょ。いくらテーマがデカくたって、中身がスカスカじゃ面白くないてえの。それで「どうですか?」て聞かれたってなぁ、結局漫画って全体的なことなんだから申し訳無いけど「面白くない」としか言いようがないんだよな（笑）。

――あと、投稿者からよく相談されるんですが、友達なんかに見せると「誰々のマネだ」といわれて気にしてる、という人がいるんですね。

長井　マネは悪くないよ。その作家が好きだからそうなるんだから。ま、全部マネはダメだけどさ、それこそ盗作になっちゃうからさ（笑）。

――あまり気にすることはないですよね。

長井　ないない。ずっと描いているうちにそこから抜け出せるんだから。セミと同じだよ（笑）。だってみんなマネから始まるんだからさ。手塚（治虫）さんだってディズニーのマネから始まったし、手塚さんが出てからは、みんな手塚さんのマネだったしさ。要するにお師匠さんだから。で、お師匠さんの絵を見て勉強して、それで後からちゃんと自分の絵柄が出来てくるもんなんだよ。自分の作品をよくしようと思ったらさ。だから友達に言われても、あまり気にすることはないと思うな。

――要は自分が漫画を描く意味があるかどうかってことですよね。ホントに好きで、なんとかこの世界でやってみたい、という気持ちがあるかどうか、ということですね。

長井　そうだよ。そのくらい強い気持ちじゃないと、最初からやらない方がいいよ（笑）。昔、貸本時代の頃なんかさ、みんな家出して漫画家になったんだから。今とは違って、当時は漫画家になるなんていったら乞食になるのと同じだったからな。

――勘当ものだったんでしょ（笑）。

長井　そうそう（笑）。言ったら怒られるからさ、黙って家を飛び出してね。そういや、むかーしさ、会社に「お宅にウチの息子が行くはずだから、来たら捕まえておいてくれ」ていう電話もあったんだよ（笑）。「今、兄貴と伯父さんがそっちに向かってるから、つくまで捕まえておいてくれ」って。セミじゃあるまいしなぁ、あんときゃまいったよ（笑）。でもそういう時代だったんだよ。昔は漫画家は食えなかったからね。だから食う食えない以前に、好きだからなったんだね。ただ描きたい、本に載りたい、ただそれだけの情熱で当時の少年は家を飛び出してたんだよ。

――もう無我夢中ですね。

長井　だからさ、そういう人達が集まると、「今度は誰々がこういう風に描いてた」とかよく話てたよ。「さいとうたかをがこんな風に描いてた」とかさ。こっちなんか聞いてると「たいして違わないじゃないか」なんて思うんだけど（笑）。でも彼らにすれば新しい世界が広がっていくわけだから、熱心になるんだね。

――そういう強い情熱を持っている人はすぐ分かりますよね。

長井　うん、わかるわかる。目が真剣だし、こっちの話も真剣に聞いてるよ。殴り書きを平気で持ってくるような困ったやつとは全然違うね。

――まずそこで分かれますね（笑）。

長井　そうだね、そして好奇心と探求心が旺盛でさ、ある意味じゃどこか図太くないとダメだよな。たとえペンネームだとしても、自分の名前を出して仕事をするわけだから、どんなジャンルの漫画家であっても、潰れずにやり続けるということが、どんなに大変なことか、そしてそれを自分がやる気があるかどうかが問題なんだよ。この職業をあんまり軽く考えないほうがいいと思うよ（笑）。

――そうですね（笑）。それにガロは、まぁ、ちょっと特殊な雑誌ではありますから、投稿するときはそのことも踏まえてこられた方がいいですね。

長井　ちゃんとガロを読んでね（笑）。俺は昔から、ガロは実験の場になれば、と思っていたからさ、これからも若い人にどんどん実験して欲しいよね。まだ青い果実がさ、どんどん美味しくなっていくのを見ているのは楽しいしね（笑）。

1992年 年末、大掃除の日に

●収録／1995年8月8日／文責・編集部

月刊ガロ1995年10月号掲載

青林堂創立三〇周年記念「♥今月の長井勝一」・スペシャルバージョン

長井勝一の人生航路

長井勝一青林堂会長

コレが青林堂の入口

「ストマイ」射って遊興三昧

——今月号は青林堂を始めて三〇年という事でお話を聞きたいんですが、長井さんの『ガロ』や漫画編集に関する事というと、インタビューや長井さんの本（『ガロ編集長』）で語り尽くされてると思うので、まあざっくばらんに他では聞けない雑談みたいな感じでお願いします。

長井　はいはい（笑）。

——青林堂を始めた頃の話ですが、例えば「青林堂」という名前は何か意味があってつけたんですか。

長井　別に何もないけど。

——青い林にお堂、というのはじゃあ初めから決まっていた、と…。

長井　いや俺が決めたんだけど。

——決めた時は何かヒントみたいなものがあったとか。

長井　別に。

——(笑)あ、そう……。その時はもう退院していたんですか。

長井　いやいや入院中だったよ。だから俺よりも、うちの姪っ子とか、姉さんなんかが最初は実際の仕事はやってたわけね。それで俺が病院から一週間ぐらい出てきて、指示やなんかを与えて、また病院へ戻る、というね。

——じゃあその頃社員というと全員親族で。

長井　そうね、だから俺と、姪っ子と、姉さんと、香田さんと。最初は25万円で会社できるからね。今の25万円じゃないからね(笑)。当時大学出で初任給…一万円くらいだっけ？

——勝浦は小金井で手術した後ですよね、それよりずいぶん前の話ですけど、戦後すぐ結核で喀血して、その後大喀血するまでずっとストマイ（ストレプトマイシン）を打ち続けて、遊んでたという。

長井　いやあ、あの頃はストマイが出来たばかりで神様だったからね。結核を直す薬なかったから。これ射ちゃあ大丈夫だ、と物凄い過信したわけ。だからね、確かに治まったんだよ。だからその時にもう少し安静治療すりゃあ良かったものを、治ったと勘違いしたから。「もう大丈夫だ」てんで今まで遊んでたのに輪かけて遊んだからすぐだよ。だからその頃は金持ってたからね。ヤミで一本三万円したからね。俺当時で百五万円貯金持ってたからね。当時の金にすりゃ大変だよ。それで俺は百万円かけてヤミでストマイ買って射ってたんだよ。普通の人はストマイなんか射てないからね。

——肋骨を取ったのはずいぶん後ですよね。

長井　そう、そうやってストマイで駄目で、京都行って入院して、出てきてまた酒飲んだり遊んだりしてまた駄目になって、小金井の病院に入院して、そこで手術したんだよね。

——あの当時の手術法というと当時始まったばっかりのですよね。

長井　あの当時の主流はピンポン玉埋めるやつだったの。でピンポン玉はまずいんじゃないか、と(笑)。で、骨を取っちゃって、肺をペシャッと潰してしまえば、酸素入らないからね、酸素無いと結核菌生きてられないから、と。で、そんなの入れるんで肺開けるんならいっその事骨取っちゃっても同じだ、て事でね。で、背中切って、開けて、骨をこうパチンパチンとペンチで折るんだよ。

——何本くらい取るんですか？

長井　俺七本。軽い奴は六本(笑)。だから俺今こっち（左）の骨無いんだよ。だからこっちの手の方がおっこってるから長いんだ。こないだ医者行ったら体がこっちへかしいじゃってるから心臓はこっち（右）へ寄って来てるって訳ね。心機能が衰えてるって。正常のところに正常な状態で運動してないから。

——青林堂を始める時には『ガロ』という雑誌の事は考えてたんですか。

長井　いや途中でね。その後で。白土さんの「忍法秘話」とか「サスケ」とか、そういうのを出してるうちにね、白土さんが「長編あるんだけど」って事でね。白土さんも貸本で読んでもらうよりは雑誌みたいな形態でやれないだろうか、と。やっぱり一人でも多くの人に読んでもらおう、てのが主旨だからね。ま彼も原稿料は無くていいし、こっちも儲けなんか無くていい、という事が出発点だったからね、そういうのが基本になっちゃってずーっと貧乏になっちゃった、って事ね(笑)。

——資本主義に逆らって。

長井　そうそうそう、だから儲けより自分たちがこういう姿勢で、世の中もこういう風になってほしい、という願望の方が金を設けるより大きかったからだと思うよね。

三平さんとは「同志」という関係

——月並みなんだけど、青林堂をやって良かった事、ってありますか。やっぱり潤った時は良かったと思うけど。

長井　潤ったよりさ、本が売れた時の方が嬉しいでしょ。

——たくさんの人に見てもらった、という。

長井　そうね。それはやっぱり三平さんの力である事に間違いはないけどね。だから三平さん（カムイ伝）が終わった時でも一年くらい…まあ二年くらいで第二部をやる、っていう予定だったから、それでお互いが納得してたから。だからあのまま続けてた訳ね。それが色んな事情があって、だんだんだん出来なくなっていった、というね。

——それは長井さんとすれば心残り、というか。

長井　そんな事ないね。状況ってのはさあ、要するに五つの子だって三年もすりゃあ小学校三年になるという、状況を読めなかった訳ね。いつまでも青年でない訳よ。心意気だけで人間生きていられない訳な。回りに嫁さんが出来たり、子供が出来たり、やっぱり社会基盤を段々お互いが広げていけば、それなりに煩わしい事とかいろんな事が出てくる。一本槍にね、気持ちだけでとか、やってくって事は出来ないよね。出来ない。それが段々分かってきて…三平さんだけだったらやるよ、あの人の事だから。でも三平さんにだって家族もいれば親兄弟もいれば、そういう人達の意向ってのも考えにゃならんし、いつまでも貧乏でいい、って訳にもいかないし。

——長井さんと白土さんというのは、やっぱり友達というか…友情関係。

長井　そうだね、うん。俺と三平さんは「同志」というのがあるだろうし、そんな事ね、照れ臭いから言わないだけであって。

——そうですよね。一番苦しかった事というと、やっぱり今回松田さんの文中にもありましたけどいつ倒れてもおかしくないと言う……

長井　うん、いつ倒れてもおかしくないの。ただ段々だんだん所帯がね、最初貸本に毛の生えていたような状態から発行部数が増えてきたりすると、回りに対する迷惑よ。一番嫌だったのはね、万が一自分が潰れてた場合に、回りも潰れる可能性が大きかった時期があったから。すごくそれがあったよね。それに心筋梗塞で入院してみたり、胃潰瘍で入院してみたり、とそういうストレスもあったよね。

——話戻りますけど、山師目指して大陸渡った、って伝説があるけど（笑）。

長井　やっぱり鉱山だよね。鉱山を見っけて、てのがあったね。あ、でも大陸渡ったのは違うよ。鉱山の会社に入ったんだから。サラリーマンね。それを足掛かりに向こうに行っていろんな事をやってみたい、と。でもやっぱり囲われちゃうね、「社会」ってもんに。なかなかそうは行かないね。だけど普通の人は本社に勤めたら現場にゃ行かないよね。でも俺は自分から率先して現場、鉱山の鉱業所へ出掛けてったからね。

「モーゼルのカッちゃん」伝説

——長井さんというと「モーゼル」（拳銃の名前）ってのが出てくると思うんスけど（笑）、モーゼルはいつ頃手に入れたんですか（笑）。

長井　満州にいた時はずっと持ってたよ。鉱山に居た時ゃ。

——軍から…。

長井　いやいや会社に置いてある。

——日本に帰って来る時はこっちに持って帰ってきたの？

長井　いや、こっちで調達したの。もういっくらでも調達出来たからね（笑）。軍人がどんどん引き揚げて来るでしょ、お郷里がある人は帰ってくけど、東京は焼け野原でしょ、親族がどうなってるかなんて分からないわけ。で焼け跡に、生きてる人は「何処どこにいる」って書いておくわけ。札が立ってて。そうするとそこへ行くでしょ。でも一家全滅しちゃった人は帰るとこが無い。頼りにするとこが無い訳だから、そういう人達は皆盛り場へ集まって来る訳よ。そうしてそこで持ち物を少しづつ売って行くわけ。そのうちヤクザになったりね。

——その当時モーゼルって幾らくらいでした。

長井　いくらだったっけなあ。……百二十円くらいか。昭和20年だからね。21年か、21年の二月頃だから。

今年春に香田さん、山中社長と

――その頃モーゼルを買った。

長井　いやあその頃はいろんなピストル三丁くらい買ってたよ。

――それは護身用に。

長井　いや売ったり買ったり。その時何やってたかというと、時計屋だから。時計こう並べとくと、田舎から百姓が一杯出て来る訳よ。そいつら金持ってるんだから。ヤミ米売って。で、時計が無いから買ってくわけよ。引き揚げ者やなんかは来て売る訳よ。中には色んなもん持ってくるの。タイヤやら何かを。そうしてそれを地べたに置いとくと、浅草だから露店がこう何百軒もバーッと並んでるでしょ、で人が集まって、見てくわけ。で値段が合えば買ってく訳よ。色んなもん出るね、闇市だから。何でも出るよ、煙草でもなんでもね。食べ物は食べ物で別の所にあったから食べ物はなかったけどね。俺がいたのは伝法院の真ん前だったから。こっちは区役所でね。銃なんかも「買ってくれよ」って言う訳よ。その頃はヤクザなんて銃持ってなかったからね。

――その頃銃を欲しがるのはヤクザが多かった。

長井　うん、でも欲しがるのも居る訳よ。田舎の百姓みたいのが。「拳銃ない?」なんていうと「あるよ」なんて言ってね。でも一年くらいで止めちゃったよ。で、止める時全部あそこへ…荒川放水路へ捨てちゃったよ。すぐそば、北千住に住んでたから。

――皆そこへ捨てちゃったんですか。

長井　いや俺は二丁。

――実際撃った、というのは…。

長井　撃ったよ。皆で拳銃持ってても「撃った事ねえ」なんて言ってるから「撃ってみるか?」って。で、向こうにある木のとこへね。けっこうでかい音するからね、あいつら皆逃げたよ。バーッ、って。

（爆笑）

長井　満州で撃ってたからね。

――ピストルって…返さなきゃならないんですよね、戦争終わったら。

長井　（笑）だっていい加減じゃねえのそんな事言ったって。いや部隊長がしっかりしてたとこなんてちゃんとしてたろうけどさ、そのまんま部隊長が逃げちゃった、て部隊が一杯あるんだから、戦争犯罪人になるの嫌だ、つってさ。隊長が皆逃げちゃったら後はもう勝手じゃねえかよ（笑）。だってトラック持って帰った奴だっているんだから。

――トラック！（爆笑）

長井　トラックに軍の物資を積んでね。そういう奴仙台に居たんだから。

ヤミ屋、輪タク屋、取次、バァ、出版…

――長井さんのそういった話は筑摩書房のあの本（『ガロ編集長』）で分かるんですけど、バア開いた事ありましたよね。違法建築だった（笑）。

長井　うんうん。木造の三階建てだったからね。そういう決まり知らなかったからね。

――長井さんお酒好きじゃないですか、自分も出たんですか。

長井　出ないよ。

――オーナーという事でやらせて…。

長井　年中居る訳じゃないしね。

――それは儲かったんですか。

長井　いやいやそんなに儲からないよね。

――カウンターだけ、みたいな。

社窓から

長井　そうそう。

——どこにあったんでしたっけ。

長井　雷門のすぐそば。雷門の前をすぐ入ったとこ。

——あれ…あれはやらなかったんでしたっけ？タクシー屋。

長井　ああ、あれは終戦直後。タクシーったって輪タク屋だよ。一年くらいかな、北千住で。あの辺に色んな奴帰ってくるじゃないの、そういうの集めて。後ろに二人乗せて、前で一人こいで。

——…長井さんあとずーっと前に聞いて覚えてるんですけど、役者になりたかったって言ってたですよね、コメディアンというか。弟子入りまで行ったんですよね。軽演劇ですか。

長井　軽演劇だよね。

——浅草の六区にあるようなやつですか。いくつぐらいの時ですか。

長井　十七の時かな。浅草によく観に行ってたからね。

——当時だとエノケンとかロッパとか。

長井　そうそう、でも劇団も沢山あったからね。

——舞台に出るのが好きだった、とか。

長井　そんな事ないけどね。あこがれだよね。見てるうちにね。やっぱり漫画見てると漫画描きたくなるじゃないか。後先考えずにさ（笑）。それだけのこったよ。

——何で断られたんですか。若いからですか。

長井　…とにかくね、まともな人間のやる事じゃないよ（笑）。何でもさ、最初は断るんだよ。で何度も何度も来るような奴でないと駄目なんじゃないの。でないとさ、すぐ止めちゃうから。出たり入ったり面倒臭えじゃねえの、向こうもさ。

——長井さん何回も行ったんですか。

長井　いいや一回だけ。

——その頃よく歌舞伎とか落語とかよく見たんですよね。

長井　その後だね。その頃だって映画観るのが好きだったね。そういうのよりも。

——当時だとどんな…もちろんトーキーですよね。

長井　色んなのやってたよ。日本のも外国のも。トーキーは…トーキーになってたね。弁士の時も観に行ってたけどね。

——（笑）じゃあかなりもう映画ばかり見られた、というか。

長井　何で見られたかというと、うち饅頭屋やってたから、映画のビラ下げるわけよ、そのおしまいにのとこに券くっついてるじゃねえかよ、ビラ下に。でケチな親たちだからよ、日にちが近くなるともったいないから観に行け、って（笑）。で親は働いてるから俺がいっつも観に行ってたんだよな（笑）。

——そういう意味では恵まれた環境下にあった、という（笑）。

長井　映画は観られたね。あれは有り難かったね。

——観ようと思ったら金取られるからね、やっぱり。

長井　そりゃあそうだよ、子供五銭大人十銭だもん。

塀がこっちへ寄って来る

——あと、長井さん途中でぐゎらん堂とか出入りしてた頃にフォークにのめり込んだ、って言いますよね。京都…大阪の天王寺だっけ、あれ見に行ったりしてましたよね。

長井　うんうんうん。「春一番」ね。

——長井さんち行くと歌謡曲とかいっぱいあるけど、フォークではどんなの聴いてたんですか。

長井　大塚まさじとか好きだったよね。でも好みが何だって言われたって困るけどね。ボブ・ディランなんかもね。見に行ったね。でもありゃああんなとこで見るもんじゃねえよな。武道館の一番上の方なんて、もう。馬鹿馬鹿しい（笑）。

——長井さんぐゎらん堂ずいぶん行ってたよね。

長井　行った行った。面白かったね。雰囲気が。行き場のない奴の溜まり場になってたよね。翁二とか安部慎とかも来てたし、村瀬さん（オーナー）の友達も多かったし、フォークが全盛の頃だったからそういう連中が一杯来てたよね。

——そういうのがこう雑誌に方に反映したというか、そういった事は。

長井　そりゃわかんないけど、若い人達の生活というのが見られたよね。だからこの頃だよね。自分が年寄りだと認識したのは。ここ五、六年だよ。それまで自分のこと年寄りだと思った事なかったもん、どこ行っても。…向こうはどう思ったか知らねえけどな（笑）。でもこっちは同じだと思ってた

刷り出しを見る

からね。やっぱり体力無くなってから駄目だね。酒飲めなくなってから。

——酒は若い頃から飲んでたんでしょ。

長井　飲めないと困る稼業だったから、鉱山なんてのは。山ン中だから。飲めるのが偉い、てんだからどうしようもねえよ（笑）。とにかく酒うんと飲めると一目置く、っていう世界だから。漁師だとか山師だとか土建屋とかはね、そういうところあるよね、飲めないと、馬鹿にされるという。そういう中では酒豪だったよ俺は。よくお前は飲むなあ、って言われたからね。

——でも前後不覚、って事はないんでしょ。

長井　あるよー（笑）。酔っ払って歩いてるだろ、そうすると塀がこうこっちへのしかかって来るんだよな（笑）。塀が来るんだよこっちへ。あれ後ろから見てたらだんだん塀の方へす〜っ、と行くじゃない。でも酔ってる時は塀が向こうから来るんだよ。（笑）もう袖がズルーッとなるまでくっついてんだからしょっちゅうジャンパーがボロボロになったよ。

——日本酒がいいんだよね。

長井　いや俺は何でも飲むよ。アルコールだったら何でもいいの。一番いいのは「あるんだったら」酒飲む、ってだけで酒ないからどうだ、って事ないから。ビールだろうがウイスキーだろうが焼酎だろうがさ。そんなの言ってらない時期があったでしょ、終戦直後は。

——安保の頃と青林堂の関わりみたいな事で、その頃やっぱりそういった活動の人達が出入りしてたんですか。

長井　そうね。その頃ガロ読んでる人達は皆反体制だったから。

——討論みたいな事はしてたんですか。

長井　いや別にそういう事はなかったね。若い人達の言う事ももっともだと思ってたから。

——よく警察とか来てたというし、社内で、この場で捕まっちゃったりとかあったんでしょう。

長井　あったよ。で俺が逮捕状を確認して、本物の逮捕状であるならば仕方がない、と。

——長井さんも一緒に連れてかれて事情聴取されたりとかは…。

長井　それはないよね。だって俺がやってんじゃないもの。それにあんた（笑）、何百人て運動してる奴がいるのにその周りの奴までしょっぴいてたんじゃ、そんな手間隙かけてられないって。毎日どっかでデモやってたんだから。警察はもう満杯だもん。

——社員は。

長井　いや手伝いに来てた人ね。無料手伝い。その頃は皆無料で手伝ってくれてたからね（笑）。松田（哲夫）だって年中来てたんだから。返品なんか来て一人しかいなかったら手伝うでしょ、普通。俺だってそうだよ。

『超能力ふざけんな』説

——長井さん宗教嫌いですよね。

長井　うん嫌い。

——最近「幸福の科学」とかありますけど、ずっと昔から嫌いなんですか。

長井　大嫌い。だけど宗教が嫌いつったってね、宗教を信じるのは勝手だからね。そんな反対する事は出来ないし。信教の自由ってのは憲法で保証されてるんだからね。**ただ、「信じなくてもいい自由」ってのもある、と俺は宗教家に言いたい訳ね。**信じなくてもいいんだから。**信じてもいいんだから。**

——じゃああの「日本国民全員を信者にする」なんてのは言語道断。

長井　ああ、あんなの憲法違反だ、あんな馬鹿な事言ったら！信じる自由と信じない自由は明記されてんだからね。だから間違えちゃいかんのだけど、信じたい人は大い

1970年頃の長井勝一

に信じりゃいいんだよ。

――一度もそういう気持ちになった事はない。

長井　ないない。人間死ぬ時ゃ死ぬしさあ。ただ「運命」てのは感じるよ。いくらいい事したってさ、うだつのあがらない人もいるし、その野郎だけが知ってるけどさ、人殺しや何かやって、バレなくてだよ、けっこう穏やかにいい思いして死んでった奴もいると思うよ。だって人間てのはさ、他の生物と同じなのにさ、何で人間だけ超能力なんか持てるんだよ、って。俺に言わせりゃふざけんな、って。

――(笑)『超能力ふざけんな』と。

長井　そう、ふざけんなだよね。前TVやなんかでやったじゃねえか、スプーン曲げとか、あれ皆見てる奴間違いない間違いない、って言ってたけど俺の前でやってみろ、そしたら信用する、って。あれやっぱりインチキだったろ、あのガキャ。

――UFOなんてとんでもない。

長井　とんでもないよ。だってどう計算しても来られねえじゃねえか。一千光年以内にいない、って分かってるんだよ。今。それまでに来るエネルギーとか食料とか無いですよ。新しいもの入れて古いもの出して、そうやって生き物って生きるんだから。そんなもの一千年ならいいぜ、一千光年だからね。

――赤瀬川さんなんかとんでもない、とか(笑)。

長井　(笑)だから、信じるんだったらそれでいいよ。だけど俺にだったら、検証してくれ、と。俺が宇宙人に会って、納得したら俺は信じるよ。だからって信じる人を馬鹿だ、って言ったってしょうがないよ。向こうだって信じない奴ぁ馬鹿だ、つたってしょうがねえし。

――さっき言った新興宗教なんて昔もよくあったんでしょ。

長井　あったよ。俺らのガキの頃は天理教だよ。どんどん教義場作ってドンチャンドンチャン太鼓叩いて踊り踊るんだから。で、もう皆凝っちゃって、問題になったんだよ。田畑を売って寄付しちゃったりするんだよな。で家族から訴訟が起きたりしたんだよ、今から60年くらい前は。で、30年前は創価学会じゃねえか。

――何年周期みたいなのがあるんでしょうね。

長井　あるある。あると思うね。地震みたいに。

――地震と同じ(笑)。双葉山だっけ、「踊る宗教」。

長井　そうそう踊る宗教。あのババァはひでえよな、お米をさあ、一粒一粒選って、巫女さんたちが皆で「光輝かない米を食ったら能力が無くなる」なんてぬかして。あの頃双葉山ってのは最高だったからね。それが入信したんだから。

――PR効果絶大というか。

長井　で、あんまり酷いんで警察が手入れした時柱持って暴れた、てんだから。あんなでっかい奴が一回やるとおまわり三人くらいフっ飛んだてから(笑)。手つけられねえよな(笑)。でもあんな大横綱がね、入信した、ってとこにね、人間の弱さってのがあるよな。

長井勝一世界を語る

――長井さん机の上に置いてある本で、中国とかソ連、北朝鮮関係の本が多いけど、今の共産党解体とかソ連情勢とかどう感じますか。

長井　来るべきものが来た、て感じよ。だからマルクスとかレーニンとか、共産主義ってのはホント理想だと思う。人間がちゃんと働けばね。ところが人間土台怠け者だった、というのを計算に入れない訳よ。それと、欲望の塊だってこともね、忘れてるわけ。だから働けば働くだけ収入があれば、働くわけよね。でも働いても働かなくても収入が同じだ、って事になればね、怠けるでしょ。ただソヴィエトは戦後、国家を再建するっていう意欲あったからね。「大祖国戦争」っていうの、あれで勝ち抜いて、国家を新しく立て直そうと、共産主義のもとで。俺たちよりちょっと前の世代、だからある時期、今から20年くらい前のソヴィエトの国力というのは大したもんだったと思うよ。そこが頂点だったと思う。でアメリカもそうだけどソヴィエトも、馬鹿馬鹿しいほど核開発に金を使い過ぎた、って事よね。日本だってあれに巻き込まれたら今の北朝鮮みたいに貧乏だったかも知れないよ。ただ核は何百発と持ってたかも知れないけど。それから宇宙開発でもってね。あれ一回作ったら捨てるだけだからね。何の再生

AND NOW

産も無いんだから。例えばね、大牧場を作るとか、大森林を作るとか、いい港を作るとか、あれ皆再生産に繋がるでしょ。でも兵器なんてのはね、使っちゃ大変、置いといたって何にもなんない。ただ古くなるだけだから。で、俺一番ソヴィエトで良くないと思うのは膨脹主義ね。あんまりソヴィエトの悪口言うと何かの時行かれなくなってつまらねえから言わないけど(笑)。中国もそうね。膨脹主義。そういう事批判すると中国の人凄く怒るから。だけど本当は中国だってあんなに今みたいにでっかくないよ。チベットだって昔は独立国家だったんだから間違いなく。俺のガキの頃は独立国家だったんだからね。ただお互い納得して一緒になっただけでしょ。でも納得しない人もいまだにいるから、ダライ・ラマなんかインド行ってるわけ。とにかく膨脹主義ってのはいかんですよ。

——じゃこのまま行けば中国もやがてソ連のようになると…。

長井　分からないけどね。ただソヴィエトは崩壊したからね。もう連邦は権限ないからね。

——KGBまで解体ですからね。

長井　結局そういうのは国民の支持受けてない、って事よ。日本だって終戦後なにが一番目つけられたか、っていうと憲兵隊、特高だからね。

「運・根・鈍」

——最後に、長井さんは自分が年寄りだという自覚が無かったせいで(笑)若い人と付き合って、最近の若い人に何か違いとかありますか。

長井　そりゃあその年代年代で違うだけだよ。誰だってその年代の中で育ってるとそういう年代ってのあるでしょ。例えば20年前だったら学生運動華やかな頃だと皆運動やってたでしょ。ビートルズにのめり込んだりとか。そういう社会状況に順応するでしょ。爺ィでも、幼稚園の生徒でも。

——そういう中で、でも漫画を目指してる人というのは昔とずいぶん違うでしょ。

長井　そうねえ。…今そう言っちゃ悪いけど功利的だよね。やっぱり出来たら金儲けしたい。そういうのは無いわけ、前は。ただ描きたい、と。その頃は手塚(治虫)さんだってそんなに儲けてた訳じゃないしね、出世した奴なんていなかったから。漫画描いて大金持ちになった奴なんていなかったから。だから漫画に功利的になる奴なんていなかったからね。今は漫画家で大金持ちになってる人も社会的人気になってる人もいるでしょ。だったらやっぱりそうなりたい、と思うでしょ。だから今は中途半端な漫画描く人間でも漫画家になりたいと思うけど、昔は本当に銭儲けとか一切関係ないでしょ、漫画を好きだからやりたい、と。

——これから青林堂に若い人とか一杯漫画持って来る訳でしょ、そういう人に長井さんとしてはこれだけは言いたいというのはありますか。

長井　漫画やるんだったら忍耐論だ、とね。報われない職業だと思え、と(笑)。報われてる人もいるよ。でも確立でいったら薄いでしょ。宝くじとは言わないけどね。相当目指したって途中で止めちゃう人があらかただからね。これはやっぱり運だよ一番先に。それに根性ね。「運・根・鈍」だよ。「鈍」、鈍いってのはそれ一つしか見えないとか、考えない、って人じゃないと駄目だよ。器用な人ほど損をする、器用貧乏ってのは本当だよ。それしかない、って人のほうが五年経ち十年経ち、と見たらいい漫画家になってる人が多いから。それにしても運が大事だと思うよ。…だって根本的に言ったら「漫画を描ける」という才能を持って生まれたこと自体「運」だからね。で才能が無いのに才能があると勘違いしてやるのは不幸なこったよ。悲劇な事だけどね。本人気がつかないから。

——でも運ばっかりはねえ。

長井　だから根性が要るよ。だけどさ、いくら運あったって根性がなけりゃ。それになるように方向づけて努力しなきゃ駄目でしょ。だけどあれもいいな、これもいいな、って周り見てばかりじゃ駄目だよね。

——長井さんは絵とか描くの好きですか。

長井　描かない描かない全然描いた事ない(笑)。絵が下手だから。絵描くの一番苦手だね。

——長井さん林さんの作品集の所に芥子の花描いてたじゃないですか。

長井　あれ香田さん描いたんだよ。(一同爆笑)

……

収録一九九一年十月十七日
於・青林堂ガロ編集部
構成・白取千夏雄(ガロ)
文責・編集部

月刊ガロ1991年12月号掲載

今月の長井勝一 '77～'94

■ガロ近年の人気コーナーの一つが、毎月の長井さんの近況を記した「今月の長井勝一」でした。手前味噌で恐縮ながら、読者からのお便りや書評、ゴシップなどを掲載する「読者サロン」内の名物として、歴代の編集部員が執筆していたこのコラムは、読者のみならず作家さん達にも秘かに人気を博していたようです。毎日身近に接していた編集部員ならではの視点で、長井さんの言動を面白おかしく記す「今月の長井勝一」で、長井さんの近況を知り、また人柄も知る事が出来たと多くの作家さんに言って頂けたこのコラムを全文、再録しました。また、和気藹藹とした、南・渡辺時代から現在までの編集部員と長井さんとの関わりも、ちょっぴり自慢も込めて毎号のイラストや漫画を通して見て欲しいと思います。
コラムの歴代の執筆は、まだ「連載」として確定していなかった頃から主に南伸坊、渡辺和博、手塚能理子、山ノ井靖、白取千夏雄がそれぞれリレーで行なってきた「今月の長井勝一」、それではごゆっくり御楽しみを…

（編集部／白取千夏雄）

❤【77／7】

あがた森魚氏のまぼろしの名作映画が日の目をみることになった。**宇野重吉**氏に見まごう渋い演技で話題なのがわが**長井勝一**社長。近頃映画のセリフが口ぐせ風に飛び出してくる。
「まァ、まァこんなところじゃないのかな」

〈伸坊記〉

❤**今月の長井勝一【79／1】**

今月の長井勝一、当社社長の**長井勝一**は先日某女性がある瞑想団体に十万円の寄進をしたことについて大変不満である。長井氏によれば『他人の金をドーコーしたことでハラを立てるのもナンだがメーソーに十万円は高いバカ気ている！メーソーに十万円ヤルなんて人生一生の汚点だ！』といきまいている。ではいくらぐらいが適当なネダンなんですか？とたずねると『そーねー2万円ぐらい……イヤ2万円でも高い！2千円!!イヤ！メーソーに金をやることなんかナイ!!メーソーなんかやめてしまえ!!みんなを集めて酒をのんだ方がよっぽど気がきいてる!!』

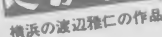
イラスト：南伸坊

●「今月の長井勝一」表記はこれが最初です。

❤**今月の長井勝一【79／2・3】**

今月の長井勝一、先日の当社社員募集については50名あまりの多数の方から応募をいただき、社員全員の真けんなディスカッションと審査によって書類選考を行い、中から20名の方を面接いたしました。しかし面接を受けた方はいづれも甲乙つけがたく真面目でヤル気のある健全な青年男女ばかりで、正直な気持どの人もほしい!!みんな青林堂の社員に成ってほしい!!という気がいたしました。しかし当社、青林堂は急な階段をのぼりつめた、材木置場二階の小さな出版社、それに借金もかかえております…………。面接を受けた人全員を社員にすることはとても出来ない相談であります………。どーかみなさん！社員に成れなかったみなさん！人間には第二、第三の人生というものがあるではないですか、気を落とさずにこれからの

勝ちゃんのドンとやってみよー

●後に「のりまん」「のい礼」「4コマGARO」と続く読者参加コーナーの"元祖"、南伸坊氏による「勝ドン」。第一回は76年6月号。

横浜の渡辺雅仁の作品

投書歓迎
勝ちゃんのドンとやってみよー

今月から開始の勝ちゃんのドンとやってみよう。来月からはもっとオモシローイのを送ってもらいたーい。

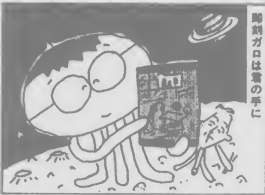
3段階評価

人生を生きてください。

●今月の新入社員
手塚のり子さん 80—60—83・156の20歳

イラスト：渡辺和博

❤【81／11】

！シャチョーの**長井勝一**氏が**先生**になった。**エライ!!**、広尾にある〝**国際アニメーション研究所**〟で毎週**日曜日**漫画コースの生徒達に**コーギ**をしている。生徒のほとんどが**少女漫画**を描いているので、**研究熱心**な**長井**氏は、**マーガレット**や**少女フレンド**を買って読んだ。読み終ると**長井**氏は、キラキラ光る星がギッシリつまった**瞳**になって一言、〝**マイッタナーモー!!**〟それでも若い人達が大好きな**長井**氏は、土曜の午後あたりから、明日のコーギに向けて**フィーバー**している。

●この頃から手塚女史が執筆。因みにこの「広尾にある学校」で、現副編集長の白取が後に長井さんに青林堂入社を申し渡されました。

●この時まで渡辺和博氏が執筆。因みにこの時の社員募集で、現副編集長・手塚、現専務の谷田部が入社しています。

■上記のとおりガロ定期購読継続の方法は書店とご契約になり（送料なし!!で破損の心配がない）毎月配達してもらうか、とっておいてもらうことですが、不都合の場合は当社宛直接御送金ください。書店によっては当誌を置いていない、というような不届きがございますが、その際は、「毎月置くよーに、必らず売れますよ。」と一回言ってみてください。（なにとぞ御協力をお願いいたします。）
■現在バックナンバーは在庫僅少です。
75年3 12月号、76年1月号、77年5月号より既刊分までの在庫となっております。

ガロ定期購読は**一年分4500円 半年分2300円**です

イラスト：渡辺和博（80年）

❤【82／7】

つ、ついに出た!!「**ガロ」編集長**—私の戦後マンガ出版史（筑摩書房刊・950円）**長井勝一**。敢えて何も言いません。とにかく読んで欲しいと思います。

ところで、来**8月号**で、**長井勝一大特集**をヤリます。「**モーゼルのカッチャン**」（仮題）—**渡辺和博**を中心に、**カッチャン似顔絵集**など、この本を読んでも、「まだ、もっとカッチャンのすべてが知りたいの!!」などという、過激な**カツイチスト**のために、特に、集中的にお送りする予定です。

イラスト：斉藤利史

❤【82／9】

♪最近**長井勝一**シャチョーは阿佐ヶ谷南口荻窪より線路沿いの「がりばぁ」というお店へよく行っている。水割りを2杯飲みながら将棋を二〜三番やり、音楽の話をしたりするのが日課になっている。ところで、そおのマスター達が今度コンサートをやることになったので紹介しておこう。場所は新宿ルイード（☎354・5391）で、8月19日8時半より、タイトルは〈スーパーロックグループ八木哲英ファミリーバンドーもうガキどもにはまかせられない〉もうギンギンのコンサートらしい。長井勝一絶対推薦のミュージック、みんなで聴きに行ってみよう!!

●この頃までは長井情報も不定期で、「今月の長井勝一」のタイトルも無かった。

❤**今月の長井勝一【83／6】**

長井さんが先日建築中のビルの側を歩いていると、いきなり上から**ペンチ**が目の前をカスメおちてきた。ビックリして「危ないじゃないか!!」と言うと、上の方から「**オレじゃねえ**」と一言かえってきただけだった。これがもし頭におちたらと思うと長井さんは頭にきて、ペンチをもち帰り、会社の机の下じきにしたり、ハガイジメにしたりしてペンチに**おしおき**をしながら、あやまりに来ない犯人をどーい**たぶってやる**かと思案にくれていました。この日は長井さんの**誕生日の前日**でもありました。

●この回が、「連載コラム」としての記念すべき第一回という事になります。

❤**今月の長井勝一【83／7】**

天気のよい土曜日、**浅草**に**どじょう**をくいに行った長井さんが、ボーリング場の側を歩いていると、突然ものすごい音がしたのでびっくりしてふり返ると、**女の子**が5Fからおちてぐったりしていた。長井さんと女の子の間隔が5mぐらいしかなくて、あと2・3秒歩くのがおそかったらと考えるとぞーっとしたそーだ。その後どじょうをくったが女の子のことが頭からはなれず、**まずい**ことといったらなかったそーだ。この前は**ペンチ**で今度は**女の子**、しまいにや**飛行機**でもおちてくるんじゃないかと、最近ではずっと上をむいてあるいておりますとさ。

❤**今月の長井勝一【83／8】**

最近、長井さんはパンに凝っている。5こ入一五〇円で、フランスパンより少しやわらかく、上にけしの実がついている。このパンは昔**イタリアの皇帝**がたべてたものだそーで、長井さんはこのパンを“**イタコーパン**”と名づけ毎日ムシャムシャと食べているので、少し**貴品**が出てきたようです。

❤今月の長井勝一【83／9】

やまだ紫先生が**スイカ**をさし入れて下さったときの長井さんとの対話

長「やまださん、これ重かったでしょ」

や「いーえ、全然」

そこで長井さんがもう一度スイカをもち上げて、

長「やっぱり重いよー」

や「そんなことないですよ」

さらにもう一度スイカをもち上げて

長「………**オカシイ**……。

❤今月の長井勝一【83／10】

Yシャツの糸クズをハサミで切ろうとして、まちがって布まで切ってしまった長井さんは、そのシャツを着て、「どーだ?穴あいちゃったか?」ときくので、みんなが「あっ、ハズカシー、ポッカリ開いてるよー」とゆーと、い外にも長井さんは「あ〜よかった」とゆった。みんながエーッ!!とゆーと、「だってさ、最近ボロナントカつって穴あいてんのはやってるんでしょ」だって、マケたよジッサイ。

❤今月の長井勝一【83／11】

長井シャチョーは体が小さいので、会社ではいてる男モンのサンダルはブカブカで、歩くとパッコンパッコンとなり具合が悪い。そこで女モンのサンダルを買うことにした。が自分で買いに行くのはハズカシイので奥さんにたのんで買ってもらった。奥さんは疲れないよーにとカカトの底いサンダルを買ってきた。それを見たシャチョーは、「どーしてカカトの高いやつを買ってこなかったんだ」と突然おこったので、みんなビックラしてしまいました。

❤今月の長井勝一【83／12】

先日、写真家の**糸川燿史**さんから、おいしい**栗**をたくさん送っていただいたので、長井さんはさっそくはかりを持ち出し「**なんか八百屋みたいだなー**」なんていいながら、楽しそうにみんなに平等にわけてくれた。ところがまちがえて自分のだけ100g少なくわけてしまったことに気づき、「**あっオレの100gたりない**」といいましたが、みんなきこえないフリをした。しかたなく長井さんは「みんなちゃんとうでてくうように」といいながら、自分の栗を袋に入れておりました。

❤今月の長井勝一【84／1】

今月は、新潟の我田さんが新米を送って下さいました。先月栗の分配で失敗しているシャチョーは、今度は慎重に30分かけて湯呑み茶碗でお米をすくいながらハカリの目盛りを虫めがねでのぞき、完璧にわけてしまったので、みんなおもしろくありませんでした。

●この号で、後の社員山ノ井靖氏がアルバイト日誌を書いている。

イラスト：山ノ井靖(84年)

❤今月の長井勝一【84／2・3】

12月にラジオで、**クリスマス**の日には**誰にプレゼント**するか、というアンケートをとったところ、ほとんどの人が恋人と答えていた。それを聞いていた長井シャチョーは、「それはおかしいあれは子供にやるもんだ」というので若者代表の**谷田部**君が「今の人はみんなそーするの」とおしえてあげると、「**それはさらにおかしい**」という。どーして、と聞くと、「だってクリスマスプレゼントは、朝、目がさめたときに枕元においてあるんだろ」といって、目をパチパチとさせておりました。スルドイ御意見、ありがとうございます。

❤今月の長井勝一【84／4】

青林堂の近所にある八百屋で長井シャチョーはよく果物を買いますがちゃんと理由があります。それは「あそこのあんちゃん平口さんにそっくりなんだよな、だから通るとつい顔みちゃってさ、そんでいつのまにか目と目があって友達になっちゃったの、だから買わないわけにいかないんだよ」だそーで、今日もバナナを買ってきて、夕焼けをながめながらクチャクチャと無心にくっておりました。

❤今月の長井勝一【84／5】

社長が講師をしておる漫画学校の卒業式で、5分程度の祝辞をたのまれた社長は「まー5分ぐらいだから」と余裕をみせていたが、社員が「5分間といっても素人ではきついですよー」

というと「そっかー」とあいさつの下書きを始めました。ところが書いてるうちに、みなさんわなどと思わず旧カナ使いが出てくる程キンチョーしてしまい、「でわいってくるぞ」と眉をピクつかせ、一張羅の背広でキリリとキメた社長は、とてもカッコよかったよ。

今月の長井勝一【84／6】

大阪のテレビ局が社内に乗りこんできて、社長がインタビューをうけました。カメラに向って質問に答えていましたが、カメラの調子が悪かったらしく、もう一度最初からやりなおしをされましたが、社長はモンクもいわず、同じ質問に一度目と同じ答えをにこやかに話しておられました。インタビューがおわってテレビ局の人が帰ると、春のひざしを背に向けながら例の「イタコ・パン」をむしゃむしゃとくってひと息ついてから、インタビューのつかれが出たのか、そのまま深い眠りにおちていった社長ではありました。

今月の長井勝一【84／7】

机の上のおもむろに世界地図を広げてジーツと見入ってた長井社長は、突然「グリニッチ天文台は経度が０だから日本の経度は１４０度になるわけか、ハハー……。」といったのでさらにきき耳を立てていると「日本を０にすれば簡単なのに、なんであんなところを０にしたんだ、ふざけてる!!」とつぶやいていましたが、その次はナニも言わずていねいに地図をたたみ、また仕事にはげむ社長ではありました。

今月の長井勝一【84／8】

先日、朝の通勤電車の中で、つりかわにつかまっていると、前に座っていたおばァさんに「どうぞすわって下さい」と席をゆずられた。社長は「いや結構です」とキッパリ断わった。「気持ちはありがたいが、まさか男のオレが席わるワケにはいかないよ。でもどうしておバァさんあんなことゆったんだろー、ショックだ」と会社に着いてから嘆いていていたが、返品を運ぶ社長の後姿は、どうしてなかなかまだまだ男を感じさせるリッパなもではありました。

今月の長井勝一【84／9】

「ったく、ちきしょー、なんでオレが長グツはいてくると必ず晴れるんだ」そーなんです。ワガ社の社長は〝晴れ長グツ男〟なんですね。もースッガラカンのカンに晴れ上る。おみごと!!としかゆーよーがありません。みんなに「あーみっともねー」なんてゆわれながらも長グツはいたまんまお昼ごはんをたべに出かけたりもします。しかしさすがに暑くなって途中でぬいで、イスに立てひざで座りますが、机の下にころがっている黒いピカピカの長グツと長社のおひざが、なんか妙にかわいくみえたりする今日この頃ではあります。

●この頃から、「長井さんが長グツをはいてくると晴れる」という事が定説となった。文中の「長社」は繰り返しますが原文ママ。

今月の長井勝一【84／10】

先日、温泉に行った長井氏は、鍾乳洞の中で子供におされてころんでしまった。「まったく今の子供はどーなってんだ。人をおしたおしといてあやまりもせずに走って行くなんて、だいたいあんなとこまで行って、なんでケガしなきゃいけないんだ」と岩のゴツゴツにあたってミミズバレになった腕をさすりながらイカっておられました。

今月の長井勝一【84／11】

「いよいよ果物の季節だなー」とフルーツ好きの社長は、初秋の空をながめながらつぶやいた。「そーいえば、終戦の時さ、福島の海ぞいで魚買ってそれを山の方に住んでる人んとこへ持ってってさ、さくらんぼと交換してもらったんだよ、山の方の人は魚にうえてたから喜んでさくらんぼいっぱいくれてさ、オレそれをしょってすぐ北千住へ帰って、家族で夕飯代りに全部くっちゃったんだよ、そしたらさー、次の日家族全員がハラこわしちゃって大変だったよ、さくらんぼっつーのは、少しだけくうのがいいんだよなー」と、懐かしさにエミを浮かべ、ハラをナデナデしながら語る社長ではありました。

今月の長井勝一【84／12】

今月の社長は二回続けて旅行のご招待をうけ、すっかり旅の夜風と化してしまいました。んでおみやげに甘納豆を一箱買ってきて下さいましたが、白と黒のツブの割合が均等でなく、黒のおいしー方が少なかったので、「黒は一人一日一コだけたべるよーに」とキツクお達しを言い渡されました。

今月の長井勝一【85／1】

郷ひろみと松田聖子の結婚問題を話題にしてたら、横から社長が「ホー、郷君は増田明美と一緒になるのか」とゆいました。「ちがーよ、松田せーこちゃんだよ」とゆうと「まつだあ？せーこー？しらねーなそんなヤツ、松井須磨子なら知ってるけど」と、とんでもないことをゆいながら、ザルソバを食いに行かれました。あーメデタシ、メデタシ。

今月の長井勝一【85／2・3】

ワガ社の社長長井さんは、ロックやフォークに理解を持つ方で有名ですが、ロックグループのことを〝ベンベン〟とゆいます。これはギターを弾くしぐさのイメージから出た言葉と思われますが、ワガ社にバイトで入ってきた、ロック野郎の白取くんに向って「オイ、今日もベンベンやるのか」などとゆうので、いつの間にか『ベンベン野郎』になってしまいました。しかし、皆がクスクス笑ったりするので、最近は気をつかわれ、10回に1回は小さな声で『楽隊』とゆったりしています。

今月の長井勝一【85／4】

朝、長井さんが「文春にかいてあったんだけど、デパートの店員が、おじさんのズボンの試着を手伝っていたとき、おじさんがオナラしちゃってさ、その店員はガマンして息をとめてたら死ぎはぐったんだってさ」とゆうので冗談で、「そのオジさん長井さんだったんじゃないの」とゆうと「失礼な、ボクはちゃんとトイレでするよ」とキリッとして答えられました。ワガ社の社長はジェントルマンです。

今月の長井勝一【85／5】

史ちゃんがイヌ嫌いとわかって、大の動物好きのワガ社長は黙ってはいられません。『史ちゃんはネコは好きなんだろ?ネコの大きいのがイヌじゃないか。で、イヌの大きいのがウマでウマの大きいのがウシだよ。みんな同じで可愛いよ。』と、かたわらにいたイヌの頭をなでておられました。

●「史ちゃん」とは永島慎二先生の令嬢、史さんのこと。当時17歳で、アルバイト中でありました。「傍らにいたイヌ」とは現Y専務のことと思われる。

❤今月の長井勝一【85／6】

原稿の整理をしていて、段ボールの箱に振り分けていたら、長井さんが「オイ、ちゃんとフタをしてぶんじばっておけよ」とおっしゃいました。何の事かわからないでキョロキョロしている谷田部さん。それを見て「そうかあ、谷田部クンは山の手育ちだから、そうは言わねえのか」と、納得しておられました。ワガ社の社長は江戸っ子です。

●この号から、一時退社した手塚女史(6年後復帰)に代り山ノ井氏が執筆。

❤今月の長井勝一【85／7】

青林堂の前の道路を、ある日、バイクがババババババと、やかましい音をたてて通過しました。思わず怒ったワガ社長。「やかましい!!事故起こしてくたばっちまえ」と立ち上がったのは良いのですが、皆がポカーンとしているのを見ると、「いや、死んじまうのは良くないな、やっぱり…。彼にも何かの才能があるかもしれないし。」と、すぐに言い過ぎを訂正しておられました。

❤今月の長井勝一【85／8】

最近、青林堂の窓の所の電線に鳩がよくとまっています。外を見るとその鳩と目が合うワガ社長。「この鳩よく中を覗いてるなあ。」と、ちょっと嫌そうに言っていましたが、その鳩がしばらく来ない日がつづき、そしてまた、久しぶりに来た鳩を見つけて「おっこいつ前きた時と止まる場所が変ってるよ」と、まんざらでもなく言っておられました。

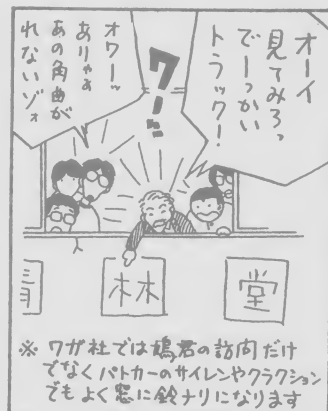



イラスト:白取千夏雄(85年)

❤今月の長井勝一【85／9】

こないだ、「今日は一日中雨が降るので長グツを履いていっても大丈夫です」とNHKニュースで言っていたのを実行にうつしたワガ社長。午後から雨がやんだのを見て、「ケシカラン!!明日のニュースで謝るかな…」とちょっと怒っておられましたが、次の日のニュースでそのことに触れなかったので、「天気予報なんて、そんなものかねえ」と、まだ梅雨があけない空をながめていられました。

❤今月の長井勝一【85／10】

今月の夏はずい分暑いですが、中でもトクに暑いある日、ふと気がつくと社長が居ません。どうしたのかナと思っていると昼近くなって「暑い暑い」と言ってもどってこられました。手には何か重たそうに持っています。「お盆くらいは、皆にうまい物を食べさせてやろうと思ってな」とおもむろに出したちらし寿司新宿は伊勢丹でワザワザ買ってきてくださいました。どーもごちそう様でした。

❤今月の長井勝一【85／11】

ネコ好きで有名なワガ社長の家に、最近黒ネコが迷いこんで来たそうです。「ひとなつっこいふりをしているくせに、近づくと逃げるんだもんなあ」と、イマイチ飼われてくれないそのネコにちょっとイラつき気味のワガ社長。「啼き方がかわいくないんだよ。ギャーッギャーッってカラスみたいに啼くんだ」と悪態をつくのですが、口元はニコニコしてました。

❤今月の長井勝一【85／12】

こないだ、アンケートに答えて靴ズミをもらったワガ社長。その靴ズミを塗っていて靴の底がハガれているのを発見しました。ハガれた底をボンドでくっつけながら「いやー便利な靴ズミだねえ。」と感心してられました。

❤今月の長井勝一【86／1】

寒くなってくると、青林堂の外を大学イモ屋さんが通ります。「大学イモ〜、イモ〜」というスピーカーの声に、「ああ、大学イモ食べたいなア」とじゃまのいが反応すると、ポケットからスパッと５００円札を出したワガ社長。ふみちゃんに「イモ買って来なさい」と命じられたのでした。手元に届いたイモを一目見るやいなや「これは大学イモじゃない。ニセモノだ!!」と、正式な大学イモの製法を皆に説明して下さったのでした。でも、そのニセイモをケッコウおいしそうに食べられた長井社長であります。どーもごちそうさまでした。

❤今月の長井勝一【86／2・3】

正月休みに秋田までバス旅行をしてきたワガ社長。雪を見に行ってきたのに今年は全然無くてがっかりして帰ってきました。「全く、青森の近くまで行ってやっとチョロっと雪があっただけなんだものなあ。ワザワザ見にいって損した。」と怒っていられましたが、白取は北海道、じゃまのいは福島出身なのを思い出して、「そおは言っても、現地の人達は毎年冬になると大変なんだろうなあ。今年はかえって良かったかもしれない」とフォローを忘れませんでした。

❤今月の長井勝一【86／4】

あの大雪が降りはじめた日、〆切でドタバタしているのをみて「今日は、昼食にちらし寿司をごちそうしてやる」とおっしゃったワガ社長。そお言ったもののいくら探しても寿司屋の電話番号がわかりません。そのうち雪は本降りになってきて、ちょっと離れている所の寿司屋まで注文に行ってくるのも大変だなと判断されて「よお、そこ行って注文して来い」とじゃまのいに近所の寿司屋を指示されました。しかし、運ばれてきたちらし寿司は、ネタが凍って

たりごはんがかたかったりで、ちょっとザンネンそうなワガ社長でした。でもワタシはおいしかったです。ごちそうさまでした。

❤今月の長井勝一【86／5】

いきなり「社長さんいらっしゃいますか」という電話がかかってくる事がある。それはゴルフ場の勧誘とか株の投資だったりするわけだけど、そういったものは一切やらないワガ社長、「誰かれ構わず電話しやがる」と、電話を切って怒るのでありますが、あまりキツく言い過ぎたと思った時は、「彼らも仕事だから大変だよね。」とフォローを忘れないのであります。

❤今月の長井勝一【86／6】

ある日、古川益三先生が持ってきてくれたパーティ用のお寿司「おいしそうだなー、お茶を早くわかしてみんなで食べなさい」と急いで食べるようにうながしたワガ社長。一つ食べただけで「おナカがいっぱいになっちゃったもう食べれない」と残りを食べてる皆の姿を残念そうに見ておりました。ワガ社長はおいしい物には目がないけど、少食なのでこういう時ソンします。

❤今月の長井勝一【86／7】

いただきもののパパイヤメロンを一口ほおばってワガ社長、「瓜は厚くむけ、カキは薄くむけ、と昔から言うぞ!!」とゆわれました。次からその通り厚くむくと本当においしいのでびっくりしました。

❤今月の長井勝一【86／8】

「スプーン曲げの子供いたろ、あれどうした?」と梅雨にそろそろ入るある日の昼下り、ワガ社長は皆に聞いたのでアリます「あーあれ…。インチキだったんですよ」と答えると、「やっぱりなあ、あん時俺は最初からウソだって言ってたのに、皆は『長井さんはテレビ見ないから信じられないんですよ』って言うから、フーンそおかあって思ってたけど、やっぱりウソかあ。科学的に考えてあんなことあるワケねえんだよなあ、本当によお」とうなずくモダンな社長でありました。でも、天気予報で、雨が降るといった日に長靴をはいてきては、カラッと晴れて科学にウラギラれるワガ社長であります。

❤今月の長井勝一【86／9】

先月、科学にウラギラれるワガ社長、と紹介しましたが、その後その傾向が、もっともっと進んだのであります。梅雨で、不安定な時とはいえ、天気予報で『雨』と言うと必ず晴れる最近の空もようにあいそがつきたワガ社長。今度は、自分のカンにたよって長靴を履いて来るのですが、やっぱり晴れるのでありました。てるてるぼうずの様な長靴を持っていられるワガ社長であります。

❤今月の長井勝一【86／10】

ある日曜日、ワガ社長は阿佐ヶ谷駅前商店街で短パンにTシャツとゆういでたちで歩いていました。すると向うからなつかしい旧友が歩いて来るではありませんか。約四十年ぶりの再会であります。「よお〜〜ひさっしぶり〜〜。なつかしいな。元気でやってるか」とお互い手を握りあうはずでした。ところがその御友人、再会の喜びもそこそこに、ワガ社長のいでたちをシゲシゲとながめるのであります。「おまえなぁ、そ、そんな格好して…。どうしたんだぁ?そんなにビンボーしてんのかぁ、よし、まあいい、飲みにいこう!!」と、いきなり誘う彼でありました。さすがにワガ社長。「い、いや、また今度にしよう」と断ったそうですが、次の日会社でその話をしたあと、「でもよう、いくら日曜日だからって、格好は考えた方がいいかもしれんなぁ。いつ、どこで、だれが、何を言いだすかわかったもんじゃねえからなぁ」としみじみ語るワガ社長であります。真夏の太陽がギラギラ照らす日でありました。

❤今月の長井勝一【86／11】

青林堂の前の道路は一方通行で、その上路上駐車が多いのでミニパトがしょっ中来ます。で、こないだ反対向きに駐車していた車が怒られていた所を見ていたワガ社長。「バカだねぇー、あれでは弁解しようがないじゃないか」とつぶやかれました。当然、皆、どれどれ、と見に行ったのですが、丁度忙しい時で、皆なんとなくツンツンしていたのでその一言は効果絶大。社内にいつものナゴヤカなふんいきがもどってきました。よかったよかった。でも、山ノ井はなごやかになりすぎて何をやっていたか忘れてしまいました。

❤今月の長井勝一【86／12】

どうしても、やっぱり長靴をはいてくると雨がやむ悪循環に悩むワガ社長。最近では、窓の外をながめて「やっぱり…」と一言つぶやくと、黙々と長靴をはいてかわいた道路を帰られるのであります。置き傘ならぬ置き靴をすれば良いのでは…と思うのですが、そこはそれ、「長靴をはいてきて良かった!!」と喜びの一瞬を味わうために前向きに挑戦しつづける、ワガ社長であります。

イラスト：白取千夏雄(86年)

❤今月の長井勝一【87／1】

温泉の旅行ガイドをペラペラと眺めていたワガ社長。露店風呂に入っている二人の女の子の写真をさして、「このゆうモデルさんは、ただで旅行できていいねえ」と言われ、皆に見せられました。「そおですねえ、いいですねえ」とその写真を見ていたある社員が、「あ、これ、ブラジャーしてる!!」と、コトを荒だてました。「本当だぁ、後で修正したアトがある。服を着て風呂に入るとは、ふとどきな奴らだ!!」とお怒りになりました。「ホントに。今日びどっかの週刊誌では、公園でも何でも8千円出せばおっぱい出す娘が載ってるってのに旅行にただで行かせてもらってるくせに、服を着たまま風呂に入るとはずるい!!」と仁王立ちになった姿は、本当にコワかったでした。

❤今月の長井勝一【87／2・3】

―214―
イラスト：白取千夏雄(87年)

南部せんべいのいただきものをしました。こおゆう物には目がないワガ社長、一枚を半分に割り、「今日は半分食べてあした残りを食べよう」と、半分とっておいた所、それを谷田部さんが食べてしまいました。翌日、器をのぞいて「アレっ」と小さく驚いた長井さん、一寸考えてから、「きのうの残りを喰おう。」と新しいせんべいを半分に割り、それを食べられました。おいしい物にはリチギなワガ社長であります。

♥今月の長井勝一【87／4】

会社の近所の牛どん屋さんで、たまに朝定食を食べて来るワガ社長。先日、手塚能理子先輩から「あのさあ、会社の近所に牛どん屋あったよね。あすこの朝定食っていくらだっけ?あたしもよく食べてたんだけど忘れちゃった」と問合せの電話がかかってきた際「あれえ、知らないなぁ…」と首をひねっている社員達を一瞥し、「二百円だ!!」と決定されました。「ありゃあ前は二百八十円だったが、米をササニシキにして値上げしたんだ。なるほど確かに御飯はうまくなった」と解説なさる、米にはちょっとうるさいワガ社長であります。

●この頃、長井さんは出社前に今はない会社近くの牛丼屋で朝定食を食べていましたが、一度そこに財布を忘れたこともありました。

♥今月の長井勝一【87／5】

今度引越されるワガ社長には悩みが一つあります。新しい所は猫が飼えないのです。で、今いる猫をなんとかしなければなりません。「誰かにゆずっても、あの猫はきかんぼだしなぁ」とか、部屋で飼っても、じっとしてる様なたまじゃないしなあ。外に出たがるだろうなぁ」とか。今度の所は5階なのです。ちっとやそこらの逆境にはビクともしない長井さんも今回ばかりは困ってる様です。考えても考えても良い案は思い浮かばず、また今日も「まいった…」と悩むワガ社長であります。

●長井宅はこの時、現在のマンションに引越し。現在、香田さんは再び猫の飼える部屋を探されています。

♥今月の長井勝一【87／6】

「そおいえば、あの北村綴ってのは、うちに本送ってきたんだよ」と、例のニセ札事件の犯人が童話も書いていて、その本を青林堂にも送ってきていた事を思いだしたワガ社長。「テレビで表紙写したんで、どっかで見た時あるなあ…って思ってたら、そおだったんだよねぇ」としみじみ語ります。「で、その本まだあるんですか」と聞くと、「いやあ、捨てちゃったよ。だって聞いた時のない作家だし、一度に何冊も送ってくるんだぜ。何かヘンだったよな。それにちょっと読んだけど、面白くもなんともないし…」と語られました。北村某の思わぬ活動に、なるほどねぇ、とうなずいた社員達でした。

♥今月の長井勝一【87／7】

青林堂のお向いさんが替わりました。で、お近づきのシルシに…」とケーキをくださったのでした。茶色いカステラにホシブドウの入ったケーキでした。「わぁ、うまそうだなぁ」とワガ社長、みんなで分けた一片をアングリとほおばったのでした。ふだんは、ケーキなどをいただくと『味見ていど』いただく甘いものはワリとニガテな長井さんですが、この時は、しつこい様ですが、『アングリと』いただいてしまったのでした。少しの間をおいて「ヒェ〜〜」という声が社内にひびき、バタバタと洗面所に向ったワガ社長、「どうしたんだろう…」「のどにでもつかえたのかな」などと思っている社員の前に再登場。「いやあ甘い甘い。こおんなに甘いとは思わなかった。びっくりしたなぁ」と汗をぬぐっておられました。それからは、何かいただき物があると、とりあえず『味見』をして、それからゆっくりいただく様になったワガ社長であります。

♥今月の長井勝一【87／8】

今回の『ドリーム・ジャンボ宝くじ』をみんなで10枚づつ買いました。代表して、まとめて買いに行かれたワガ社長。みんなの期待を背中にしょって、『当りが多い』とヒョーバンの有楽町の窓口まででかけました。「はい谷田部くん」「はいアライさん」とまるで、給料を渡す時の様に買ってきた宝くじを配り、さて、「もし当ったら…」という話にうつります。「今回のは、前後賞あわせてはっせんまんえんだからなあもし当ったらみんな何に使う?」ときかれます。八千万といきなり言われてもあまりにバク然としすぎて皆、返答に困っています。でてくるのは、「100万円なら旅行にいきたいなあ」とか、「10万なら、ぱーっと使いたいなあ」とか「オレ5万でもいい」とか、消極的な話ばかり。みかねたワガ社長「でも、八千万なら皆

長井さんと編集部員

貯金すんだろ」と大当りに話をもどします。「うーん、そおですねぇ」と皆うなずきます。が、その後「でもよう、当ったら当ったで寄フとかうるさいだろうな、貯金も第一勧銀にしなくちゃならないだろうし、けっこうめんどくさいかもなぁ…」とポツンと言われます。「なるほど」とうなずく社員たち、100万円とか10万円とかの話をつづけます。それにだまって耳をかたむけていたワガ社長。話しにピリオドを打つように、「うーん、でもやっぱり、当たるといいなぁ八千万」と窓の方を向いて語られました。

このガロが出る頃には発表されています、この宝くじ。

●結局、この時のくじは長井さん以下全員惨敗でした。

❤今月の長井勝一【87/9】

七月のある土、日を利用してワガ社長は昔からの友人の方々と福島旅行に出かけたのでした。マイクロバスを運転手つきで借切って、東京を出る時から飲みはじめた御一行、現地につくとどこに行ってもどしゃぶりの雨。仕方なくバスの中でずーっと飲みつづけたそうであります。で、目的の東山温泉にたどりつき、宴会もおわり、無事朝を迎えたのでありました。すると、長井さんの部屋に見知らぬ若者が寝ているのであります。同室の友人を起こし、「あいつ誰だ?」ときいても知りません。パンツ一枚で、奥のフトンを占領しているその男は、「なんだ、どうした」と集まってくる一同の前で、気持ちよさそうに寝返りをうつのでありました。しばらくの沈黙のあと、皆に見つめられている気配を感じたかその男は、はっと目を開き、回りを見わたすのでした。「なんだお前は!」という声にも微動だにせず、もう一度目をつぶり、今度は腕組みをして何やら考えこむ見知らぬ若者。パンツ一枚なので、「にて食うなり焼いて食うなり好きにしてくれ」と言ってるかの様です。その気迫に圧倒され何も言えないでいる一同。ちょっと身がまえます。するとその男、むっくりと起きあがり、あっけにとられる皆の前をそそくさと通りすぎ、蚊の鳴くような声で、「スミマセン」と言って立ち去ったのでした。結局何の被害もなかったので、彼は単に部屋をまちがえただけであったとゆー事がわかったのは、帰りのバスの中だったそーです。「でも、あの男、いい身体してたなあ、かなり力があるだろうなあ」と、おみやげのキーホルダーを配りながら話してくれるワガ社長でありました。

❤今月の長井勝一【87/10】

長井さんの大好物は、氷のアイス。それも何も入ってない50円のやつです。誰かが「アイス買いに行くけど、ほしいひと~」ときくと「はーい」と手を上げ50円玉を手渡します。他の食べ物、例えばくだものとかだとどうしても一つ食べきれなくて誰かにおすそわけをしたりするのですが、この氷のアイスだけは別。ペロリっとたいらげます。そして「満足く」とうなずき、「今時、50円で満足できるんだから、安上がりでいいねえ、この氷は…」とカラを捨てに行かれるのでした。暑かった夏ももうすこしでおわりです。

❤今月の長井勝一【87/11】

台風一過で晴れ渡ったある日、近くのおそば屋さんへお昼に行ったワガ社長、「まったくマイっちゃったよー」としきりに苦笑いしつつ戻って来ました。そこのそば屋は長井さんの15年来のいきつけで、威勢のいいおばさんがきりもりしています。少食の長井さんが「ざる…」と注文すると、「えー、ざるだけー!?だから痩せてんだよ、たまごつけな、たまご!!」と言われてしまいました。普通の客なら怒るところですがそこは長年の間柄、「ハイ」と素直に食べてきたのでした。「あそこのおばちゃんは気ィ使ってくれてんだろーけどさぁ、うるさいんだよなー」とニコニコ笑う長井さんですが、〆切前の社員一同は何となくほのぼのしたのでありました。

●長井さんは校了前の社員が働き詰めの時、よくこうした話やお茶タイムでなごませてくれました。因みにこのそば屋は神田神保町の「田中屋」さんです。

❤今月の長井勝一【87/12】

〆切当日、例によって修羅場と化した社内でピリピリと仕事をしておりました。腹ぺらしのじゃまのい君は「ハラへったよォ~」と泣き声を上げ、それをヤタベ先生が「ウルセエ、今それどころじゃねえ!!」と制するという状態。

でも何となく先が見えて、「んじゃ出前でもとろーか」とゆーことになりました。それを聞いたワガ社長、サイフからサッと千円を取り出し、「よォし少しだけど援助してやるよ」。「うわーっ」と歓喜の声を上げる一同を後に、「帰るぞ」とさっそーと去っていった長井さんは、まるでフーテンの寅さんのよーな、カッコ良さがあったのでした。

❤今月の長井勝一【88/1】

九州場所も始まったある日、ワガ社長は窓の外を見ながらポツリと言いました。「向かいのビルのあの部屋でさあ、すもうの好きなおじいさんがいてさあ、本場所になると必ずずーっとテレビ見てたのに今回は見てないなあ…。死んだのかなあ。うーん、それとも別なところでみてんのかなあ。うーむ…」

隣人が気になるワガ社長であります。

❤今月の長井勝一【88/2・3】

仕事始めの日、お正月あんなに穏やかだった天候がガラリと変わって寒波襲来。みんな「寒い寒い」を連発しておりました。そんな一同を見てワガ社長、「寒いからみんなも風邪に気をつけろよ」と社員の体を気づかう一言。しかし次の日自ら風邪のため高熱にダウンしてしまいました。皆さん、今年の風邪にはくれぐれも御注意のほどを…。

❤今月の長井勝一【88/4】

読書家のワガ社長、ある日のお昼休みに歴史読本を買ってきました。するとナントその本そのモノが送って来てあるではないですか。「ナンだ～もうちょっと早く送ってくれりゃあ九百八十円も出して買わずに済んだのに…」と非常に残念がっておりました。しかしその後2冊の歴史読本を「もったいないしな」と交互に読む社長ではありました。

❤今月の長井勝一【88/5】

二月の末にじゃまのいは引越しをしたのでありました。土、日が連休だったので、日曜日にやることに決め着々と準備をしていたある日の事。ワガ社長はこうきかれたのです。

社長「山ノ井はいつ引っ越すんだ？」

じゃ「28日の日曜日です」

社長「バカだなあ27日も休みなんだから土曜にやりゃいいじゃねえか」

じゃ「いや、土曜は仏滅なので…」

社長「何だって、今時そんな事言ってると、21世紀も近いっていうのに、**21世紀様**に怒られるぞ。土曜になれ土曜に」

そう言ってイスの背にもたれる長井さんは、『無信教』という名の宗教の教祖様のようでもありました。ありがたやありがたや。

●この号で名物男「じゃまのい」こと山ノ井靖氏が退社（しばらくはアルバイトで残留）、代って白取が執筆。

❤今月の長井勝一【88/6】

例の上海での列車事故、いたましい限りでありますがその直後、偶然ですがまったく同じルートを旅行に出かけたワガ社長。「ああいった大きな事故のあとはかえって安全なんだよね」と言って発ったのですが、社員一同は何となく前から決まってたルートとはいえ、一抹の不安を感じたのでした。しかし無事戻ってきて一安心、よかったよかった、などと言ってた次の日より長井社長は熱を出して寝こんでしまいました。

❤今月の長井勝一【88/7】

4月14日の誕生日で67歳になったワガ社長、先日の休みに新宿で高価な鍋を買いました。その鍋は10年間保証つき、というスグレ物なのですが、喜んで電車に乗って帰路につき、フト考えた社長。「よく考えたらオレ、あと10年も生きねーじゃねぇか、それ考えたらナベが急に重くなっちまってよー」と怒っておられました。ナンノ、まだまだ元気な社長であります。

イラスト：白取千夏雄（88年）

❤今月の長井勝一【88/8】

先日、この『ガロ』を刷っていただいてる光栄印刷さんの社内旅行に一緒についていった我が社長。行った先の黒部ダムでミニスカートにハイヒールの女の子を目撃されたのでした。帰ってきてからしみじみと、「あんな寒い所であんなかっこしてると膀胱炎になるゾオ」とおっしゃって、それから一週間、カゼをひかれたのであります。

❤今月の長井勝一【88/9】

雑誌「東京人」から原稿依頼の来た我が社長。いつも編集長として原稿催促している立場が逆になってしまいました。とは云うものの、さすが日頃から〆切厳守をモットーとしているだけあって、〆切当日の朝にはきちっとできてたのでした。あまりの正確さに、「東京人」の編集者が翌日取りに来るシマツ。「ウーム『ガロ』もこうありたいなあ…」と、まだトコロドコロぬけている『ガロ』の頁割りをじっとながめる我々でありました。なお、長井さんが書いたこの原稿、すごく面白いから皆も今度の『東京人』を読んでみるといいよ。

❤今月の長井勝一【88/10】

ワガ社の前の空き地に、とうとうビルが建つことになり、施主さん達があいさつにみえました。これでもうキャッチボールも出来なくなり、寂しい限りですがしょうがありません。

さてビル建設工事開始までのつかの間の空き地で日中、近所の子供が空き缶を投げて鉄パイプで打つとゆー少々乱暴な野球（?）をやってるのですが、それを見ていたワガ社長、

「まぁーったくカランカランうるせーんだよなーっ」と怒っておりました…が、いい歳した社員がついこの間までそこでキャッチボールをやっていたことを思い出され、

「…ま、やりたいっつーのもやめろという訳にもイカンしな」と苦笑いされました。小さくなったワレワレではあります。

❤今月の長井勝一【88/11】

もおこうなってくるとホトンド神がかり的な、例の『長ぐつをはいてくると晴れる』、ワガ社長ですが、最近ではすっかりひらきなおって、かわいた地面の上を『たんたんと』長ぐつ

をはいて帰路につかれます。

その後ろ姿は、「人生ってのは、そんなに自分の思い通りになるモンじゃないんだ」と、我々に教えてくれてる様でもありますが、でも！でも！次回長ぐつをはいてこられた際は、ぜひ、雨が降りつづいてほしい…と願う社員一同であります。

今月の長井勝一：2

ワガ青林堂の下は大家さんでもある材木屋さんですが、いつも大きなトラックが前に停っております。ある日ベンツが通りかかり、トラックがあるため通れず、クラクションなど鳴らし、大分いらだっているようです。長井さんが窓から様子を伺うと、ベンツから丁度顔を出して見上げたのはなんとヤックン。うちのトラックと勘違いしてか「こんなとこに停めやがって、だめじゃねーか!!」などと怒鳴ってきました。しかし長井さん少しもひるまず、「うちのじゃねーって言ってるだろーッ!!」と応酬、ベンツは気づいたのか去っていきました。ヤックン相手に一歩も引かないワガ社長ではありました。ナオ、ワガ谷田部先輩は「もし登ってきたらオマエを盾にする」とトンデモナイことをゆってました。

❤今月の長井勝一【88／12】

ちかお、ヤタベの後ろのロッカーには、ヤタベ先輩が近所のおもちゃ屋のガレージセールで買ってきたピンクレディーのサイフセットが何故か飾ってあります。それを見たワガ社長、「何だピンクレディって、ピーナッツの後に出てきたやつか」それを聞いた社員一同、…うーん、確かに間違ってはいないし…と返答につまったのでありました。

❤今月の長井勝一【89／1】

最近の若者の無軌道ぶり（？）はワガ編集部でも眉をひそめる事が度々あります。道でたむろして人通りの妨げになる。ツバはあちこちにはく。人ゴミで平気でタバコは吸う（しかも5人いたら全員）。あげればキリがありませんが先日駅の階段を降りようとしていた長井さん、階段に横4列に腰かけておしゃべりしているバカ者のため通行ができない。フツーのおぢさん達ならコソコソ脇を通るんでですがそこは、「モーゼルのカッちゃん」、若者の一人をケ飛ばして平然と降りたそーです。アッパレ!!

❤今月の長井勝一【89／2・3】

ワガ社の前で、毎日ドッカンドッカンガガガガンゴォ〜〜ッと工事をやっております。マンションが建つらしいんですが、大きなトラックに鉄骨やらパイプやら足場やらを満載して社の前のたいして広くもない道路を混雑させております。さて毎日その様子を見ているワガ社長、「あの見張りの女のコ可哀そうになぁ、寒いのに」とか「うわぁ、あれじゃあのトラック曲がれないぞ」と心配しております。後ろ手に立って窓の下を望むさまは、まるで「現場監督」のようだ、と思うワレワレではあります。

❤今月の長井勝一【89／4】

2月になっても依然として暖かいですが、九州のある地方では5月並の陽気になったとゆーある日、「今日は午後から雨降るんだってなー」と窓の外を眺めていたワガ社長、「アライさんさー、出かけるんだったら傘持ってった方がいいよ」。…さて午後になって雲が切れて日が差してきて、気温も上がり、まるで春のようになるとバツが悪そうに「…何だ降らねぇじゃないか、でも長靴はいてこなくてよかったよ」と一言。しかし何となく一時は「50㎜降るってさ」と豪語した手前、降らなくて残念なような良かったような複雑なワガ社長では御座居ました。

❤今月の長井勝一【89／5】

残業で社員一同ワタワタと仕事をしていたある日、「じゃ、あとはたのむよ」と帰りかけたワガ社長、「あ、」とふり向きざま「ヤタベクン、5千円あるかい?」と聞き、「はぁ…」と5千円を出した谷田部さんに引きかえに一万円札を。ポカンとするヤタベ先輩を横に、「ハイ白取くん」と今度はその五千円を。同じく口をあけている白取を後にアライ、みゆき両社員にも五千円ずつ。「きょうさ、臨時収入があったからさ、これでみんな何か食べなさいよ」…一同大感激したのは言うまでもありません。特にみゆき嬢は「あたし涙出そうになっちゃった」といっておりました。この調子だと一万円あげたら死ぬんじゃないかとどんでもないことをいう谷田部&白取でありました。

❤今月の長井勝一【89／6】

気温が東京地方で23℃まで上がり、編集部内はメ切前の熱気（？）と人口密度の高さから25℃まで上がったある晴れた日、突然横のみゆき嬢に「田村さん、お金なかったら貸すってよ」と声をかけたワガ社長。「ええっ!?」とギョッとするみゆき嬢に「3年で年4・5％だってさ」と金融機関のパンフレットを差し出しました。なーんだ、金貸しかぁ…と一同また仕事に戻ったものの、社長が「ということは20万借りると…」と言うとそれぞれ頭の中で自分が借りた時の場合を想像するのでありました。まったく林の中で2億円、がウラヤマシイ我々ではあります。

❤今月の長井勝一【89／7】

出入りの製本屋さんが、新刊に入れるハガキ

を取りに来ました。「梱包になるけっこー重いものなので、「1つ持ちましょう」とワレワレが言うと「いえいえ、金はないけど力だけはありますから」と発言、コレがバカうけ、いいノリですねえ、なんて言ってるとワガ社長、「金もないけど力もないって奴はどーすりゃいいんだろーなぁ、首でもつりゃいいんか」。これを聞いて一瞬クラくなった男性社員を目に「…オレは若いころ力あったから良かったよなー」とフォローを入れてました。

❤今月の長井勝一【89／8】

中国学生運動が急変して、ワガ編集部でも連日「昨日はコーだった」「アーだった」とニュースの交換をやかましくしてました。中国問題には詳しいワガ社長、普通ならまってましたと独壇場、一席ブツところですが皆がワイワイ喋ってるのをニコニコ聞いているだけでした。しかし中国の人名はムツかしいので「えーと…何てったっけ…」とつまるとすかさず「○○だろ」と助け舟を出すあたり、大人じゃーん、と思うワレワレにわか中国通ではありました。

●この時の人名は確か「ウーアルカイシー」でしたね。

❤今月の長井勝一【89／9】

7月13日から夏の風物詩、靖国神社のみたま祭りが行なわれました。沿道には提灯が並び、神社の中のやぐらもそれは大きなもので夜は大変綺麗でした。さて毎年出かけるワガ社長、「今年もさて行ってくるか」と腰を上げ、「昔はさー、あの大鳥居のとこから神保町須田町の方までズラーッと夜店が出たもんだよなー」とナツかしそうに語っておりました。「大鳥居ってぐらいで昔はまわりが2階だてがせいぜいだったからよォく見えたけど今は鳥居より高いビルが建っちまってなぁ…」と窓の外を一瞥、今、その窓の外でもワガ社の前に巨大なコンクリートのビルが建ちつつあります。

❤今月の長井勝一【89／10】

お盆で近所の店はみ〜んなお休み、昼メシを食べるにもジプシーの如く日頃のテリトリーを離れて徘徊したワレワレではありますがその月曜日の朝、社長が出社しないので皆「どっか悪くしたのかな…」などと喋ってますと突然TEL。みゆき嬢が受けるとワガ社長、電話のむこうから「今奈良にいるんだけどさぁ…」。どっひぇー、となるみゆき嬢。フラリ、と行くには奈良はちと遠いんでないかい、と驚く我々ではありますがあの行動力は見習わなければ、と思うお盆の一日でございました。

●この号から現編集部の高市真紀がアルバイト。

❤今月の長井勝一【89／11】

みゆき嬢がこないだ「さいきん肉を食べてない」とうっかり言ったばかりに『みゆき生活苦説』が社内に流布した今日この頃。それを耳にしたワガ社長、新潟からコシヒカリを送ってもらったんで連日みゆきに「これさ、うまい米だから食べなさい」と少しずつ持ってきました。みゆき嬢はそれを下げて京王線で帰っております。米を下げて電車にのっているみゆきを見かけたらみなさん野菜や肉をあげると喜びます。〔フザケンジャネェ白取、あることないこと書くな!!：み〕

❤今月の長井勝一【89／12】

近頃タートルネック谷田部先生がナツメロばかり社内でかけております。「服部良一作品集」とか、「日本歌謡史」とかで、一部では「気が狂った」とか「分裂病」などとオダヤカでない評判もたっておりますがやはり、「歌謡曲」はいい。てな訳で社内では「シュウチョー〜のムスメ〜」とか「わてホンマによいわんわ」とかがジャンジャン流れており、それを聴いてたワガ社長、「これは李香蘭か」とか「ズイブンなつかしいの聴いてるなー」とけっこう楽しんでいるよーにも見うけられました。ちなみにブルーハーツをかけていた時には「こんなヘタクソなのにプロなのか！」と言っておられました。

❤今月の長井勝一【90／1】

忙し〜いある木枯しの吹いた日、長井社長は風邪をひいて早退いたしました。夜になって残業の際みゆき嬢が「あの…コレ、長井さんがみんなでなんか飲めって…」と差し出したのが百円五十円十円玉ジャラジャラ。一瞬皆遠い昔(幼年時代）にタイムスリップしたようなナツカシヒ気持ち…郷愁ってゆんですか、アレ。まあとにかくそんなかんじになったんですがよく数えたらきっかり400円、あったんです。缶ジュース4人分。ちゃんと。泣けました。みんな、肩を抱き合って…てのは大ゲサですが、その後みゆき嬢がワレワレ（ち＆周）には100円玉で、自分達（み＆マキ）はジャラジャラを、と先輩を立てたのにはもっと泣けました。心暖まったでしょ。

❤今月の長井勝一【90／2・3】

年末からお正月にかけて一滴も雨の降らなかった89〜90でしたが、やっとポツリときたある日、久々に長靴をはいて来たワガ社長、「今日は夕方から雨だってよォ」と万全の体勢でしたが昼前にすぐ上がってしまいました。「何だよー、せっかく長靴はいてきたのに」と天を睨んでおりましたが昼下がり申し訳程度に霧雨がチョボチョボ降ってくると「よし、その調子だ」と言わんばかりにほくそ笑む社長ではありました。90年代にも「長靴→晴天」パワーは健在であります。

❤今月の長井勝一【90／4】

高市マキ嬢が昨年より窓ギワにヒヤシンスの水栽培の鉢を置いて、毎日水をやっておりました。二つあって、太郎と花子と名づけて(↑ウソ）可愛がっておりました。太郎の方は残念にも死んでしまいましたが花子は立派に花を咲かせ、社員の心の慰めになっておりましたのですがある寒い朝、花子は可哀想に、枯れていたので御座居ます。毎朝「おっ、芽が出てきたな」「やっと花が咲いたよ」と気遣っていたワガ社長、枯れてしまった花を見て残念そうに「…枯れちまったなぁ」と一言。皆の心にもポッカリと穴があいた様な冬の一日でありました。ヒヤシンスの太郎と花子のなきがらはマキ嬢が泣きながら台所のお茶っ葉や生ゴミやタバコの吸いガラと一緒にねんごろに葬いました。南無…。

●この号で現編集部志村が入社しています。

今月の長井勝一【90／5】

お昼前に用事があってちょっと出かけたわが社長、ちょうどお昼どきとなってメシ食ってから戻ろうと思ったのはいいのですが帰ってきて曰く「ちくしょー、メシ食おうと思ったらさー、日大のあたり学生でいっぱいなんだよなぁ、どこも入れないんだよ」とプンスカ。我々も混雑を避けて1時すぎに行ってるくらいですからこのあたりは昼メシ食うのも大変です。で、「12時前だから大丈夫かと思ったらダメなんだよ、まったくあいつらいつ勉強してんだよなぁ、おまけに食い終わっても大勢でタバコ吸ってペチャクチャ喋って動きゃしねえんだよ」「あー、困りますよねえ」と一同深くうなづき、「で長井さん何食べたんですか」と訊きますと「それがどこも一杯であのおばちゃんがやってるお好み焼き屋なら空いてるだろうと思って行ったんだよ」「ああ、あそこね」「そしたら休みだったんだよ」とまあサンザンな昼で、社長は再び「もう大丈夫だろう」と一時すぎに街へ出たのでした。学生さん、サラリーマンの皆さんは時間に追われてんのよ。

今月の長井勝一【90／6】

今月中国へ旅行してきたワガ社長。なんと一週間、おなじみ評論家の上野昂志先生とタンノーしてきたのですがその休み明け、我々はさぞ中国のみやげ話は何が飛び出すかと期待したらお休み。聞けば空港から上野駅に着いて、なんとそこで呑んで帰ったというオドロキ。我々若い者（…でもないか、そろそろ）でさえ旅行のあとはクタクタで家に帰ってドド～～～ッとくつろぎたいところなのにこのヴァイタリティ！いやはやもう降参、であります。ちなみにワガ社長、4月の14日で69歳のバースデー、でありました。

今月の長井勝一【90／7】

春からアッという間に夏が来てしまった感のある5月の上旬でしたがワガ社でも窓を開け放っていたある日、外を見ていたワガ社長イキナリ「おいッカラス！」と一言。ビックリした社員一同顔を上げますと「カラスがよぉ、あそこの電線に飛んできてこっち見てやがんだよ」。カラスってかしこいイメージがあってよく巣なんかのぞくとヒナがいる場合親が怒って飛んできたりしますよね。でもカラスを威嚇する社長というのもスゴイものがあるなぁ…と思ってしまった昼下がりでありました。

今月の長井勝一【90／8】

今月ワガ社長は取引先の招待でナント、シンガポールへ旅行へ行ったのでした。シンガポールとゆう国は路上でツバを吐いたりタバコを投げ捨てたりすると高～い罰金。女の人のお尻なぞ触ろうもんなら即懲役。街はピッカピカでマナーは良く、緑も豊富。おまけに一人一戸の持ち家政策、車の増えすぎ規制の為ナンバーは世襲、ナド今のニッポンの諸問題は殆どシンガポール方式で解決するんじゃないかと思ってしまいました。しかしワガ社長、「気温30度、湿度75％…。あれじゃワレワレは住めないよなあ……。」

今月の長井勝一【90／9】

夏、ですねえ…。神保町の近く、九段の靖国神社のみたま祭りの最終日、東京地方は梅雨明け前にもかゝわらず真夏のようなムシ暑さに包まれました。ゴシップ＆ＢＯＯＫ欄にも書きましたがその日根本さん、原口さんがワガ編集部に来られた際、「先に帰るので」とワガ社長。「…、じゃ、これから死んだ友達に会ってくるからよ」。一瞬「えっ!?」とドキッとしたワレワレでありますが、ああ、今日、はみたま祭り…とヘンに安心したのでございました。夏、ですねえ…。

今月の長井勝一【90／10】

毎年夏になると言ってるような気がしますが「今年の夏って、異常に暑くない?」ワガ社のクーラーも老骨にムチ打ってフル回転してますがワガ社長の席はクーラー老よりも夏の日ざし君の方が圧倒的優位。あまりの暑さにちかおが「その席何度あるんですか?」と温度計を置いてみたところ、朝から既に30℃を越すと日常。社長は最初「32℃になった、あ、33℃だ」とグングン上がる針をにらんでおりましたが36℃になってついに、「…オレ帰って寝るわ」といって退社してしまいました。社長が帰ったあとあの席が何度になったかは誰も見ておりません。ただ一度マキ嬢が何気なく見た時44℃になっていた事がある、とご報告しておきましょう。アヅイ。

今月の長井勝一【90／11】

作家の方から頂き物がたくさん重なった日がありました。「こんなに食べ切れないね」と一同歓喜しておりますとワガ社長、「よお!!早速頂きなさいよ!!」と皆に大号令。後でゆっくり、と思ってた社員一同、「早く食べないと悪くなるだろ、せっかく頂いたのに」との再三の号令にあわてて「ハ、ハイ、じゃあ…」とケーキや梨を食べ始めますがとても食べ切れません。で、「な、長井さんも食べてくださいよ」と助けを求めるとあっさり「俺歯が悪いしクリーム苦手なんだよね」と逃げの一手。（…ずるい…）と思った一同ではありました。皆様、ご馳走さまです。

●ワガ社は長井さんの人徳（?）か、本当に食べ物の頂き物が多い会社でした。当時数十年長らえているクーラー老と、同じく時代物の冷蔵庫老が名物でしたが、冷蔵庫の方は冷凍庫が無く、アイスなどが重なると「もったいないから食え！」の大号令の元、社員総出で食べまくったものです。

今月の長井勝一【90／12】

ワガ社の下は材木屋さんの駐車場になっておりますゆえ、よくトラックがこすったり軽くブツかったりします。そんな時は地震のようにグラグラゆれますがもう慣れっこです。ある日やっぱりトラックのせいでグラッときた時突然「地震で120万人死ぬんだぞ!!」と叫んだワガ社長。何かの報告でM7クラスの大地震が来た際には危険地域に居合わせる人が人口の一割は居るそうで、東京一千二百万人の一割で120万人。そのあと「120万人の死体よォ、どこに置くんだよなぁ」と心配して考えこむワガ社長、ワレワレ若輩とはやっぱり目のツケ所が違うなぁ、と感心した秋の一日でありまし

た。

❤今月の長井勝一【91／1】

ワガ社の近所の食事処は昼ともなるとどこの超満員。オカゲで時間のない校了時は我々も毎日弁当の連続というウキ目に合ってますが、混雑時をジッと堪えてたワガ社長、1時半になってクワッ、と目を見開き食事か…と思うと「来月合併号だかららさぁ、柱のところに入れとけよ」。——そおなんですよ皆さん、来月は2月3月合併号。毎年この時期「つぶれたのか」「もう今月は出ないのか」「どうしたんだ」という電話が多くなります。1月25日頃発売、ちゃんと見ててね。ーという訳で社長は「北京亭で焼きソバでも食うか」とさっそーと香田さんに500円借りて出て行きました。
●長らく続いていた2・3合併号、そのせいで1月上旬には毎年必ず問い合わせが殺到したものでした。

❤今月の長井勝一【91／2・3】

ある冬の朝のこと、突然、「昨日さあ、50年ぶりに上野動物園行ってきたよ」と言い出したわが社長。「ご、50年ぶりですかぁ?」とビックラこいてしまった我々社員一同ではありましたが
「ああ、むかしはあそこにミイラがあったんだけどよぉ、今無くなってやがんのな」
「み、ミイラ…ってどんなやつですか?」
「ちっちゃい、子供のミイラかなぁ、ただ包帯でぐるぐる巻きになってて全然見えねぇんだよ」

上野に50年前にミイラがあった!…と今月はショッキングな内容ですがこれを読んで「おおよ、あったぜ、50年くれえ前に、確かに」と思い出した方はお便りください。なにも出ませんが。さて（50年前、上野、ミイラ…）というのが頭から離れない一同を一瞥した後、「……まあ50年もすりゃあ変わるよな」、とつぶやいた社長ですが、我々には「50年」という時間のあまりの実感のなさにしばし呆然としてしまった暖冬の一日でありました。

❤今月の長井勝一スペシャル【91／4】

【神保町発・白取特派員】 当ガロ2・3合併号「今月の長井勝一」欄で上野動物園50年前ミイラ目撃談」でありますが、この記事中重大な誤記がありました。長井社長は、「上野博物館」と申したものを、白取編集委員が「動物園」と掲載したために長井社長いわく「オレ博物館って言ったんだよ、これじゃ**オレ馬鹿みたいじゃねえか!**」というお叱りを頂戴してしまいました。申し訳ございません。
※中略（ここで前月募集したミイラ談紹介）

❤ある日の長井勝一

こないだよー、法人会の旅行に行った時さあ、夜宴会があったんだよ。なそんでその会場が『浦島』ってんだけど、オレもうボケちまって、いざ始まる時間になったら何て部屋だったかコロッと忘れちまってさあ、アレ何だっけなんて歩いてたらちょうど『乙姫』って書いてある部屋があってよォ、おっここだここだってんで座ったんだよな。んでさあ、何か違うんじゃねえか、とか思って、もう一回廊下見たらよお、隣に『浦島』って書いてあんだよな。急に思い出してあわてて出ていった後ろから「おい、何かヘンなジジイ座ってなかったか?」なんて言われちまって、まったくオレもまいっちまったよ……。そうだよなあ……『乙姫』じゃなくて『浦島』なんだよなあ……。

❤今月の長井勝一【91／5】

●この号は長井さんが風邪で長期休まれたため、左の4コマのような事になりました。

❤今月の長井勝一【91／6】

宝くじをさあ、友達と二人で買った奴らがいてさあ、「この中から誰か当ったら二当分しよう」って事にしたらしいんだよな。で、その中の一人が抽選の番号見たら3番違いだったんだよ。で、こりゃああの野郎当ったに違いねえ」ってんで、そいつの所に電話して問い詰めたら「…当った」って言うのよ、一億円。で、そいつは「約束だから二分の一よこせ」って言ったら「嫌だ」って言いやがってよお、喧嘩になっちゃったんだよな。そしたら当った奴が十万円持ってきて「これで勘弁してくれ」って言ったんだよ。で、「そんなんじゃ駄目だ、とにかくこれは貰っとくけど、残りもくれなきゃ嫌だ」って事になってさ、「約束不履行」だってんで今裁判やってんだってよ（笑）。で、弁護士の言い分ってのがよお、あれは当った奴が自分のお婆あちゃんに売ったもんで、「だから分け前はやれねえ」って、こう言うんだよなあ（爆笑）。全く人間ってのはしょうがねえよなあ…（笑）。

❤今月の長井勝一【91／7】

「宝くじは一千万本にたったの4本だってな、一等が。東京で全員が一人一枚買ってもたった4人だろ。するってーと…二百五十万本に一本か。……当たるワケねーじゃねえか!（笑）でもさあ、不思議な事に当たる奴が居るんだよなあ、世の中に。そういえば去年の夏に阿佐谷で一本出たんだよ、一億円!それでよお、一体だれが当てたんだ、っていう話になってさ、みんなで「あいつじゃねえのか」って犯人探し（笑）が始まってさあ。出た所ってのが地元の奴じゃねえと買わないとこなんだよなあ。普通はパール街の方の売り場に行くだろ、でも出たのはほ

ら、○○って店の並びの、奥の方の所でさあ、それで絶対地元の奴だって言ってるんだよな。で、今度は阿佐谷でも北か南か、ってなる訳よな（笑）。（大部絞られて来ましたね、の声に）それがさあ、結局わかんねえんだよ。よっぽどケツの穴の小せえ奴なんだよなあ、全く……。」
皆さん、サマージャンボは買いましたか?……
長井さんは買いました。

イラスト:白取千夏雄(91年)

❤今月の長井は勝つ!【91／8】

それは気怠いある日の午後二時半頃のことでした。仕事に励む志村編集委員の後頭部を、突然ゾルリとなで上げ「どこの床屋に行ったんだ?」と聞かれました。そこで志村が「阿佐ヶ谷の○○です」とニコニコと答えると「なんであんな所に行ったんだっ!?」と不審、且つ少しの怒りをこめて尋問されたのです。そして「はあ……」とうろたえる志村にむかって「あそこはよ、阿佐ヶ谷でも一番ヘタで有名なんだよ。それにジイさんだから手先が覚束なくて、危ないんだよ。もう顔そられる時なんて命懸けなんだからな」と説明されました。「そういわれてみれば、何か危なかしかったですね」とまたニコニコと志村が答えると、「あそこいつも客いねえだろ。きっとその時も事情を知らない客が入って来るのを蜘蛛の巣張って待ってたんだよ、そこに志村クンがひっかかっちゃったんだよ」と、トラ刈り志村を見ながら、トクトクと説明して下さいました。

蜘蛛の餌食になっていたことに初めて気付いた志村は、その晩、『阿佐ヶ谷のことは何でもまず長井さんにきろう』と心に決めたのでありました。

❤今月の長井勝一【91／9】

御存知浅草の「四万六千日」、ほおずき市に行ってきた長井会長。久々に行ってみるとお年寄りで一杯、「何であんなにババァが一杯いるんだ!?」とビックリ。で、「よく考えたらよ、『四万六千日』っつったら120年以上あるんだよな、あのババァ達これから120年も生きてどーすんだよ!」としごく正論を吐かれたのであります。ちなみにその後一杯引っかけてほろ酔いで帰宅して、シャワーを浴びたワガ会長はおもむろに顔を両手でガシガシと洗ったのはいいのですが、思わず指が鼻の穴にズッポリ!!血まみれになったまま暫くぼー然と風呂場に立ちすくんでいたそーであります。しかしその血を見て「殺人現場ってのはこういう風になるのか」と感心してしまうアタリ、まだまだ青い我々とはひと味もふた味も違う、ので御座居ました。

❤今月の長井勝一【91／10】

「無能の人」試写会を幸運にもご覧になった方ならもう御存知の筈、わが「ガロ」のCM(!!)撮影がコノ、材木屋さんの二階の公称6坪の、本机ギッシリ人口密度蕨市並の、編集部で行なわれたのであります。スタッフの方々5名に加え、南伸坊、根本敬、みうらじゅん、久住昌之各先生が長井会長の横にズラリ、加えて我々社員とで会社はエライ事になったのでした。長井さんが弁当を黙々と食べるシーンはつつがなく終了、モンダイは弁当のフタを開けるところをズーム一発、のシーン。ズームのタイミングがあわず、フタを開けるだけの行為を数回くり返した長井さん、最後はカウントするスタッフの方を睨み付けつつやっとOK。テレビなれしてるとはいえ、タイヘンな撮影でありました。

後日、再び今後はTVの取材がまたまた入り、こちらのインタビューは見事一発クリア、でありました。

●このCMは、竹中直人監督の映画『無能の人』の青林堂主催試写会で映画の冒頭に流されました。

❤今月の長井勝一【91／11】

東京にすわ台風直撃か!?というある日、中国へと旅行に出掛けた長井会長。社員が「どうでした、台風の影響は」と聞くと「いやあ、台風は全然関係なかったけど、ずっと雨だったよ」との事。

「向こうで傘買ったんだよな。そればボロっちい傘でさあ。結構高えんだよ。いくらだったっけ…、四十元だったから日本円で千円くらいか。ホントにボロいんだよ。なにせ開かないんだから。よく古いラジオなんかブッ叩くと鳴るだろ、あれと同じで叩かねえと開かねえんだよ全く（笑）。何せ言われた事やってりゃあ給料同じなんだから、いい物作ろうなんて気がさらさらないんだよな。でさあ、飛行機でもダグラスだから200人乗りくらいのやつに乗務員が3人しかいないんだよ。たった3人で飲み物から食い物から配って歩くんだから大変だよ。最初スチュワーデスが2人でベチャクチャ喋ってやがって、男が一人でお茶いれたりしてんのにさあ。おまけにそのうちの一人が指か何か怪我してよお、怪我ったって血も出てねえのに座っちゃってじーっと指見てんだよな。全く光栄さん（ガロの印刷をしてくれてます）じゃねえけど『馬鹿じゃねえのか』って思ったよ（笑）。ある日本との合弁企業じゃさあ、雇った中に共産党の幹部の息子がいてさあ、そいつら絶対馘首にならねえ、ってんで何も働かないわ平気で遅刻するわサボるわ後輩はいじめるわで手ぇつけられねえんだってさ。で、最初人事権が日本側になかったのをこれじゃかなわん、てんで人事権貰って、何と八割も入れ替えたんだってよ。そうしたら働くようになったってさ（笑）。こうやって見て来ると本当に共産主義ってのは人間駄目にするよなあ」

東欧、ソ連と共産主義の崩壊が報じられてますが、中国は果たして何処へ…。

●長井さんの政治や経済、世界情勢への興味と知識と興味はそれは深いものがあり、実際の体験談も交えたこういった話は実に面白くかつ勉強になり、社員が「学校」と思うのも当然でした。

❤今月の長井勝一【92／1】

ガロ校了の真っ直中のある夕方、東京は震度4の地震に見舞われました。ワガ木造モルタルの王国はユサユサと揺れたものの無事でありました。TVニュースで山手線中央線などが運行停止、という知らせを聞いているとちょっと前に帰ってた長井さんから電話。「地震で電車止まってるからさ、今帰っても無駄だよ」との事。「俺もさあ、高円寺で降ろされちゃって阿佐ヶ谷まで歩いて帰ってきて今家なんだよ」

…さすがソ連ミグ戦闘機函館亡命時、すわソ連日本侵略か、と京都からトンボ帰りしただけあります。…それから数時間、校了の夜は更けていきました。

●長井さんは自分の人生、会社、世間を問わず「危機」には不思議なパワーを発する人でした。ある時私鉄・営団ストが早朝から行なわれた朝、僕が寝ていると電話があり、いきなり「よお!!今日、どうすんだよ」と一言。かろうじて長井さんと判り、寝呆け声で「な、何がですか…!?」と問うと、「今日ストライキで電車停まってんだよ、俺は国鉄だからいいけどさ、白取君地下鉄だろ?」「あの、僕は都営なんで……」「あ、そう、じゃあ後でな」ブツッ、ツーツー……時計を見ると6時ちょい過ぎでありました。

❤今月の長井勝一【92/2・3】

仕事収めの前の日という年末もいよいよ押し迫ってきたある日の夕方、皆に「明日じゃあ(大掃除)お願いします」と言って退社するため立ち上がった長井さん。そこでハタ、と気付いて

「でさあ、終ったらアレ頼みなさうよ。アレ。決まり事だからさ」

※「アレ」とは、青林堂の風習として伝わる、大掃除後に出前を頼むちらし寿司の事である。

「千六百円のやつな、真ん中の。」

「あ、分かりました」

「一番上に二千四百円のがあるんだけどよ、そりゃあ分不相応ってもんだからな。その次の千六百円のな、年に一回だから。で千百円てのもあるんだけどありゃあ普段食うもんだからよ(笑)。」

その理路整然とした選定もさる事ながら、完璧な値段の把握に社員一同はしばしボーゼンとしたのでありました。

●年末、わが社恒例の大掃除は材木屋さんの二階はもちろん共同の階段、トイレを全員で掃除し、最後はちらし寿司を皆で食べてお酒を呑み、長井さんの帰宅後年賀状の宛名を手分けして書いて終り、でした。これは現在でも踏襲されています。

❤今月の長井勝一【92/4】

校了の直前、社員が本出しだ写植指定だ電話だナドとドタバタしていると、某月刊誌を読んでいた長井会長、突然「世界一のデブが死んだんだってな!」

その声に「どれどれ」と集まった社員一同、それによると、ナンとギネスにも載っている511kgの超肥満の男が亡くなったそうで、遺体はあまりの重さに戸外へ運び出せず、クレーンで棺桶を外へ「搬出」したそうであります。そのデブの方は(笑)最盛期には545kgあったそうで、それを読んだ長井さん、「凄えなー、545kgだってよ!俺36kgだから……15人分じゃねえかよ、ワハハハ」と非常に愉快そうに笑われたので御座いました。ナンとなく殺伐としていた校了間際の雰囲気が、ちょうど編集部に差し込む小春日和の陽射しのよーにホノボノとしたのでありましたよ。ちなみに谷田部周次編集委員だと11・35人分、白取だと8人分であります。

●「ワガ社長」から「会長」になってしばらくして、長井さんは会社に常勤しなくなりました。やはり風邪をひきやすくなり、その結果体力が落ちて、通勤も大変だったのだろうと思います。しかし、会社にいる時はいつも社員をなごませてくれました。

❤今月の長井勝一【92/5】

今月、長井会長は風邪をひいてしまい、会社をずっと休みました。その間、志村編集員は長井会長の机の上を写植やら版下やら原稿やらの物置にしており、その惨状は目を覆うばかり…という話をしてたら当の志村が「ひどいよー、そんなに置いてないじゃないかぁっ!」と泣き声をあげましたが、本当です。久し振りに長井さんから明日来るから、と電話があった翌朝、早春の陽射しのなか、額に玉の汗を光らせて長井さんの机を一心不乱に磨いている志村の姿が印象的だった、そうではあります。

●「ワガ社長」から「会長」になってしばらくして、長井さんは会社に常勤しなくなりました。やはり風邪をひきやすくなり、その結果体力が落ちて、通勤も大変だったのだろうと思います。しかし、会社にいる時はいつも社員をなごませてくれました。

❤今月の長井勝一【92/6】

今月号でも見開きでお伝えしましたが、『長井勝一氏の古希と会長就任を祝う会』は関係者各位のお陰を持ちまして盛大なものとなりました。この場を借りて御礼申し上げます。さてその宴もたけなわの頃、絶妙の司会で会場を盛り上げて下すった我らが高信太郎先生の発案で長井会長、内田春菊・近藤ようこ両先生から両頬に同時にキス!をされてしまいました。永島慎二先生の三本〆で幕を下ろした後、某新聞社の取材を別室で受けたワガ会長の頬には、拭き忘れたキスマークがバッチリ残っていたのでした。ウッフン❤

❤今月の長井勝一【92/8】

『ガロ』を印刷してくれている、光栄印刷さんの招待で函館に旅行に行ったワガ会長。大沼でゴルフを楽しむ一行を横目に、二泊三日酒三昧だったそうでありますが、函館の朝市で買った毛ガニを近くの料理屋さんで捌いてもらい、インタビューにお邪魔した白取・志村両編集委員に「これ食えよ」と勧めてくれました。目茶ウマのカニを一心不乱にほおばる二人をニコニコ笑って見ておられたので、「長井さんこれ食わないんですか」と聞くと、「俺カニ嫌いなんだよ」「ええ、どうしてですか」「だって面倒臭いじゃねえか」なるほど…チマチマ身を出して口に運ぶ様子は男らしくない……。でもじゃあどーして買ったんだろう、と思ったら「だって光栄さんたちみんな買ってるからよ」……男らしい……。ちなみに白取は函館出身ですが、毛ガニは4年振りでございました。編集部のみんな、ごめん。

●この月から現営業部員の大場がアルバイト。

❤今月の長井勝一【92／9】

名作劇場で、長井会長のインタビューを録りに阿佐谷に出掛けた本誌白取&志村編集委員。ちょうどお昼どきだったのでパール街を歩きつつどこで食べようか迷い、「何食おうか」「長井さんと会ったりして」「そしたら『飯、食っちゃえよ!』って言われるんだよね」などと話しておりますと、まさしく横に長井&香田夫妻が。

「飯食ったのか」「いえ、ここで食おうと思って……」「じゃあさ、そこのパン屋の角入って、左まがってすぐ3階に上がったとこの焼肉屋が美味いぞ」との事。うーん、男らしい…迷う事など何もないんだ…という訳で、まっ昼間からじゅうじゅうハフハフと熱い焼き肉ランチを滝のように汗を流しながら美味しく頂いた馬鹿一人ではございました。教訓…「食いたいものはさっさと自分で決めろ」…九一年、夏。

❤今月の長井勝一【92／10】

いよいよ千葉県の白浜に居を移す我らが長井会長、「向うは何たって交通が不便だからよ」と、車を運転する決心をしました。昔は上野昂志先生が昨年12月号でも書かれた通り「パブリカ」で馴らした会長ですが、さすがにもう数十年乗ってないので、勝又さんから車を借りて、近郊の田舎で秘密練習と相成りました。やはり勘が戻るのには時間がかかりそうで、「やっぱりさあ、簡単だと思ってたけど久し振りだったから大変だったよな」「まっすぐ進むのはいいんだけどカーブ曲がったりする時ちょっと怖いんだよな」……俺も、怖いっす。

●この頃、長井さんは長年住み慣れた阿佐谷から、気候もよく自然の残る白浜に引っ越す事を宣言していましたが、周囲の反対もあって結局最後まで阿佐谷で過ごしました。

❤今月の長井勝一【93／1】

名作劇場のインタビューの時、写真をお願いしようと、着ていたちゃんちゃんこを「これ脱いだ方がいいか?」と聞かれたワガ会長。それは知る人ぞ知る、テレホンショッピングでやってる「ボア毛布」のよーな生地のあったかそうなもので、松本充代さんの結婚式の引出物だそうでありました。「最近は引出物もカタログをくれてよ、自由に選べるんだよな。便利になったもんだよ。重いもん持たされてさ、帰って開けて見たら要らねえもんだったら目も当てられないもんな。」確かに、名入りの皿だのクリスタルの灰皿だの、そーいうのやめたほうがいいなぁ…と思って見てると「塚原ト伝みてえだな」と笑う会長ではありました。いーえ、お似合いでしたよ。

❤今月の長井勝一【93／2・3】

実はワガ社には、毎年お正月は4日ごろになると、社員が長井さん宅へお邪魔して、ゴッソーになるという風習があるのです。今年は、長井さんが年末年始と京都のお寺へ出かけて、5日に帰京したあとダウンしたためお流れとなりました。

「長井さん風邪ひいたんですか」

「いや、風邪じゃないんだよな、やっぱり無茶したんだよ」

「じゃあズイブン呑んだんでしょ」

「朝から呑み始めて…友達と二人で一日二升半呑んだからなぁ」

「それじゃ若い人でも倒れますよ（笑）」

そこへ香田さん曰く、

「それも一日じゃなくて毎日ね」

皆さま、明けましておめでとうございます。

❤今月の長井勝一【93／4】

本誌名作劇場コーナーで「長井節」を聞かせてくれているワガ長井勝一会長、以前筑摩書房から刊行して好評の『ガロ編集長』の続編とも言える連載を「TBS調査情報」に執筆中であります。ガロ創刊の頃の話からたくさんの作家の方々との交流などを通じて描く、戦後漫画史。ガロの生き字引・長井勝一の名調子、ゼヒご一読を……という訳で、この本を購買申し込みは

☎03（3224）2255

〒107-06東京都港区赤坂5-3-6

TBS調査部「TBS調査情報」係まで。定価460円です。

（手塚記）

●この頃から長井さんは青林堂には月に一、二度足を運ぶようになっていました。したがってこのコラム「今月の長井勝一」も、その月に会った人や、会った人から聞いた者が書くようになりました。ちなみに、文中の「調査情報」はこの後休刊、最近復刊されました。住所・電話番号などは当時のものであり、ご迷惑ともなりますので、連絡したい方は慎重に調べた上でお願いします。

❤今月の長井勝一【93／5】

今年の年男で、御年72になります長井会長。先日千葉の白浜に行った際、いつものように酒をしこたま呑み、新鮮な塩辛をおかずにご飯を食べるという、ナンともうらやましいリゾートエンドスーパー（意味不明）でしたが、ナンと塩辛の食べ過ぎで胃をこわしてしまいました。塩辛が悪くなっていたのか、量の食べ過ぎか、はたまたイカの祟りなのか、その答えは白浜のどこまでも青い海だけが知っているのでございます………。

（白取記）

❤今月の長井勝一【93／6】

4月の14日が誕生日のワガ長井会長。誕生日を祝う身内の宴会が阿佐ヶ谷で行なわれました。年男で御年72歳とあい成った訳でありますが、**「金日成の野郎と一日違いなんだ。」**北朝鮮の「偉大なる首領様」は4月15日だそうで、その後話は満州での武勇伝、終戦直後の話…と盛り上がったのでした。ちなみにワガ会長は現在体重34キロ、一番太っていた時は60キロ以上あったそうであります。さらに編集部では谷田部周次営業本部長が48キロ（公称50）、白取平社員は68キロとその差20キロとゆう事になっております。ああ…

（白取記）

●この号から山中新社長が「編集人」に、そして北園、浅川現スタッフも正式に編集部に入りました。

❤今月の長井勝一【93／7】

来たる6月25日、塩釜でひらかれる「ガロとマンガ文化」のイベントで、講演をされる長井会長は、「自分の都合でいけなくなってしまったら、来て下さる人や一緒に講演をなさる作家

の方々に申し訳ないから」と5月半ばから、ナント！禁酒をなさっております。「飲んでないと体調もいいでしょう」と聞くと「もう約六十年も飲んできたからさ、あんまりかんけーないね」と笑っておられましたが、心なしか顔の色艶もいいようで、塩釜に行くあたりにはもしかしたらゆで卵のようにツルリとした長井会長の顔が見られるかもしれません。楽しみだな。でもって講演がおわったらきっとしこたまお酒を飲まれるのでありましょう。（手塚記）

❤今月の長井勝一【93／8】

先日わが長井会長が久々に編集部を訪れた際、谷田部周次統括営業本部長との世間話で、会長曰く「こないだ外歩いてたらよぉ、ガラスにジジィが写ってんだよな。あ、ジジィだ、と思ったら俺なんだよ。びっくりしちゃったよお！俺今まで自分のことジジィだなんて思ってなかったけどさ、俺ってジジィだったんだよ。全く嫌んなっちゃうよなぁ。」…そりゃあビックリするでしょう。ちなみに長井さんは今、この号が出る前に生誕の地。宮城県塩釜市で行なわれるイベントにそなえ、体調を整えるため**禁酒**をしておられます。（白取記）

❤今月の長井勝一【93／9】

故郷・宮城県塩釜市でのイベントも好評のうち無事終了、重責を果たしてホッと一息のワガ会長。親戚とも再会したそうで、「**いやぁ親戚ったってさぁ、40年も経ちゃ全然判らねぇんだよな**」
……40年ぶりのご対面、てぇともうほとんど小金治が泣きながら「よかったよぉ〜」と出てきてもおかしくないっすね。さて読者諸兄の中には40年会ってない身内の人、いる？（白取記）

❤今月の長井勝一【93／10】

恒例の阿佐ヶ谷七夕祭が8月7日、賑やかに行なわれた。その日編集部一同は長井さん宅にお邪魔し、勝又進、やまだ紫先生らと共にご馳走になったのですが、来る者来る者みんな酒を持参という大変な事になってしまい、サスガの長井会長も「うわぁ、もう酒はご免だよ」と**悲鳴**を上げておられました。ちなみにビールをしこたま呑んだ後に自分で持って来た純米酒を一升近く自分で呑み、イビキをカいて皆さんの顰蹙を買った奴が1名おります。そいつはバチが当って、後で足を怪我して松葉杖になったようであります。（白取記）

●この時のバカ者は私です。

❤今月の長井勝一【93／12】

最近ガロ名作劇場で長井勝一会長のインタビューがないのはナゼだ、というアンケート葉書が来ております昨今、実は病気のため入院加療中であったのです。内臓関係で食事制限などもあり、辛い入院ではありましたが、現在は全快し、退院しております。また復活して読者の皆さんに「長井節」をお聞かせできる事と思います。

さて、入院も終わり、社員を全快祝いに招待してくれた長井さん、以前と変わらず刺身などよりも、まず酒まで呑んでるので社員一同「大丈夫ですか酒呑んで！」と心配すると、「大丈夫だよ、医者が前と食事も変えなくていいって言ってたからさ」とグイグイ。たしか入院中にお見舞に行った時は「**俺はこれほどご飯が恋しいと思った事ないよ。退院したらまずご飯を食べてから酒呑むようにする**」と心を入れ換えたハズなんですが……。

それにしても不滅の男、であります。（白取記）

●この時の長井さんの入院は、大腸癌の手術でしたが、見事に撃退して復活したのでした。

❤今月の長井勝一【94／1】

永島先生とは長いお付き合いで、ご近所でもあるワガ会長。今月のインタビューも含めて編集部から白取と志村が二度ほどお邪魔しました。インタビューも無事終り、そろそろ……と二人が腰を上げると、「**よう、もう終りだろ、冷蔵庫にビール入ってるからさ、呑んできなよ**」と一言。

ヒジョ〜〜〜に嬉しかったんでありますが、まだ帰って仕事のある二人はヨダレの糸をエビスさんのようになびかせつつ辞退したのでありました。ちなみにそれは午後3時の事でした。（白取記）

漫画家が描いたいろいろカッチャン

●漫画家が描いたいろいろカッチャン（82年8月号/長井勝一出版記念特別企画・ガロ編集長バンザイ！）

❤今月の長井勝一【94／2】

最近、肝臓の調子が悪くなって、医者に通っている長井さんではありますが、先日その検査に行かれたという事だったので結果を聞いたところ「実は検査の後に少し呑んじゃったんだよ、検査の後にに呑んでたんじゃしょうがねぇなっ」と言ってました。その後、今月もビールをすすめられました。ゴキュ。（志村記）

❤今月の長井勝一【94／4】

編集部員がインタビューでお邪魔すると、終わった後いつも「大変だねぇ」とねぎらってくれるワガ会長。

「いつも遅くまで大変だなぁ、残業代も出ないのになぁ」

「いや、でもしょうがないっすよ」

「メシ代ぐらい出るんだろ?」

「え、いや、ごくたま〜〜に……」

「出ない時もあるの?そりゃヒドイよ、残業代出ないんならさ、**メシ代ぐらい**出して貰わなきゃ、やってけないだろ?」

ホント、そう思います。あ、遂に書いちゃった。山中社長、そこんとこ宜しく。書いちゃったよ……もうおしまいだよ俺…（某編集部員）

●某編集部員というのは私ですが、この後長井さんの遺言（?）に従い、全員揃ってる時で、かつ皆スカンピンの時のみ会社からメシ代を出して貰う事にしました。

❤今月の長井勝一【94／5】

癌を見事に克服された長井会長(73)は今月、パスポートを書き直されるそうであります。（白取記）

❤今月の長井勝一【94／6】

今月の長井勝一及びガロ名作劇場は、長井会長肺炎のためお休みです。

❤今月の長井勝一【94／8】

名作劇場でたむらしげるさんについてお話を伺いに、阿佐ヶ谷の長井会長宅にお邪魔。「たむらさんも阿佐ヶ谷ですから、長井さんとよく会われてるんじゃないですか」

長井「あ、そうかも知れないなあ。駅の方へ行くだろ、そうすっとすれ違いにサッ、と頭下げてく人がいるんだよ。俺さ、このごろますます目が遠くなってきてさ、『あれ〜、今の誰だっけ、たむらさんに似てるなぁ』って思う事あるんだよな」

香田「だってパール街（阿佐ヶ谷南口から伸びているアーケード街）で永島先生の個展やった時たむらさん見えたし、何回もすれ違ってるのよきっと。」

長井「そうかぁ。ちゃんと眼鏡かけて歩かないといかんなぁ」

僕も、そう思います。（白取記）

※　※　※

活字では難しいと思いますが、伝わったでしょうか、「志ん生」のようなべらんめぇ口調と長井さんの性格を物語るエピソード、社員が校了前で殺伐としている時のほのぼのとした話……。まだ長井さんは我々の中で生き生きと語り、動き、笑ったり怒ったりしています。■

ありがとう、長井さん!!（社員一同）

故・長井勝一氏のお骨は、生前より長く親交のあった、
京都市下京区の、徳正寺内六角堂に納骨される予定です。
なお、お墓を建てる予定はありません。

ガロッキング・チェア

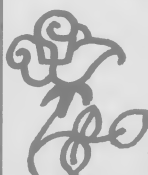
●編集部から

お便り、ご意見・ご感想などは本文アンケート用紙、封書、電子メール（NIFTY-Serve……VYE02140）でも受付けます。Eメールでは簡単な質問など書き込んで頂ければ、可能な限りお返事致します。但し、情報や文通、売買などアンケート・お便り以外の情報は規定の用紙で郵送して下さい。（詳しくは『編集部からのお知らせ』頁をご覧下さい）どしどし、お待ちしております。

April 1996

Reader's Information
Movies
Music&Live
Act&Stage
Gossip&Book
and Others

目次は288頁ですよ。

layout by ♪ (Z's word JGver3.1UG)

◆BBS"ぱらねも"内ガロ会議室、本格(?)始動!!

以前本欄でお伝えしたBBS**『ぱらねも』**の**ガロ会議室**が、ガロ編集部の参加により、いよいよ本格的に始動しました。BBSというと「何じゃそれ」と思う諸兄も多いと思いますが、要するに大手商用パソコン通信ネットワークを個人レベルでやっているのがこの『ぱらねも』です。北海道や沖縄の情報などの他、主宰者の尾形氏の**個人的趣味**(というとミもフタもないけど)からガロの会議室が作られています。この通信には「ファーストクラス」というGUI(グラフィカル・ユーザ・インターフェイス=要するに、文字ではなく絵、アイコンなどで操作するもの)通信ソフトが必要なのですが、これがマック対応版しかなく、昨年の開局から今までは編集部にはウィンドウズマシンしか無かったために、肝心のガロ編集部が全く参加出来ませんでした。しかしようやく待望のウィンドウズ版を尾形氏の協力で編集部が入手、アクセス可能となり、1月下旬から会議室内の「ガロッキングチェア」や「漫評」、「ガロ・インフォメーション」、漫画家へのミーハーフォルダなどへ編集部の担当・白取が**積極的に**書き込みを行なっています。

この『ぱらねも』は営利を目的としたネットではないのでアクセス課金は今のところ無料ですが、人数が増えすぎても主宰者に負担(経済的にも物理的にも)がかかります。したがって広く大々的にメンバーを募集するものではありませんが、興味のある方は覗いてみて下さい。

詳しいお問い合わせは

〒112 東京都文京区小日向3-7-10
ぱらねも事務局 尾形秀夫

まで往復葉書か80円切手同封で、もしくは**ニフティ・サーヴのID=MXB04365 尾形秀夫**まで電子メールでどうぞ。

ゆくゆく、誌面へのフィードバックやガロ編集部としてのサポート体勢などを相談の上、**楽しいネット運営**に協力していきたいと思いますので、詳細はまた次号以降で。

[♪]

PARANEMO

ガロッキング・チェア

アンケート＆お便り

▼まさか、またお会いできるとは…

実は「ガロ30」の4年前の展覧会のときにも、長井さんをお呼びしてお話をうかがう計画があり、その旨ご連絡をしました。「昭和のマンガ展」にあわせた、昭和漫画変遷史についての連続講演会だったのですが、何人かの研究・評論家の方とともに、現代マンガの盛衰を現場から見つめてきた人物として、手塚治虫氏亡きあとは、まず第一に長井勝一氏をということでした。残念ながらそのときはご体調がすぐれず「もう、長い講演は体力的にも無理でおことわりしています」（ご本人）とのことで実現しませんでした。

その後、縁あって「ガロ30」を開かせていただき、歴代編集長シンポジウムでおいでいただけたときは、ですから、この仕事（学芸員）冥利に尽きた瞬間でした。車が大渋滞で遅れてしまい、ギリギリで間にあったこと、締めくくりの言葉が長井さんの「もう、このくらいにしようよ…」だったことが印象に深く残っています。

【川崎市民ミュージアム・細萱敦】

★細萱さん済みません。このコメントは130頁からのコメントの頁に載せる予定だったのですが、手違いで読者コーナーになってしまいました。これもすべて青林堂浅川の責任です。市民ミュージアムでマンガ関連の催しをする際には何でもご協力致しますのでひらにお許し下さい。

▼E MAIL(NIFTY-Serve)

ガロ編集部の皆様。いつも楽しく拝見させていただいています。けれども不思議と言ってはなんですが、ボクの中に印象深く残るガロは結局「追悼号」になってしまうのです。一冊はもちろん「山田花子」氏を追悼する号であり、もう一冊は今回の長井会長のものとなってしまいました。

メディアの中で死は隠蔽されるか、もしくは華やかに彩られるかで、それは死の本質から距離を取ろうとする人間の弱さを示しているのかもしれませんが、ガロのその特有の性質からか、故人の死はまるで形を変えずにあからさまに取り上げられ、ボクはそこで追悼される方々の知己の人間のように故人の死と向き合うことになってしまうのです。ボクは幸か不幸か身近な人の死というものに非常に縁遠く、親、親類をはじめ友人に至るまで、親しい人間を送る立場になったことが無く、それ故に自分の未熟さのようなものを感じることが少なからずあります。今回のこの追悼号を読み進めるにつけ、長井会長との思い出を語る皆さんの文章からにじみ出る会長のお人柄、そしてその生き様に自分自身を重ね見て、考えることも非常に多くありました。

それをここで文章にするのではなくこれからのボクの生き方の中でそれを形にしていければ、もちろんお会いすることの無かった尊敬する長井会長への一読者からの恩返しになるのではと思っています。

それでは編集部の皆さん、実作業はともかくこれからが本当の周囲とのプレッシャーとの戦いで、一層皆様のご苦労もおありになるのではないかと思いますが、これからも応援いたしますので是非頑張ってください。

またお便りいたします。

Akira Mizumoto　96/02/06/Tue

▼E MAIL(NIFTY-Serve)

斎藤　太

『ガロ』3月号を、まさに「読み」ました。半分ほど読み進むうちに、追悼文を執筆したみなさんの悲しみの深さが伝わってきました。また、亡くなってすぐにこれだけの文章が寄せられること、それも、みながみな頁いっぱいのものを書いているということに、長井氏の人徳が感じられました。

最近では『ゴーマニズム宣言』の持ち込みで話題になりましたが、それ以前からずっと、あらゆる作品を掲載し新人を育ててきた長井氏の「人格」は、今後も語り継がれることによって、時代を超えて生き続けることでしょう。

新潟市／VZD01145／斎藤　太

★アンケート用紙から

◀冬になると、あんこう鍋を食べたくなります。そして、あんこうを食べながら、長井さんの事を思い出し、長井さん元気かなあそしてと話すのが、わが家のしきたりのようになっていました。もう6年も前の事。阿佐ヶ谷の駅前の洋裁教室を借りて開かれた、長井さんの漫画教室に私と連れ添いの奈々子さんと通わせて頂きました漫画教室というのは、漫画書き方を教える学校ではなくて、漫画の事を長井さんと共に考える学校だったように思います。また教室が開かれている間に子供が誕生し、長井さんからはお祝いまでいただいて、記念に抱っこして写真を撮らせていただきました。あの子も今年6歳になり、長井さんに会いたいねえと昨年暮れに話していた矢先でしたので、新聞で知った時は、悲しいと言うよりも何か大切なものを失ったという喪失感で胸がいっぱいになりました。わが家は、家族3人共長井さん香田さんにお世話になりました。本当にありがとうございました。漫画教室の最中、暮れだったと思います。長井さんが忘年会をしようと言い、行き付けの店であんこう鍋をご馳走して下さいました。その日生まれて初めてあんこうという魚を食べ、それ以来私はあんこう鍋を食べるのが、冬の楽しみになりました。あんこうで一杯。漫画学校が終了した後も、年に何度か仲間が阿佐ヶ谷に集まり、長井さんも何度か来て頂いてお酒を飲んだり漫画見せ合ったりしていましたが、ここ数年は、そんな会もおろそかになっておりました。長井さんが、教室の中で、ここで知り合った仲間は、大切にして欲しいという事を言われた事がありました。人を大切にするという長井さんの言葉を私は、一生忘れません。今年は、久しぶりに漫画教室の仲間と再会して長井さんの事を話したいと思います。長井さん本当にありがとうございました。

【所沢市／館川敏・41♂】

◀一月六日朝刊の氏の訃報に触れてから今日に至まで、ただ驚愕として、信じられない気持で一杯です。

私は、長井会長とは直接お会いした事はありません。ただ「ガロ」誌上で二度ほど、私の拙い漫画について小さなコメントを頂いた事があるだけです。

今もその記事を机上に広げて見ていますが、涙が出てきますね。写真の長井会長の笑顔の、何と優しげに揺れる二つの眼の奥にある光の、何と厳しげなこと—。

ガロッキングチェア

現在私は、「ガロ」から少しの間離れて、サン出版の月刊「さぶ」誌上で、漫画や小説、連載モノのイラスト・エッセイ等を出させてもらっていますが、制作している時はいつも、長井会長の言っていた「絵とストーリーの両立」「読者の存在を忘れずに」「一度ボツになったからと言ってあきらめずに」「映画や本、音楽等で勉強して」……、等の言葉を肝に銘じています。

アシスタント等の経験のない私にとって、長井会長は数少ない先生の一人でした。本当に残念でなりません。

〔紺野遊児〕

▼私が「ガロ」と出会ったのは、20代後半と遅かったのですが、「ガロ」を知ることが出来て幸せでした。類は友を呼ぶの諺どおり「ガロ」と私の出会いは必然的だった様に思います。「ガロ」は大人の過渡期の人や、大人になりきれない人の吹き溜りの様な雑誌で、そんな人々が発する、鋭い感性は、漫画や文章へと反映しています。

私も長井会長の様に、いくつになっても好奇心を失わず、鋭い感性をキャッチしながら生きて行けたらと思います。

これまでの「ガロ」を守ってこられた会長のご冥福をお祈りいたします。

〔鹿島市／31♀〕

▼2月5日、店頭に並んだガロ3月号「長井勝一追悼号」という訃報により（私のとってまさにそうでした。）、それを知り茫然としました。（今哀しんでおられる）皆さんの何割かは、それを新聞により知った、ということですが、うちにくる新聞（スポーツ紙です）には載らなかったようで悔やまれてなりません。

今月号はなかなかページが進まなくって、めそめそしながら読んでいます。寄せられた文章を次々と読みながら、数々の長井さんの、長井さんだからこそ、の人柄を更に知り、感動してます。が、無念です、その分…。どの文章も最後の3～5行くらいがあふれ出る位哀しいです。

2月11日(日)、岩波ホールへ行った帰りに、旧青林堂を拝んできました。日本文芸社と「ランチョン」の間の道から行ったので、すぐにわかりました。（場所がわかりにくい、よく聞いていたので少し意外）ああ、あの窓から、長井編集長はよく外を御覧になっていたのだ…（窓から顔を出している写真が印象的だったもので）と感無量になり、子供の頃、大泣きすると必ずトイレに行きたくなるように、その時もそうなって、ドトールコーヒーに飛び込んだのでした。

これから時間が来たら仕事を無理にキリ付けて市ケ谷へ向かいます。（行ってきたらまたFAXします）長井さんとお別れしても、きっと又どんどん漫画読みます。“いい漫画を選ぶ目は”、15年間「ガロ」の読者として培われてきたんだ、と自負しています。そういう意味では私も、「長井大学校」の生徒だったのだ、と思っていたいのです。

〔平塚市／三留真佐美・31♀〕

▼2月5日、仕事の帰りにガロを買いに本屋に寄った。平積みされた表紙を見て“えっ⁉”としばらく硬直してしまった。手に取り、茫然となったままでレジでお金を払い、家へ持ち帰った。ショックが大きくて、しばらく読み出せなかった。意を決して読み出すと、そこにたくさんの生き生きとした長井さんが居て、逆に気持が明るくなって救われた気がした。今月号だけはどのページも読みとばすことが出来なかった。何日かかけて読み終えた今、これを書いています。

長井さんの死に自分がこれほどのショックを受けるとは思いませんでした。まるで肉親を失ったかのようでした。1カ月経つまでそれを知らなかったことが、さらにショックでした。

思えば88年、私は初めて読者サロンに投書した時、“私はガロがなくなるまでつきあいたい”と書いた。それはその時、ガロがもう先が長くないと思っていたからだったと思う。ガロは消え入りそうな火のように見えた。まとまっている負性ゆえにひかれていた。そしてガロはもうかなりの高齢の長井さんと共にいずれ無くなる運命なのだと思っていた。

社長が山中さんに引き継がれた時は、危惧はなく、賢明な方策だと思いました。それ以後から、ガロは負性のレッテルをはね返し、漫画史上での功績を自覚啓蒙し、逞しくなっていっていたから、編集部の手腕を信じていました。

長井さんが亡くなられた今もそれは変わらないはずなのに、何だか柱を失ったように不安な気持ちになりました。今月のガロを読みながら、長井さんはガロにとって精神だったのだと思いました。語り継ぎ、受け継いでいかなくてはならないと思いました。

私は一度、電話で長井さんと話したことがあるのです。89年頃、ちょっと白取さんにお世話になったことがあって、青林堂に電話をかけたのですが、かすれた声の方が出られて、「今日は休みです」と言われました。あれは長井さんだったのだと思います。その日は土曜日でした。あと、一時期定期購読していた時、宛名を書かれていたのは長井さんだと思います。細くとがった文字でした。それがいつも藤井里住と書かれてあって、きっと長井さんは私のことを男だと思ってるんだろうなぁ、と思うと微笑ましく感じました。何だかエピソード自慢のようでごめんなさい。大したこ

Personal AD.

とでもないけど、長井さんの人柄が偲ばれる気がして。
長井さんは高慢と過剰を嫌っていたのではないかと思います。私は一読者として発言する時なるべく言葉に気をつけたいと思いながら、つい言いすぎてしまったり独断に陥ったりします。人を傷つけるのは恐いですが、思ったことは言いたい。あくまで一個人の意見として。だから人を批判するとしても、誠意と自己反省を忘れずにいたいと思います。―合掌―
【福知山市／藤井里佳♀23】

◀長井会長の訃報は初めて本屋で知りました。「エッ⁉嘘でしょ」と信じられずにページをめくってガックリきました。新人漫画大賞で、いつも優しく丁寧な講評をしていらっしゃって、(正直)「こんなワケわかんないマンガ(笑)の評を長所を見つけて云ってくださるなんて…」といつも感心しておりました。私もいつか長井会長に原稿を見て頂けたらなぁ、と夢に思っていました。とても悲しいです。編集部の皆さん、しばらく大変だと思いますが、頑張って今よりもっともっと素晴らしいガロを作りつづけて下さい。
【横浜市／国見平★和太郎♀19】

◀いつものように「ガロ」を買おうと本屋へ行きマンガのコーナーのところを見ると背表紙の〝追悼長井勝一〟の文字が……。まさに唐突な出来事でした。その後、ガロを小脇にはさみ、レジへ持って行くまで他の本を立ち読みしました。帰り際、車に乗り込んだ時、「あー、もう長井さんはいないんだ」と実感のようなものがこみ上げてきました。
【蒲郡市／宇佐美勝司♂28】

◀『ガロ』元編集長、青林堂会長・長井勝一氏の死去の報に接し、ご冥福をお祈りいたします。60年代後半から70年代の初めにかけ投稿していた関係で、『ガロ』・青林堂には私なりに一種の愛着と関心を抱き続けてきたと言って良いでしょう。その大黒柱が長井氏でありました。74歳とはいっても、人生80年といわれて久しい今日、もっともっと長生きして頂きたかった……。本当に残念でなりません。
長井氏には、北海道から就職試験で友人と上京の折り、短時間ですがお会いしました。神田で青林堂がなかなか見付からず、捜すこと1時間。小看板から2階へ上がり対話となりました。
長井氏の話しかけで思い出すのは「わざわざ北海道から来たんだから、お茶くらい飲んでいきなさい」とお茶をついでいただきました。また『ガロ』掲載の原画を手にしたさいには「水木さん、辰巳さんのいいでしょう」と満足そうに言われたのが印象に残っています。
さらに私の進路について「これから、どうするの…」と尋ねられたりもしました。
1971・10・6(水)午後2時すぎのことです。出会いについて、この記録帳に「少々の感激を味わう。若さの証明であろうか」の記述があります。
また帰道後、当時学内で編集発行していたミニコミ誌『混迷』NO8のコーナー・らくがきに『ガロ』について書いてみました。下記は、その一文です。
東京に行った。そして『ガロ』編集長・長井氏に会った。『ガロ』は来月号で第百号をむかえる。7年をついやした白土三平の「カムイ伝」は7月号で第一部を終了、『ガロ』は一つの区切りに来ていると言われる。
白土氏は病気のため第二部「カムイ伝」執筆見通しは、たたないといい、また毎月㊞万の赤字をかかえ、そのやりくりに月の四分の三を要するという。
それでもマンガを出し続ける長井氏を見て、単に利益追求だけでは出来ないことだと思った。
返本雑誌の山とつまれた部屋に四人の『ガロ』をつくる人々がいる。
東京神田、ビル二階の小さな一室である。
―『混迷』第八号・1971・11・5発行から…
長井氏が「人間、どう生きても人生30000日」と言われるのをこの前後に人物紹介の月刊誌(その本は、現在行方不明)で読んだ記憶もあります。現在、学校に身をおく者として、生徒に言葉を送る際はそれをそっくりいただいているところです。
その30000日ですが、長井氏は1921・4・14誕生だから26930日生きられたことになるでしょう。確かに創刊30周年記念を迎えましたし、昨夏の『アエラ』NO38によれば、読書の日々もあったように思われます。
しかし、まだまだ元気でいていただきたかった。これからマンガも含め20世紀の総括と次世代への展望が盛んになろうとする時、長井氏は静かに生きる舞台から去って行った感じです。今となってはどうしようもないことですが、欲を言えばあと1822日生き続けて、元気に21世紀を迎えてほしかったと…。
長井氏の死去は、1月10日夕刊で知りました。この時すでに密葬は終っていたのです。報道によれば5日午後5時40分の死去とあります。世間は、この日午後、突然明らかになった村山首相辞任のニュースで沸き立っておりました。長井氏はたぶん、これを知っていたのでしょう。知っての退院、そして人生の舞台からの突然の引退です。見事とも思えます。
改めてご冥福をお祈りいたします。1月5日は、偶然にも私の誕生日と重なります。我が青春の日々にあった『ガロ』、青林堂、長井氏…。たぶんこれからも忘れることはないでしょう。1996・2・12(月)「故・長井勝一氏を偲ぶ会」の前日に記す
【静内郡／♂】

◀私は不覚にも長井さんが亡くなったことをだいぶ遅くに知りました(一月末くらいだったと思う)ショックというより実感がわきませんでした。ガロを読み始めた時にちくま書房の「ガロ編集長」なんかを読んでそれなりに研究してた私ですが自分が生まれるずっと前からあったガロを作った人である長井さんは私(＝79年生まれ)にはやはり「伝説の人」だったんです。長井さん(の実物)を目のあたりにしたことがないので「オーラ」とか「しやがれ声」とかはわかりませんが今月号のたくさんの作家さんや編集者さんの文章を読んで、長井さんて数え切れない人々に大きな影響を与えながらも自分は自分で(マイペースで)生きていった二酸化マンガンのような人だったのかなぁと思ってます。これからのガロに願うことは長井さんの霊が宿った雑誌になってほしいということです。
【神戸市／♀16】

◀書店でガロを見かけた時は正直「何だ。こんなの30周年の時にやったのに」と、まさかと思いながらもガロを買いました。家に帰って中を開くと何とジョーダンでは無く本当の追悼特集。長井氏の事など全く知らなかったにひとしかった私でしたが、なぜかガックリしました。今思えば、1994年の9月号における、アラーキーによる「遺影」と同年10月号の若かりし頃の長井氏の写真を見比べて「ずいぶんヤセたんだナァ。ガンだったりして。」と日本人ドクトクと言うか、週刊誌を読んで「みのもんたってやせたわね。きっとガンざますわ。」と言っているオバタリアンのように自分が思った事を思い出しました。でもまさか。今まで私は名作劇場でも長井氏のインタビュー等々、とにかくメンドウで読んでおりませんでした。しかし、今月号での様々な人達による長井氏についての言葉を読んで「長井勝一」という人がいかに苦労人であったかが少しでしたがわかりました。何も考えずただマンガを楽しみとせずにヒマつぶしとして「ジャンプ」や「サンデー」そして「マガジン」を読んでる奴らにゼヒとも「テヅカもスゴイがナガイもすごいぞ」と教えてやりた

ガロッキングチェア

い思いです。最後になりましたが、長井氏の死により「ガロ」はやはり少しでも変わってしまうのでしょうか。今年中に新人作家による単行本5冊、ちゃんと出るでしょうか。ハイカンなんてまさか、大ゲサですか。そして今月号の内容を全て変更して「追悼号」を作った編集者の皆さん。本当におつかれさまでした。来月号も買いますので。長井氏も、とりあえずおつかれさまでした。

【名古屋市／渡辺太郎♂19】

◀「ガロ」という雑誌をはじめて手にとって買ったのがある年の12月号、11月号の末私は中3の受験生でした。……なんて書くと5年も10年も前の話のようですが、ほんの1年前の事なのです。

ガロのことは、三十分の一ぐらいしか知りませんでしたし長井さんの事も三十分の一しか知りませんでした。そして（ガロの魅力に取りつかれた）私は10数年も前のガロのバックナンバーを手に入れては隅から隅までなめまわすように読んでは「もっと早く読んでいたかったな」思い、知らず知らずの間に「長井さんは凄い人なんだ」と思えてきました。

（恐れ多くも）96年になったら、運がよければ長井さんにまんがを見てもらいたいな……と思っていました。もう夢が実現することは無いのですね。

これからもずっとガロの読者でいたいと思います。長井さん、ありがとう。

【練馬区／小川ゆき16♀】

◀長井さんの訃報を知り、お便りしようと思いつつ、水仙の頃となってしまいました。

追悼、という事で考えていますと、ふと長井さんが「死ぬってのは特別なこっちゃ無いよ。誰だってあることなんだからサ」と照れていらしゃるような気がして、なかなか言葉がでてきませんでした。

私が最初にガロと出会ったのは、佐々木マキさん、永島慎二さんがお描きになっていた頃で、中学生になりたてのガキにはよく分からないものの、一冊のザラ紙の雑誌が宇宙の入口のように思えるほどの興奮を覚えました。私にとっては、長井さんがとってもエライ人が亡くなったようには感じられず、顔見知りの大好きなオジさんが亡くなったような気がしています。

釣の名人で、流れの中にいる大物を見つけては、さっと釣り上げる竿さばきのみごとさに魚の方が集まってきてしまう。そんな風情の方だったようにおもえてなりません。

「ガロ」を通して、一生涯通して付き合うことのできる漫画に出会わせて頂いたことを心から感謝しつつ、長井さんの御冥福をお祈りいたします。

【練馬区／?】

◀私は漫画の強い読者ではありませんが、子供の頃からの数少ない娯楽の一つとして、いつも身近な存在です。

貴誌「ガロ」は、いわゆる「ガロ的」な世界が何とも懐かしくバックナンバーを少しばかり揃えたりして大切にしています。この2から3年は、正直なところ、作品を楽しむというよりは、何か変ったことでも書いてねェーかなというダラシ無い接し方で、惰性になっていました。長井氏が亡くなられたと知ったときは、多分、読者のみんなと同じ様に寂しい気持ちでした。3月号の追悼の文章を読み改めて大変な（偉大な）方だったのだと思いました。人間を大事にするという事は、理屈では分かっていても、簡単にできる事ではありませんよね。とても、とても大切な気持ちを教えて頂いたと感謝しております。女房に邪魔がられても「ガロ」は買いますぜ、社長。

【横浜市／伊藤薫・40♂】

◀私は「ガロ」を知ってからそう何年もなっておりませんので、長井勝一氏のことは時々誌面上の対談などで拝見するくらいでした。それでもなお長井氏の存在は空気のようにいつも「ガロ」にはあったと思います。3月号の追悼文を読ませていただきまして、お会いしたことのない長井氏の姿がまざまざと目の前に思い描かれました。知らないうちに涙がこみあげてきてしまいました。やはり長井氏は素敵な方だったんだと改めて思いました。（生前の氏と関わられた方は幸せだと思います。）長井勝一氏の御冥福を心よりお祈りいたします。

私が「ガロ」のマンガ家としてすぐ思い出すのは、つげ義春氏と鈴木翁二氏です。私が「ガロ」に対するイメージはこのお二人のマンガがつくり出したと言っても過言ではありません。つげ義春氏のマンガを読んだのは「ガロ」に出会う前でした。〝ねじ式〟の文庫本を本屋で立ち読みをしたんです。偶然手にしたその本に引き込まれ、その場で全部立ち読みをしていました。あの時読んだ衝撃は、色あせることはありません。（現に一回、その時読んだだけなのに、最近やっと購入して読み返してしたところはっきり覚えていました。）鈴木翁二氏に関しても大好きで、もう私の血となり肉となっている感じです。絶版になっていて、現在読める本が少ないのが残念でなりません。「銀のハーモニカ」再版をお願いいたします。

これからも「ガロ」を見守り、応援していきたいと思います。皆様のご健康と、ご活躍をお祈り申しあげます。

【三鷹市／高橋加代子・30♀】

◀表紙のアラーキーが撮った会長の写真、前にも見た事あったんですが、すごくカッコイイと思った。こんなに沢山の人から愛されていいなあ。急になくなられたんで初めは驚きましたが、今は、「あー、もういないんだよなぁ」って感じです。30年も続いてきたガロなんですから、50年、一〇〇年続けていってください。

【大阪市／阪谷礼子・21♀】

◀長井さんの追悼の会に参加出来ず申し分けありません。

「いいんだョ、わざわざ来るこたあないョ、忙しいんだろ？　奥さんにヨロシク。いつも仲いいネ、それじゃ…」

さようなら長井さん。ご冥福をお祈りいたします。

【いわき市／元阿佐ヶ谷人・ぎんなんの大橋／♂】

◀朝日新聞で長井さんの訃報を知った時は、「ああ、年だったもんな」くらいにしか感じなかったのですが、日がたつにつれて、「大変な損失を、漫画業界は受けた」と認識するようになりました。長井さんが何をやったとか、そういう問題ではなくて、あの人の存在がとても重要だったような気がします。長井さんと話をした事は一度もないのですが、おととしの川崎市民ミュージアムで南さん、渡辺さん、呉さんと共に、その姿を拝見した事があり、生きている姿を見れて本当に良かったと今感じています。

私は91年から94年の秋まで、講談社を中心に漫画を描いていたのですが、根性が無いと言われればそれまでなのですが、商業誌に希望を見出せなくなり、現在建築の仕事につこうと思い、学生をしている訳です。木造モルタルの王国には一度だけ送った作品を返してもらいに訪れた事があります。漫画は今でも形にはしていませんが、描きたいものがたくさんあるので、そのうち形にしてガロへ持って行きますので、待ってて下さい。

ガロの3月号については、また朝日新聞で知って買ったのですが、感動してしまい私も表現者のはしくれとして、漫画の歴史の一区切りに参加しなくてはと思い、テスト中にもかかわらず、市ヶ谷へ献花に行きました。南さんの「葬式は生き残った人達のためにある」が心に残りました。すぐ帰りましたが、行って良かったです。本当に死者を弔うという感じでした。

あと現在のガロについては、渋谷のまんだらけで78年のガロを買って読んでみて思ったのですが、今の方が確実に面白くなっていると私は思いますので、昔は良かったなんて考えないで、ガロはこれから始まるのですから、私もがんばりますから、ガロの皆さんもがんばって、編集と営業の道を極めてください。

【横浜市／高橋伸次／24♂】

◀2月13日の追悼会に出席させていただきました。会場は不思議な雰囲気に包まれていて、死者を悲しむ悲愴感はなく、あたかも一つの時代に別れを告げる儀式のようでした。献花の際、私は何も考えずただ頭を下げただけでしたが、会場を出てから、重要な事を長井さんに言い忘れた事に気付きました。「長井さん、ガロを創ってくれてありがとう。」と。

【松戸市／岡部吉晃／20♂】

★書店さんから

◀長井さんの御冥福をお祈りします…。1994年の9月号、創立30周年記念号のガロでの、長井さんと南伸坊さんと渡辺和博さんの「青林堂秘話」を読み返して、すごくすてきな気持ちになりました。それは、渡辺さんが青林堂さんのことを、鼎談の最後の方で、〝青林堂は、学校だったよね。〟と、言っていてそれに対して長井さんが〝俺の学校か、そうか(笑)。〟と、答えるのですが、その〝そうか(笑)〟が素敵なのです。この一見たわいもない3文字の言葉の中に、長井さんが今まで生きてこられた中での人に対するすごーく大切な気持ちが、一杯詰まってるような気がしました。もう絶対かなわないです。アラーキー(さん)が撮った長井さんの遺影、どれもイイをお顔をしてて、中でも香田夫人と並んで写っている写真には、心を打たれました。
[いけだ書店池袋店コミック担当　栗生圭子]

◀テレ朝「トウナイト」での貴社の様子拝見しました。作家の方達はじめ貴社の姿勢に感動致しました。当方、夫婦二人で営む小さな書店ですが、売れれば「良書」と、いうような昨今、久しぶりに我が意を得たりという思いです。今後、できるだけ「ガロ」の販売に力をいれていく所存ですが、何分、休みもとれないような田舎の弱小書店のこと、これといったことも出来ませんが、返品は出さないよう頑張ります。ビックコミックオリジナルの「みのり伝説」にでてくる織田出版を想起しました。(もちろん貴社の方が大きいのでしょうが…)。明日、ある高校を二ヶ所ばかり巡回する予定ですので、アニ研、漫研の高校生達に「ガロ」の紹介の紹介をしてきます。どうか、皆様頑張ってください。
[群馬県ブックスいーすと店長　周東　隆]

★長井勝一を偲ぶ青林堂フェアー開催

＊池袋いけだ書店
東京都豊島区西池袋１－１－24
東武百貨店メトロポリタンプラザ４階
TEL03－５９５１－４７８０

＊三洋堂可児店
岐阜県可児市広見１－34－１
TEL０５７４－63－２３３４

＊福山啓文社コア
広島県福山市春日町５－２
TEL０８４９－41－０９０９

長井さんが創設した「青林堂」。その青林堂を支えて下さっているたくさんの漫画家の単行本を他社本も含めて紹介するフェアー。
ぜひ、足を運んでみてください。
尚、いけだ書店池袋店では同時期に「女流作家フェアー」を開催致します。魚喃キリコさんの『Water』サイン本も入荷予定です。
【◎】

ガロッキング・チェア　情報ステーション

文通希望

◀安彦麻理絵、入江紀子、QJ、OUT、4コマガロ、畑中純、ばってん荒川、ブロンソンズ、マイトガイ、小林旭全曲集、今現在キョーミのあるモノを並べてみました。どなたかお便りなぞ送ってください。
[〒814・01　福岡市城南区友泉亭8・8第一泉コーポ105　池内伸・23♂]

◀ぼくの映画に出演してくれる人、レズっ気のある女性、Mっ気があるか、マゾの素質があるんじゃないかと思ってる女性、谷山浩子とかサイケ聴くお友達…のいずれかに当てはまる方、写真の同封で手紙下さい。
[〒115　東京都北区神谷2の10の4　河田白郎・33♂]

誌上売買

◀ジョン・ウォーターズ監督の「モンド・トラッショ」「マルチプル・マニアックス」&それ以前の作品のビデオをダビングさせて下さい。お礼はご相談の上で!!　それと、その趣味の方、私とダビングし合って資産を増やしませんか?
[〒430　静岡県浜松市遠州浜1・36・4　鈴木直美・25♀]

◀ガロのバックナンバー売ります。1973年から1992年までを中心に役250冊。入札制で、一番高い値段をつけてくださった方にお売りします。欠本が少しありますので、くわしいことはハガキで問い合わせください。バラ売りはしません。
[〒810　福岡市中央区清川1・1・23・501　紀川弘之・30♂]

◀ガロ1994年11月～1996年3月号を計16冊2000円以上で(送料別)で譲ります。希望の方は、ハガキに希望価格と住所、TEL番号記載して送ってください。ハガキを下さった方には、追って連絡いたします。
[〒112　東京都文京区小日向4・3・11　宮川勉・25♂]

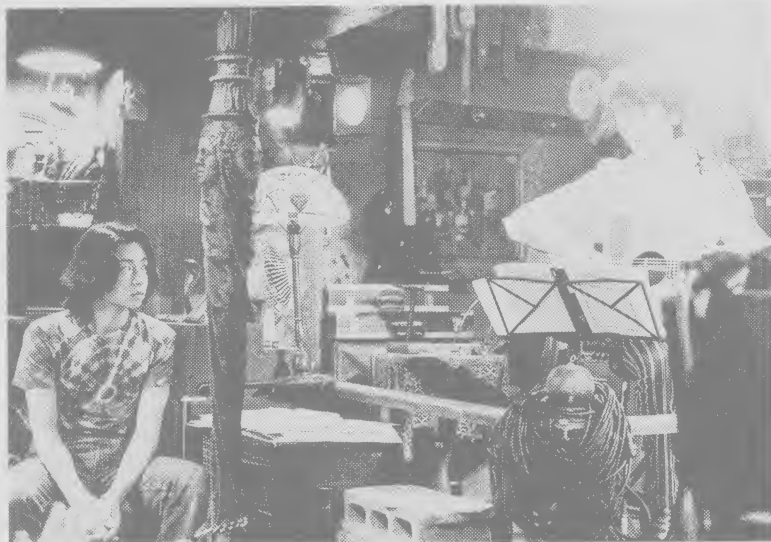
◀サザエさんのカツオ23才までのブルーな人生をメロドラマチックに漫画にしました。100Pで読み応えタップリです。今なら無料配布本もついてきます。90円切手でペーパーをご請求ください。
[〒244　横浜市戸塚区下倉田町1359・6・206　国見かずよ・19♀]

募集

◀キーボード募集。チープな音楽をのん気にやってますので、初めての方も大丈夫で安心です。さかなのコピーとオリジナルをやっています。西岡兄妹さんとか好きな人は楽しくできると思います。お気軽にどうぞ。
[〒470－03　愛知県豊田市上原町西山614・1　後藤真理子・22♀]

◀劇団リニューアルにつき女性キャスト募集。POPでCOOLでCUTEな舞台を一緒に創作しましょう。自己PRと好きなモノを書いて連絡して下さい。その他なにか手伝いたいと思う方も大募集中。
[〒176　練馬区向山4・1・10・3F　フジタユキミ・28♀]

切通理作の
インディペンデント映画探訪
異郷へ

Vol.7

見つめる前に　跳んでみようじゃないか
俺たちに　できないこともできるさ
さあみんなで　ロカビリーを踊ろう

ジャックスの「堕天使ロック」に乗り、十七歳の少年が駆けてくる。新左翼党派の内ゲバ闘争に巻き込まれ、追われてるらしい。

そう。これは今から二十数年前の、中央線沿線を舞台にした近過去の映画なのだ。

高円寺のガード下にあるアンティーク・ショップ「ゴジラや」の店長である木澤雅博が製作・監督した映画『33$\frac{1}{3}$r.p.m.』(当初『堕天使ロック』と題されていたが改題し、中野武蔵野ホールでロードショー予定)の冒頭シーンである。

アンティーク・ショップの店長が作った近過去の映画だから、ロケハンや舞台装置には凝っている。今でも高円寺を中心に残されている古い木造アパートやガード下の舗道、喫茶店やバーなど、まるでタイムスリップしたような、しかし現在でも生き続けている風景が映されていく。タクシーなども旧型の車を用意して撮影している。そして全編、ジャックスや休みの国、遠藤賢司、あがた森魚、豊田勇造など当時の歌が流れていく。

そうした中で走り回る少年は、特別、当時の扮装を強調するわけではなく、Tシャツにジーンズのラフないでたち。木澤監督は単なるレトロではなく、当時の風景の中で、今の若者の青春を生きさせたかったのだろう。

主人公の少年(水橋研二)は、教師との間で問題を起こして高校を中退し、大学を受けるための検定試験に合格することをとりあえずの目標としている。しかし、勉強をしているようにも見えず、アパートの部屋でギターをかきならし、ライブハウスで歌うフォーク歌手のたまり場になっている喫茶店に足繁く通う一方、学生運動の仲間にも加えてもらっているが、その会合さえもサボりがち。

勉強も音楽も学生運動も中途半端、しかし故郷の実家とは遠く離れて暮らしている彼を優しく包むのが高円寺の町というわけだ。

心は変りやすいけど
ほんとは何も　かわっちゃないのさ
まわりだけが　ぐるぐるまわるのさ

「堕天使ロック」の詞が示すように、少年が自分の道を決めかねている間に、彼の回りでは状況が動いている。

喫茶店でよく話す活動家の一人が店の帰りに警官に逮捕されたり、また三里塚の団結小屋が機動隊によって撤去されたことが科白で示されるなど、既に世間では挫折ムードが漂っていることが伺える。

少年があこがれる、昔、伝説のシンガーであった男(田中章)も、今は歌を歌うことが怖く、勤めをしているが毎日をやる気なく過ごし、焼き鳥屋で黙って酔いつぶれる。

妻のミカ(近江真理子)が焼き鳥屋に迎えに来る。

「仕事は……」

「休んだ…ちょっと微熱があったから…」

ミカが彼のツケを店の親父に払うと、親父は夫婦の飼い猫のために、魚のアラを渡してくれる。こんな描写が、暖かくて仲々雰囲気を出している。

「お前、何を思って生きてるんだ? 本当にやりたい事があるのだったら、真剣にやらないと、見つからないのなら捜してでもやらないと……振り回されるばかりじゃ自分が見えないだろう」

先輩格である喫茶店の常連・勝木(勝誠二)にそう言われる主人公。アパートに帰ってみれば、今度は田舎の兄が訪ねてきている。高卒扱いで就職させてやる所が見つかったから、田舎に帰ってこいと兄に言われる少年。

少年は、夜、バーで働いている。そこに新入りで入ってきたホステス・彩(AVギャルの岩下あきらが演じている)は、以前、内ゲバ闘争で逃げていた少年を助けたことがあった。彼女にはヒモの亭主がおり、彼は、麻雀で職を失い、さりとてヤクザにもなれず、安く買い求めた改造拳銃を手にしてアパートの部屋でニタニタしているというサイテーな男だった。その亭主が麻薬を売りつけたため、彩の同僚のホステス娘がヤク中にされ、ヤクザ組織に売り飛ばされようとしていた。

彩にたきつけられ、ヒモ亭主も最後の良心を出し、ヤクザ組織から娘を救い出し逃避行。それを助ける少年と、高円寺の夜の仲間たち。この辺りの展開は、学生運動を戦った事のある男が、ジャパゆきさんをヤクザから逃そうとする若松孝二の映画『我に撃つ用意あり』に似ている。

だが、娘を逃がし、高円寺の町を離れた彩とその亭主が死体で発見された事をニュースで知る少年。

かつて自分を守ってくれた女性。助けてくれたあの日以来、惚れてもいた女性。「絶対、守って見せる」と誓ったのに……。

悲しみのギターをかき鳴らす少年のアパートでは、住民が騒音に文句をつけていた。だが少年の歌は止まらない。

そこでドラマは一旦終わり、次の場面では、田舎道に止まったバスに乗り込もうとする、あの少年らしき男の姿が遠景で捉えられ、それがストップ・モーションされ、休みの国の名曲「追放の歌」が流される。

誰もいない　でこぼこ道を歩いてく
からの水筒も　こんなに重いと思うのに
俺の背中に　こだまする人々のあの歌が
喜びの歌じゃない　追放のあの歌
きのうは俺も　いっしょに歌ってた

少年は、田舎で背広族になって、追放のあの歌を歌う側に戻ったのか。あるいは、今でも「からの水筒」の重さに耐え、でこぼこ道を歩き続けているのか。映画は明かさない。しかし、バスに乗る少年の手には、ギターケースがしっかりと握られていたのであった。

ガロッキング・チェアー

MOVIES

大井武蔵野館

★坂本九・FOREVER

3/3～6●「悲しき60才」(61/寺島久監督)12:30/16:40「アワモリ君乾杯!」(61/古澤憲吾監督)13:50/18:00「九ちゃん音頭」(62/市川泰一監督)11:05/15:15/19:25

3/7～9●「バラキンと九ちゃん　申し訳ない野郎たち」(62/市川泰一監督)11:05/14:20/17:35「見上げてごらん夜空の星を」(63/番匠義彰監督)12:40/15:55/19:10

3/10～13●「喜劇　駅前弁当」(61/久松静児監督)11:15/16:05「坊っちゃん」(66/柳井隆雄監督)12:50/17:40「九ちゃんのでっかい夢」(67/山田洋次監督)14:25/19:15

★2つのデビュー作・周防正行脚本&監督集(特別料金100円増し)

3/14～23●「スキャンドール　脱ぎたての香り」(※初脚本作品・84/水谷俊之監督)11:55/14:10/16:25/18:40「変態家族　兄貴の嫁さん」(※初監督作品・84)13:00/15:15/17:30/19:45

★官能と猥雑の映画装置・牧口雄二監督特集

3/24～27●「毒婦お伝と首斬り浅」(77/東映)13:45/17:20「玉割り人ゆき」(75/デビュー作)11:20/14:55/18:30「玉割り人ゆき　西の廓夕月楼」(76/東映)12:30/16:05/19:40

3/28～30●「広島仁義・人質奪回作戦」(76/東映)11:50/14:50/17:50「戦後猟奇犯罪史」(76/東映)13:25/16:25/19:25

3/31～4/3●「五月みどりのかまきり夫人の告白」(75/東映)13:05/17:00「女獄門帖　引き裂かれた尼僧」(77/東映)14:15/18:10「徳川女刑罰絵巻　牛裂きの刑」11:35/15:30/19:25

●料金…一般1400円/学生1300円/シニア(60歳以上)1000円/最終回一本のみ800円

★レイトショー★

●連日21時から1回のみ999円均一

☆東宝レア・コレクション1

3/1～7「若い仲間たち・うちら祇園の舞妓はん」(63/ザ・ピーナッツ主演)

3/8～14「やぶにらみニッポン」(63/宝田明主演)

3/15～21「男嫌い」(64/淡路恵子主演)

3/22～28「ミスター・ジャイアンツ　勝利の旗」(64/読売巨人軍ほか主演)

3/29～4/4「石中先生行状記」(66/石坂洋次郎原作)

問☎03-3771-4934

中野武蔵野ホール

●3/2～15

「麻花売りの女」11:40/13:30/15:20/17:10/19:00

当日/一般1700円大高1400円

●3/16～22

「天使のわけまえ」12:30/15:55/19:20「急にたどりついてしまう」14:10/17:35

当日/一般1500円大高1300円

●3/23～4/12

「サディスティック・ソング」13:20/16:20/19:20「ホモサピエンス」11:55/14:55/17:55

当日/一般1700円大高1400円

★レイトショー★21時～

●2/24～3/8●「洗礼」

当日/一般1700円大高1400円

●3/9～4/12●

あがた森魚の第七東映アワー

1300円均一

※トークショーも開催予定

3/9～22「僕は天使ぢゃないよ」併映でVTR作品を上映

3/23～26「多羅尾伴内　七つの顔の男だぜ」(60/東映)

3/27～29「月光仮面」(58/東映)

3/30～4/1「月光仮面　絶海の死闘」(58/東映)

4/2～4「少年探偵団　妖怪博士」(56/東映)

4/5～8「花と嵐とギャング」(61/ニュー東映)

4/9～12「2発目なら地獄行きだぜ」

問☎03-3389-3301(劇場)

名古屋シネマテーク

料金●一般/前売・一千四百円、当日一千七百円●大学生/前売・一千二百円、当日・一千四百円●中・高・予備校生/当日・一千二百円●会員/前売・一千二百円、当日・一千三百円

★パリが愛した映画監督「ジャック・ベッケル映画祭」

※メインプログラム

『幸福の設計』(47年カンヌ映画祭グランプリ)『肉体の冠』(シモーヌ・シニョレ主演/51)

※サブプログラム

『赤い手のグッピー』(42)『エドワールとキャロリーヌ』(95)『穴』(60)

(料金・時間は直接劇場へお問い合わせください)

～3/6●ロードショー

★『町でいちばんの美女・ありきたりな狂気の物語』(81/マルコ・フェレーリ監督/81年ヴェネツィア映画祭最優秀外国映画賞)連日20:30～

3/3～15●レイトショー

★『TOKYO・FIST/東京フィスト』(95/塚本晋也監督)11:30/13:15/15:00/16:45/18:30

3/9～15●ロードショー

3/16～22●レイトショー20:30～

★『愛の地獄』(94/クロード・シャブロル監督)

3/16～25●ロードショー

★東京タイムスリップ

『不思議なクミコ』(65/クリス・マイケル監督)『トーキョー・メロディ』(85/エリザベス・レナード監督/坂本龍一・矢野顕子出演)

3/23～29●レイトショー

★『ジェリコー・マゼッパ伝説』(93/バルタバス監督)

3/26～4/5●ロードショー

問☎052-733-3959

BOX東中野

～3/8●★東京タイムスリップ64/85

『不思議なクミコ』(65/クリス・マイケル監督)11:50/14:05/16:20/18:35『トーキョー・メロディ』(85/エリザベス・レナード監督/坂本龍一・矢野顕子出演)12:55/15:10/17:25/19:40

3/9～●〈日本映画監督協会創立60周年〉『わが映画人生』

★レイトショー

3/2～15●「ゲバゲバ笑タイム」木下蓮三の世界

3/16～29●インディーズBOX1「食器を洗う男」「脳の休日」

連日21時～

問☎03-5389-5571(劇場)

ベンハミンの女

ちょっとノータリンの青年(?)ベンハミンは、メキシコの田舎町で姉と暮らしている。彼は**遊び仲間の老人**(?)たちに「**惚れたらさらっちまうに限る**」と煽られ、美少女ナティビダを夜中にさらって家に閉じ込めてしまった。愛情をうまく表現できないベンハミンと、彼を拒絶しながらも母親から解放された自由を味わうナティビダ。彼女はこの小さな町を出て、**よその世界に行きたい**と密かに思っている。母親から、この町から脱出できれ

ば、それでいいのだ……。

ベンハミンはもちろん、彼を取り巻く人間どものド**ーしようもなく素朴**で、スットボケたフリチンさ具合が魅力です。**グッドな映画だ！** この作品は、この映画に惚れ込んだ間宮敏行さんの個人配給。その気持ちがよ～くワカル。91年、カルロス・カレラ監督。メキシコ映画。

●**3月9日**よりレイトショー
●**池袋シネマ・ロサ**にて
問☎03・3986・3713（ロサ）

アキュムレーター1 ▼

毎日TVの前で空虚な日々を送るオルドは、突然ベッドから起き上がれなくなる。**原因不明のエネルギー喪失症**と診断されたが、謎の自然学者フィサレクによれば「TVのブラウン管のむこうに存在する**虚構の世界の分身**に、エネルギーを吸収されてしまっているからだ」そうだ。半信半疑で彼に従いワークをするオルド。ある日、彼は美しい歯科医のアナと出会う。彼女との愛に希望を持ち始めたオルドは、**命がけでTVの世界と対決**しようと決意。TV対オルドの戦いが始まった。

本作は、**ユーロ・ニュー・オーダーズ**と銘打って上映される3作品のうちの一つ。94年、チェコ映画。しかしあなどるなかれ、**奇想天外の発想**と奇妙な不条理に彩られ、十分に**ハリウッドと真っ向勝負できる**、マンガチックでサイコーに楽しいエンターテイメント作品だア。ヤン・スヴィエラーク監督。

●**3月30日**より
●ほかに「**ハーフ・ザ・ワールド**」（オーストリア）、「**モルグ**」（デンマーク）3作連続レイトロードショー
●**俳優座トーキーナイト**にて
問☎03・3470・2880（劇場）

月の瞳 ▼

ミッション系大学で**神話学を教える才媛美女**のカミールは、同じ大学に勤める実直な男性マーティンとイイ仲。クリスチャンである二人は、上司から**早く正式に結婚するように**と諫められる。折りしも、愛犬を亡くして傷心の彼女。コインランドリーでダンサーのペトラとひょんなことから知り合うが、自由に生きる奔放な女性ペトラの、**性を超えた求愛に戸惑い**ながら、彼女に惹かれてゆくカミール。やがて二人は、ペトラの在籍する前衛サーカス団のテントの中で甘い夜を迎えるのだった……。

"自分の欲求に素直になること"をテーマに、**キュートなエロティシズム**を美しくちりばめた、女同士のラブ・ロマンス。パトリシア・ロゼマ監督。95年、カナダ映画。

●**3月下旬**よりロードショー
●**シネ・アミューズ イースト／ウエスト**にて
問☎03・3496・2888（劇場）

ジキル博士はミス・ハイド ▼

香水会社の研究員リチャード（ティム・ダリー）は、**大叔父の遺言**により一冊のレポートを譲り受ける。少年時代から科学者を志し、ヒトに役立つ研究をしたいと願っていた彼は、レポートを読み、大叔父が実在した**本物のジキル博士**だと知る。大叔父の研究を引き継ぎ、一つの薬品を完成させた彼は、自らを人体実験に使うと……あろうことか、**みるみる胸はDカップ**、髪は伸び、イチモツは引っ込んで美女に変身。しかし、変身した彼女はヘレン・ハイド（**ショーン・ヤング**）と名乗り、**リチャードとは全く違う人格**になっていた。リチャードの仕事を奪うため上司を誘惑し、果ては彼の身体の乗っ取りまでを企むのだ……。

服装倒錯あり、**オカマ讃美**ありで、女になりたい願望を持つ男のヒト向けの作品かもしれない!? 95年、アメリカ映画。

●**3月23日**よりロードショー
●**銀座シネパトス**にて
問☎03・3561・4660（劇場）

シベリア超特急 ▼

な、なんと**水野晴郎（！）監督**作品である。**万歳!!** オヤジ・パワー全開爆裂して見事作り上げた、サスペンス映画にして超ナンセンスなヒューマニズム映画だぜオイコラ。**こらもう必見!!**

あえてストーリーなど語るまい。見ればイイのだ。出演に**かたせ梨乃**（北方満州族の役）、**アガタ・モレシャン**（ウイグル女性役）、他。かいつまんでいうと、日米開戦前夜に**山下奉文大将（水野晴郎・デブ専軍服マニア必見）**がヒトラーと会見し、ヒトラーの言葉をたずさえてシベリア特急で帰国した史実をもとに、水野氏自らが脚本を書き上げた、シベリア特急密室殺人サスペンス。衣装デザインに**コシノジュンコ**が、本篇3分の2が英語のため、英語ダイアローグに**戸田奈津子**があたった。「ラスト二段のドンデン返しは、決して話さないで下さい」とコピーにあるが、**死んでも話すもんか！**

●**急げ、絶賛上映中**
●**新宿シネマ・カリテ**にて
問☎03・3354・5670（劇場）

内田吐夢の青春放浪時代 ▼

日本映画史の暗部にキラめく**巨星・内田吐夢のサイレント映画**を上映。これを見ずして清順、信夫を経て至る日本映画的無意識の血脈を語るなかれ!

●3月9日(土)
16:30**「虚栄は地獄」**(27/内田吐夢監督)**「大楠公夫人」**(22/牧野省三監督、内田吐夢出演)
17:15**講演:日本映画の暗黒星雲・内田吐夢**(田中眞澄)
18:30**「闇の手品」**(27/鈴木重吉監督)**「少年美談・清き心」**(25/内田吐夢監督)
●アテネ・フランセ文化センターにて
問☎03・3291・4339(劇場)

自主上映会「ムービー・トラップ3」 ▼

富山市、金沢市での、SF自主映画の上映会です。
上映作:「映画怪獣G子ちゃん(総集編)」「マリコもうひとつの朝」「人間マスク」「特殊捜査官 ロボット刑事B1」「世界で一番恥ずかしいエスパー」ほか全18作品
●3月24日(日)10:00〜
富山市民プラザ3階AVスタジオ(☎0764・25・2412)
●4月7日(日)10:00〜
石川県教育会館2階会議室(☎0762・22・1241)
入場料700円
※尚、ムービー・トラップ4(アクション特集)では作品を募集中。5月30日締切で、ビデオか8ミリフィルムのいずれか。詳しくは☎0764・24・0722(あかせ・よしひろ)まで。

闇なる映画 ▼

御存知**LA CAMERA**の今回の自主上映会では、**名品!「裁かるるジャンヌ」**(27/**カール・テホ・ドライヤー**監督/サイレント映画)を上映。同時上映に、**「VMの漂流」**(90/山崎幹夫監督)**「異国」**(94/山田勇男)。
●2/15〜17 連日19:00より
●料金1000円
●LA CAMERA(地下鉄千代田線乃木坂駅下車2番出口右坂下ルローソン横道入ル突当り左入口赤坂ハイツB1)
問☎03・5410・4405(会場)

BORDER ▼

映画「カナカナ」の**大嶋拓、東京ものがたりクラブ、芹沢洋一郎**、IFF94年の大賞を取った「産業とダッチワイフ」の**白尾一博、大月奈都子**ほかの作品を上映する。
●3/15(金)14:00**大嶋拓①**/16:30**大嶋拓②**/19:00**シンポジウム**
●3/16(土)14:00**大嶋拓③**/16:30**大嶋拓④**/19:00**白尾一博**
●3/17(日)14:00**白尾一博**/16:30**芹沢洋一郎**/19:00**ポップ・キッチュ・グロテスク**
●3/19(火)14:00**東京ものがたりクラブ**/16:30**ポップ・キッチュ・グロテスク**/19:00**大嶋拓⑤**
●3/20(水)14:00**芹沢洋一郎**/16:30**東京ものがたりクラブ**/19:00**大嶋拓⑥**
●中野ZERO(☎03・5340・5000)にて
●前売800円・当日1000円
問☎03・3430・0613(TAC)

イメージリングス・実験リーグ ▼

総合映像格闘技イメージリングス。今回は「実験リーグ」と題して、イメージリングスイチ推しの映像作家二人(**上岡文枝・平野勝之**)にスポットライトを当てたプログラム。昼と夜でガラリと内容が変る!
★ROUND1「乙女心純情影絵❤上岡文枝」
●3/8(金)15:00/17:00
3/9(土)13:00/15:00/17:00
●上映作**「冬虫夏草」「親不知」**ほか
★ROUND2「ゲバルト人魚・平野勝之V

&Rプランニング作品集」
●3/8(金)19:00「水戸拷問」「21歳・藤香澄」
●3/9(土)19:00「ザ・タブー 恋人たち」「ザ・タブー 自力出産ドキュメント」
●料金800円
●新宿Fu-(☎03・3208・9028)
問☎044・812・9341(事務所)

MUSIC & LIVE

echo・U・nite ▼

ケルトロック、アシッドフォーク、60年代サイケデリックなどのポップセンスと、実験的サウンドコンストラクションの融合によるサーカス・サウンド2枚組2ndCD「Tail Songs」を引っ提げたエコーユナイトが、完成記念ツアーをおこなう。
●3/22(金)**新宿LOFT**(☎03・3365・7751)開場18:00/前売2500円・当日3000円
●3/26(火)**名古屋ハートランド**(☎052・202・1351)開場18:00/前売2500円・当日2800円
●3/28(木)**京都磔磔**(☎075・351・1321)開場18:00/前売2000円・当日2500円
●3/29(金)**大阪中津ミノヤホール**(☎06・371・8478)開場19:00/前売2500円・当日2800円
問☎03・3427・7005(事務所)

★石塚俊明 ▼

●3/1(金)三上寛デュオ(西荻窪)アケタの店(☎03・3395・9607)
●3/10(土)福島泰樹短歌絶叫(吉祥寺)曼陀羅(☎0422・47・6782)
●3/14(木)緑化計画(西荻窪)アケタの店(☎03・3395・9607)
●3/17(日)福島泰樹短歌絶叫/下谷小学校

ガロッキング・チェアー

ガロッキーブティエア

●3/19（火）シノラマ〈吉祥寺〉MANDA-LA2（☎0422・42・1579）
●3/27（水）永畑雅人ユニット〈吉祥寺〉MANDA-LA2（☎0422・42・1579）
●3/29（金）福島泰樹短歌絶叫／保谷市
●3/30（土）シノラマ〈金沢〉Pスペース（☎0762・29・0881）
●3/31（土）シノラマ〈金沢〉Pスペース（☎0762・29・0881）
●4/1（木）三上寛デュオ〈西荻窪〉アケタの店（☎03・3395・9607）

★三上寛

●3/1（金）三上寛デュオ〈西荻窪〉アケタの店（☎03・3395・9607）
●3/15（金）〈市川〉りぶる（☎0473・26・9507）
●3/20（水）〈東金〉エルビン（☎0475・52・1937）
●3/25（月）〈両国〉フォークロアセンター（☎03・3631・8273）
●3/1（木）三上寛デュオ〈西荻窪〉アケタの店（☎03・3395・9607）

★坂本弘道

●3/1（金）パスカルズ〈吉祥寺〉MANDA-LA2（☎0422・42・1579）
●3/19（火）シノラマ〈吉祥寺〉MANDA-LA2（☎0422・42・1579）
●3/22（金）エコーユナイト〈新宿〉LOFT（☎03・3365・7751）
●3/26（火）エコーユナイト〈名古屋〉ハートランド（☎052・202・1351）
●3/28（木）エコーユナイト〈京都〉磔磔（☎075・351・1321）
●3/29（金）エコーユナイト〈大阪〉中津ミノヤホール（☎06・371・8478）
●3/30（土）シノラマ〈金沢〉Pスペース（☎0762・29・0881）
●3/31（土）シノラマ〈金沢〉Pスペース（☎0762・29・0881）

★両国フォークロアセンター

●3/2（土）もとことソアラ～早春符～ 19時～ 1500円（1D付）
●3/3（日）藤衛門（パンク） 19時～ 1500円（1D付）
●3/7（木）ビデオギャラリー近文絵 19時～ 2000円（1D付）※近文絵ライブ・アンソロジー（1990～95）鈴木たかつぐ作
●3/10（日）ISSEI SUZUKI（ポエトリーリーディング） 19時～ 1500円
●3/14（木）15（金）お化け映画「W・ガスリームビーナイト」 18時～／20時～ 1500円
●3/17（日）沙利夢治人（ポエトリーリーディング） 17時～ 1500円（1D付）
●3/21（木）ビデオギャラリー近文絵 19時～ 2000円（1D付）※近文絵ライブ・アンソロジー（1990～95）鈴木たかつぐ作
●3/23（土）「スタディー・オブ・ビート・ジェネレイション」解説：鈴木一成 19時～ 1500円（1D付）
●3/25（月）三上寛 19時半～ 2000円
●3/29（金）映画「アレン・ギンズバーグ&ローレンス・ファリンゲィー」～ビートジェネレイション・リバイバルナイト！ 18時～／20時～ 1500円
●3/31（日）小林シゲオ日本のフォークソング再興運動 17時～ 1500円（1D付）
●毎週（月）・（火）FOLKLORE HOOT出演者募集中 18時開場 19時30分開演 1000円（1D付）
問☎03・3631・8273

今月の大塚まさじ

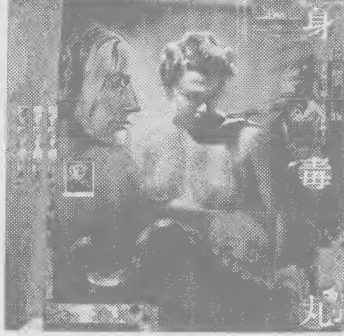
社内一番のヘビーローテーションCD『風のがっこう』の大塚まさじ氏。今月のスケジュールは…

●3/1（金）〈伊丹〉アイフォニックホールエントランスロビー「ACOUSTIC NIGHT vol.6"風のがっこう"」ゲスト・チャールズ清水☎0727・80・2110前売¥2500当日¥3000チケットぴあ
●3/2（土）〈広島〉オーティス☎082・249・3885
●3/3（日）〈唐津〉RIKI☎0955・73・7142
●3/5（火）〈博多〉スタムテッシュ☎092・724・8255
●3/6（水）〈鳥栖〉わいず☎0942・85・3465
●3/7（木）〈福島県吉井町〉サニーボーイクラブ☎09437・6・5001
●3/9（土）〈東京都昭島市〉祥珈琲店☎0425・46・4776
●3/16（土）〈佐賀県富士町古湯温泉〉北部山村開発センター☎0952・58・2111「サウンドセッション富士95」

皆で行けッ!!

ヒカシュー

●3/9（土）渋谷LA MAMA会場19時・開演19時半☎03・3464・0801（LAMAMA）問03・5386・5546（PUZZLIN' OFFICE）

J・A・シーザー
幻の名盤がついにCD化!!

J・A・シーザーといえばガロ読者にはお馴染み「天井桟敷」の全音楽担当として一部で熱狂的な支持を受けている。今回CD化された音源のオリジナル盤は確か新宿の中古盤屋で十万の値段が付いていた（しかもその値段で売れてやんの）。配給元のベル・アンティークは、プログレ系音楽雑誌「Marquee」を出しているマーキームーン社の持つレーベル。このテのものというと、裸のラリーズのCDとかジャックスのCDボックスとか、初回プレス分のみですぐ手に入らなくなる場合が多いので、とりあえず早めに手に入れておくのが安全かも。

J・A・シーザー・リサイタル
「国境巡礼歌」CD番号・BELLE95168／¥2910（税抜）
天井桟敷（J・A・シーザー）
「身毒丸」CD番号・BELLE95169／¥2910（税抜）

Che-SHIZU（シェシズ）
ワンマンショー

●3月20日（祝）19時～
〈明大前〉キドアイラックホール
☎03・3322・5564／前売（モダンミュージック）2200円・当日2500円
メンバー……向井千恵（胡弓）他
予約問☎0423・88・0729（小間）
幻の名盤解放同盟（湯浅学、根本敬）やとうじ魔とうじ氏とも共演した、懐かしくも新しい胡弓をフィーチャーしたバンド「シェシズ」のライブ。どうですかお客さん。

ACT & STAGE

大人計画・俺隊「赤い給食」
作・演出／井口昇

昨年12月上演の「口から花のさく女」に続く井口昇作・演出／池津祥子主演作品第二弾。
●2／28（水）〜3／3（日）下北沢ザ・スズナリ昼公演（土日のみ）14時半開演・夜公演19時開演　問03・3327・4333（大人計画）

指輪ホテル「オンディーヌ」

オンディーヌとは、アンデルセン童話の人魚姫のもとになったといわれている水妖伝説。ユビワにとって過去最大規模**35人のオスとメス**が、いつもながらの過剰な舞台美術、オリジナル曲をひっさげての楽団、奇想天外なコスチュームで公演する。
●3／15（金）**〜3／20**（水）
※平日19時、日と最終日14時より。受付1時間前、入場20分前。
※日替りレイトショーあり
●法政大学学館ホールにて
●前売3000円・当日3300円
問☎夜03・5984・2569／昼080・507・5677（劇団）

遊園地再生事業団#7「砂の楽園」

砂漠監視の任務を遂行する男たち。彼らはひたすら砂を見つめ、持て余した時間をトランプや、返事の戻らない手紙を書いて過ごしている。ある日、彼ら全員が同じく美しい女の夢を見た。やがて、現実に砂漠の向こうからやってくる女。これは幻覚なのか？　はたして報告書に書いていいものなのか……？
●3／20（水）**〜4／7**（日）19：30開演・土日マチネ15：00開演※火曜休演
●下北沢ザ・スズナリ（☎03・3469・0511）にて
●前売3500円・当日3800円
問☎03・5454・0545（劇団）

ダンスカンパニー／ノマド〜s「ザイ・イグズィスタンス」

存在の"**在**"をキーワードに、イグズィスタンス＝実在、生存、全存在物といった様々なスケールのザイを**身体から解き放つ**。ザイとは、生きて"在る"罪か、死んで土と"在る"いのちか？
●3／13（水）**〜2／15**（金）開演19時半
●横浜ランドマークホール（☎045・222・5050）にて
●前売3300円・当日3600円
問☎03・3828・4858（劇団）

OTHERS

★畑中純・第二回注文の多い版画展

前回個展が好評につき、ついに第二回目の版画展を開催します。「まんだら屋良太」使用作、初期の作品、「COMICばく」の表紙、宮沢賢治をモチーフにした作品などを中心に、**150点余りを展示**。しかも！　会場2ヶ所同時に開催だァ。
●〜3／14（木）12：30〜19：00
①COMIC BOX GALLARY（☎03・5373・5618）
②TEA ROOM ODEON（☎03・3339・4789）
●入場無料
問☎03・5373・5780

タンザニア・ザンジバルの3人のアーティスト展

まだ20代という若さの、**ハシム・アブディ、サルム・ムチ、アサー・アマッド**の各氏は、ザンジバル国立の美術・民芸学校の美術・版画科の講師である。それぞれ、土着信仰にもとづくテーマや、祭や儀式などをモチーフに描き、原始的な力強さで表現している。
■PART1●3／25（月）〜4／3（水）ギャラリー・トモス（☎03・3271・6693）日曜休廊
■PART2●3／25（月）〜3／30（土）ギャラリー21＋葉（☎03・3567・2816）
■PART3（予定）**●4／6（土）〜4／17（水）松月堂ホール**（☎0423・41・1455）

★弥生美術館

「〜未公開押絵による〜高畠華宵　美少年・美少女展」
●3／28（木）まで
●一般700円／大・高600円／中・小400円（竹久夢二美術館と共通）月曜休館※但し2／12開館2／13臨時休館
問TEL03・3812・0012

★竹久夢二美術館

●「女によする」展覧会〜女心をとらえた美人画デザイン小物より●3／28（木）まで（弥生美術館と併せてご覧になれます）問TEL03・5689・0462

★デジタローグギャラリー
「もとみやかをる展・うさぎ計画」

▼

ヘアボール・ラビットやヘアボール・ガールのなかに手を入れると、そこはなんだかあったかくて、**ぷよぷよしているインナー・スペース**……。もとみやかをるの「ヘアボール・シリーズ」は、**兎を解剖した経験から生まれた**、触覚体験型マシーン。目を瞑って指先から感じるアートを体験しに、どうぞいらしてください。

●3／19～4／7
●デジタローグギャラリー（☎03・3408・2494）にて

★3月のギャラリーKuuは唐仁原教久さんです（☎0422・23・0868）

林静一CD-ROM「心象風景」3月末発売!!

昨年12月号でもお伝えした**林静一氏のCD-ROM**がツァイトより愈々発売されます。内容は、今まで発表された林静一作品のうち、マンガだけでなく、**オリジナル映像作品**や、70年前後に制作された**幻のアニメーション**なども収録。さらに何と**原マスミ氏**がオリジナルの音楽をつけるという、**眩暈がしそう**な豪華さ。これはもうパソコンなんか持ってなくても買ってみて、**こまわり君**のように盤面を読むしかないですね。**ハイブリッド**版なのでMacでもWindowsでも楽しめますよ。

【必要なシステム】
★Macintosh…CPU68040／33MHz以上
メモリ／空きメモリ4MB以上
モニタ／カラー32000色以上
★Windows……CPU486DX2／66MHz以上
メモリ／実装8MB以上
モニタ／カラー32000色以上
その他／サウンドブラスター等のサウンドボード必須
【価格】5800円（税別）
【販売】株式会社ツァイト ☎03-3299-0459

ガロッキング・チェア
ゴシップ&ブック

今月の謎のプレゼント

▼

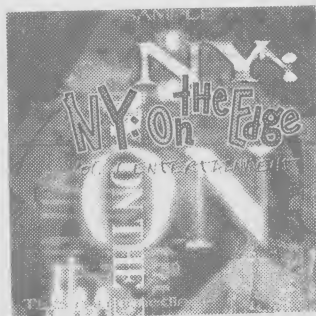
「ブルーダイアモンド・アーモンド・グロワーズより、お菓子作りの大好きな方200名様に、良質でおいしく、しかも**便利な**カリフォルニア産クッキングアーモンド4種をプレゼント」との封書が、とある昼下がり、ガロ編集部のポストに舞い込んだ。**一体何のことかよくわからないが**、お好きなムキは、官製葉書に住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒150・88 渋谷郵便局内「ブルーダイアモンド・アーモンド USA」プレゼント係までご応募なされよ。4月30日消印有効。

［♂］

NY:On the Edge
vol・1「魔窟のエンタテイメント」
TBS／定価5800円

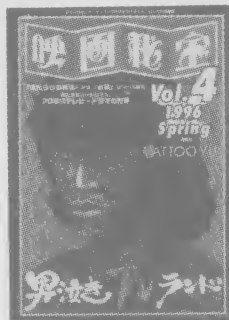
▼

ニューヨークの裏街では、アーティストやミュージシャンなどの**エッジー（とんがった）なニューヨーカーども**が、エキサイティングで危険な日々を送っている。この**CD-ROM**は、彼らのクリエイティヴなエネルギーの源泉である**NYストリートカルチャー最新情報を満載**した「ちょっと危険なNY潜入ガイド」なのだ！

というわけで今回のvol・1では、NY**オカマ事情**、**クラブ・シーン**、女性ハスラーの世界を紹介。人物、場所、音楽と、ムーヴィーをプレイしながら多角的に情報が検索できるようになっている。尚、日本語、英語の**バイリンガル**になっております。って、見たようなこと言って、オレ実はまだ見てないの。ゴメン。会社にマシンが無いんです、クソォ

映画秘宝vol・4「男泣きTVランド」
洋泉社刊／定価1400円

▼

ついに出たかッ！「傷だらけの天使」「探偵物語」「悪魔のようなあいつ」「Gメン75」「特捜最前線」「素浪人花山大吉」「プレイガール」「男たちの旅路」「おしどり右京捕物車」ああ気が狂う！　そう、あの頃TVは映画だった。**オトコとはなんぞや**と、オレたちガキどもはTVの毒電波から映画を見るように「オトコ」を吸収した。オサムちゃんことショーケンの**カッコ悪いカッコ良さ**しかり、クドーちゃんことユーサク兄ィのハードさを突き抜けた**ユルくてカタい**半立ちチンポの美学（そんなのあるか?）しかりだ。今でも鮮明に

覚えているのは、Gメン75で刑事役の夏木マリが犯人に拉致され人質になり、次の人質釈放のシーンで夏木の衣服はさりげなく乱れており、その表情には、憔悴してはいるがどこかイイ汗かきましたという淫蕩なニュアンスのリアリズムが漂っていたのを。つまり、別な意味でも「オトコ」を磨かせていただいた！ [♂]

SUPER SCHOOL
▼

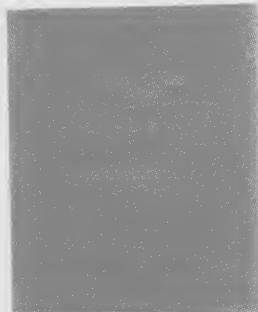
東京の写真・編集・デザインをワーク・ショップするスーパー・スクールが、リトル・モアと青山ブック・センターのプロデュースで**4月10日に開校！** そんぞそこらのカルチャー・センターと一緒にしないでくれよ。今、最も元気に活躍するクリエイターや編集者たちの「**生きた方法**」を"**盗みとる**"小数精鋭主義のワーク・ショップだ。①**東京写真術**、②**東京編集**、③**東京グラフィックス**の3プログラムで、6回で一つのプログラムが完結するというもの。

3月13日予約受付開始。授業料は一回￥3000×全18回＝￥54000（別途、教材費あり）。4月から9月まで、各講座30名のみの企画デス。しかも、②の『東京編集』の8回目「編集者座談会」に、**ガロ副編の白取が登場！** おっと、ヒヤカシはなし。マジメに勉学する方のみ、☎03・5485・5513へ電話せよ！ [♂]

トキナオミ写真集
「別人」「OBSESSION」
出版記念個展
▼

映画「**blood**」は、ガロシネマ企画作品として某映画製作会社に手渡したまま、凍結状態のようだが、このたびツァイトの協賛で**禁断のエロス作家・トキナオミが写真集「別人」『OBSESSION』を3月末に発行**（発売は青林堂）する。

その出版を記念して、**4／2（火）～4／7（日）**連日11：00～19：00**銀座・清月堂ギャラリー**（中央区銀座5・9・15・清月堂ビル3F ☎03・3571・2707）にて**トキナオミ写真展**が開催される。彼女の初期のアーティスティックなエロス作品から、最新の耽美的な女性ヌードまでを展示。女性たちが、仮面の奥に秘めた淫らさをさらけだすのを、われわれはまるで**鍵穴から覗くような気分で堪能できる**。ぜひお越しを。 [♂]

釣崎清隆／死体写真集HARDCORE WORKS
NG PUBLICATION INC／7800円
▼

ビデオ監督、ハードコアバンドのベーシストと**鬼才アーチスト**ぶりを発揮している**釣崎清隆**が**オールカラー死体写真集**を完全限定千部で作り上げた。

毎夜銃声が響きわたる危険な異国の地で、ミイラ取りがミイラになりかねない状態で撮り続けた、まさに「**死に物狂いの死体写真集**」。そうそう手に入るシロモノでは無いだけに限定数が気になるところ。無くなる前に手にいれておこう！

(問)エヌジーパブリケイションTEL：03－5486－0700（PM2：00～AM4：00） FAX：03－5481－8452（24h・OK）

通販方法は一冊につき、送料込み8000円を現金書留にて送金していただくか、電話でお申込いただき、代金引換でお受け取りになれます。 [◉]

薩摩義士伝（上・中） 平田弘史
日本文芸社／定価各1200円
▼

長らく絶版となっていた本書が**A5判とサイズも大きく**なって迫力を増した。最近の若手マンガ家には時代物を手掛ける人が少なくなったが、確かに現代物と違い、時代考証やら何やら**メンドウなことが多い**のは確か。資料を集めたり、作品を仕上げるまでに要する労力がハンパじゃないのだ。特に平田作品の細部にまでこだわった描写を見ていると、その感は一層強まる。時代物をひたすら描き続ける平田弘史だが、平田作品には「**カムイ伝**」におけるカムイのような了解しやすいヒーローは一切登場せず、人物を常にリアルな、あるがままの姿として取り上げている。"**平田式リアリズム**"とも言うべきこの作品の組み立て方は、見方によってはとっつきにくい印象を与えてしまうかも知れないし、実際、本作品も未完のまま連載が中断している。しかし、「薩摩にひえもんとりとりと言う事あり」という手書き文字で始まる壮絶な生き肝取りのシーンを始め、この作品が、**他の誰にも表現できないもの**であることは間違いない。今回の単行本再登場を機に、**一人でも多くの人に読んでもらいたい**と切に願う。 [二]

黒いギャンブラー／蛭子能収著
竹書房刊／定価1200円
▼

「テレビジョッキー」では、わざわざ熱湯風呂にまで入って宣伝をした、エビスさんのギャンブルマンガの新刊本では、**大塚寧々**が帯文に「蛭子さんの独特な世界にもっともっと**触れてみたいです**」と書いてますが、**止めた**ほうがいいのでは、と思うのはガロ編集部だけでしょうか。まっ、それはともかく、エビスさんお得意のギャンブルネタで、"黒い"とあるのは、主人公が**サングラス**をかけているからです。そしてもっとすごいのは、このマンガは後ろから逆によんでも**あまりかわりがない**、ということころで、磨きがかかると、こういうふうに変化するのか、と改めて感心してしまいましたよ。最後に収められているエッセイ「**えびす流世界のオンナたち**」では、一度もベッドを共にしたことのない世界の女性について書かれております。もう、気分は**世界のヨッチャン!!**であります。 [戸]

白いガクラン－文芸部長 白雲姫男の詩
しりあがり寿著／新潮社刊／定価980円
▼

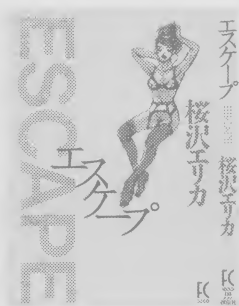
まるであのブライアン・フェリーがのり移ったんじゃないか、とつい思ってしまうような、強烈なキャラクターの**白雲姫男クン**は、悩みは多いがたくましい。要するに、自分のことだけ考えて生きていられる、**世界一幸せな男の物語**です。自分のことしか考えないで生きている人はたくさんいるけれど、ここまでくると天晴れです。しりあがり氏の**光るギ**

ガロッキングチェア

ヤグが憎めないキャラクターに仕上げております。同時収録の「**土器土器ジョーモン先生**」も面白くて、千円だせば二十円も**おつり**がくる、というお**買得**ですっ!! 〔円〕

格闘王⑥「ムエタイの本」
福昌堂刊／定価1100円
◀

ムエタイとはタイ式ボクシングのことでありますが、ムエタイを語らせたら右に出るものはいない、との噂もある**東陽片岡氏**が、この本で、ムエタイマンガ「**居酒屋キック**」とエッセイ「**タイ人は悪者だ**」を熱筆されております。東陽氏はこのところお仕事の方もなかなか順調で、こうして好きな分野の仕事もこなされるようになりましたが、それまでの苦労といったらアータ、SM雑誌の取材で**女装**させられ痛めつけられるわ、ホモの店に**フンドシ一丁**で行かされるわで、**涙なし**には聞けないお話ばっかりです。でも、今年は東陽氏の初の単行本も出るワケですから、**女性のみなさん**、どうぞ、ご**注目**下さいませ!! 〔円〕

エスケープ／桜沢エリカ著
祥伝社刊／定価950円
◀

お待たせ、**桜沢エリカ先生**の新作です。主人公・人志がアルバイトで家具を届けた女のコはAV女優だった、そしてそこから始まった**胸苦しい恋のドラマ**❤…「**フィール・ヤング**」誌での好評連載に描き下しを加え、「エスケープ」の香りにのせて単行本化!! もう毎回書くのも**アレ**ですが、とにかくエリカ先生今こういう切なくてどこか悲しい、それでいてリアリティのあるドラマを描かせたら**ナンバーワン**ですな。こういうストーリーをこそ、ぜひしっかり**ドラマ化**して欲しい。オリジナリティゼロ・パクリ放題のバカ脚本家と演技力ゼロの学芸会並のお子様俳優には、やって欲しくないが。深夜に、大人の鑑賞に耐え得る**良質の**ドラマ、どっか作ってくれぃ。〔♪〕

ボディコン主婦と生活②／塚本知子著
祥伝社刊／定価880円
◀

あの**スーパーセクシーママ・安部マリア**が帰ってきた!! つーか、あの、**2巻**です。夫・子持ちながらウルトラダイナマイトバディを持つママ・マリアの**多少淫乱自意識過剰的日常**を描いた人気コミック。『**微笑**』の**SEXアンケート**結果が頁のスミに入ってたりして、**サーヴィス満点❤**。ところで作者の塚本さんも主婦ではありますが、**ブリティッシュ・ロック**を愛するセクシー漫画家(?)だそーです。ブリティッシュロックと聞いちゃ黙っちゃいられないんで、そのセツは一つよろしくお願いします。〔♪〕

アタゴオル玉手箱⑧／ますむらひろし著
偕成社刊／定価880円
◀

お待ちかねのアタゴオル玉手箱の第8巻が出版されました。この巻では食いしん坊のヒデヨシがなんと土まで食ってしまい、それだけでは飽き足らず貴重な古代の魚や食べると腹痛をおこしてしまう魚まで食ってしまいます。しかしそれによって、何か重要な事に気が付くことになるのです。〔◐〕

しょうじょ探偵団／小道迷子著
新潮社刊／定価950円
◀

二人の少女探偵みしんとかさの元に次々と不思議な事件が舞い込んでくる謎が謎をよぶお話です。「コミックトム」に連載されたものに大幅に加筆、習性をおこなってあり、特別書き下ろしエッセイ付きという力の入った本です。〔◐〕

チャイニーズ・ラプソディー
作：川合章子　画：トオジョオミホ
光栄刊／定価1500円
◀

中国明代の選話集「今古奇観」の**艶話**からよりすぐった、男女が演じるさまざまな愛のかたちとハプニングをコミカルタッチで原作を川合章子、原画をトオジョオミホの両氏が描いたファンタジックなラブストーリーであります。川合氏の文章にトオジョオ氏の絵がとても合っていてとても読みやすくて良い本です。〔◐〕

シロと歩けば①／内田かずひろ著
竹書房刊／定価600円
◀

雑種の飼い犬シロとその飼い主の家族のかわいい物語。犬のちょっとしたしぐさや、行動が、犬を飼ったことがある人や犬が好きな人は「わかるわかる」となって、犬の事をよく知らない人には「そうか犬ってこうなのか」とわかります。けど犬ってバカでかわいいなァ。えほんまんがとタイトルにあるように、とてもかわいい本です。〔◐〕

噂の貧相 15

伊藤徹 *Tohru ITOH*
絶版古書専門店／編集工房「龍目舍」代表

"追悼・長井勝一『ガロ』の魂"

長井さんが亡くなってから、はや一か月が過ぎた。青林堂のパーティで二、三回ご挨拶させていただいただけの間柄だが、自分自身が強く影響を受けた『ガロ』の編集長を長く勤められていたこともあり、ひとつの時代が幕を閉じた感は拭い切れない。『ガロ』は今後も変わりなく出し続けられるかもしれないが、長井さんがつくったひとつの『ガロ』は完全に終わったのだ。

私が『ガロ』に夢中になっていたのは昭和四十二年頃。勿論水木しげるが「鬼太郎夜話」を連載していた時で、当時は中学生だった。今から考えると、「鬼太郎夜話」は「カムイ伝」と同様、水木自身はあまり作画にタッチしておらず、その時のチーフアシスタントであった池上遼一らによって、貸本時代の兎月書房『墓場鬼太郎夜話』の一、二、三話「下宿屋」「あう時はいつも死人」、三洋社『鬼太郎夜話』の全四話「吸血鬼と猫娘」「地獄の散歩道」「水神様が町へやってきた」「顔中の敵」をかなり忠実にリライトしたものだった。

ただ当時はそんな事情は知る由もなく、奇妙な物語に翻弄されるままであった。三味線を作った残りかすのねこの頭を店頭に並べて一個十円で売っている"ねこや"、鬼太郎の弁当のおかずに入っているどぶねずみを見るや否や凶暴な猫娘に変身する美少女寝子、咥えタバコで『墓場鬼太郎』の本を読みながら鬼太郎の神通力を研究しているニセ鬼太郎、♪コラッソンコラッソン♪♪レメロンレメロン♪のリズムに乗りながら通りを練り歩くねずみ男とニセ鬼太郎、軽く鬼太郎を手玉に取りカモにするナンダカ族の兄ちゃん、貧乏で毎日玉ねぎばかり食っている物の怪、チャック状の口を"ギギギギギ"と閉めながら男共を魅了するがま令嬢と、何とも個性的な面々が水木の創造した不思議世界を縦横無尽に跋扈し、そうでなくてもアクの強い『ガロ』の誌面を、そこだけ異空間に変えていたような気がする。「鬼太郎夜話」のところだけスッポリと……。

それに鬼太郎の通っている学校の教師は着物と袴姿だし、便所の扉は木造で、いったい何時の時代の話なんだと思わず大阪スタイルの突っ込みを入れたくなる場面が目に付くが、再び「カムイ伝」と同様、商業誌では絶対に成立しない作品であることは間違いない。また連載も、第一回十頁、第二回四十九頁、第三回三十七頁、第四回二十八頁と、ほとんど成り行きに近い頁数で、それも『ガロ』だから許されたのであろう。

こんな、ある意味ではおおらかな状況がみられた当時は、『ガロ』にとっても、長井さんにとっても、一番幸せな時代だったのかもしれない。

ガロッキングチェア

玄田牛一の今月のゲスCD

長井さんが亡くなったというのに「ゲスCD」なんてフザケてすいません。私も材木屋の二階の青林堂に一度行ったことがあり、長井さんに言葉をかけていただき感激した覚えがあります。

さて、今月はゲスCDとはちょっと違うかも知れませんが、昔懐かしいテレビ番組の主題歌を。写真の**「ハンナ・バーベラ日本語版主題歌集」**（東芝EMI・TOCT-8498・99）は2、3年前に出たものですが、70年代、東京地区では東京12チャンネルの**「マンガの国」**とか**「マンガキッドボックス」**で放送されていた、外国モノのアニメの主題歌集。**「スーパースリー」**（**ラリホーラリホーの**）とか**「怪獣王ターガン」**（**ヒューヒュー、ボーボー!!**）、**「大魔王シャザーン」**（**パパラパーの**）などが入っているのですが、**「ベルトよ～」**のセリフが懐かしい「冒険少年シンドバッド」（こんなタイトルだっけ）や、「スーパーマーン、スーパーマーン、にーんげんを超えたおーとこー」のしょうもない主題歌が印象的だった「スーパーマン」などが収録されていないのが不満。たぶんこの辺の作品は制作がハンナ・バーベラではないんでしょう。

ところで昨年、**「クレクレタコラ」**のLDBOXが出て話題になりましたが、多分同時期に放送されていた実写モノ**「むしむし大行進」**や**「カン入りおたま」**を覚えている人が全然いないのは何故でしょう。ガロ編集部の方々に聞いても誰も覚えておらず、挙げ句の果てに**「それは玄田さんの妄想でしょう」**と片付けられる始末。妄想呼ばわりされては私もだまっちゃいられません。

「むしむし大行進」の主題歌はこんな感じです。**「むしむしむしむしむしむし～どんどちっちどんどちっちどんどちっちどん、ちゃかぽこちゃかぽこちゃかぽこどん、ちょこまかちょこまかちょこまかどん、むしむしむしむしむしむし、むしむし大行進」**。

「むしむし大行進」は文字通り虫が主人公の実写もので、演技をさせるために虫に電流を流して、暴れる様子で演技をさせていたと記憶しています。確か新聞に「残酷だ」という投書が載ったようにも記憶しているのですが。「カン入りおたま」はジュースの空き缶に閉じ込められてしまったおたまじゃくしの話。あと題名は忘れましたが、チンパンジーが主人公の似たようなドラマもありました。こちらの主題歌は**「チンパン、チンパラララッタ、チンパン、チンパラララッタ、パンチだピンチだチンパラレロ、ウッシシ」**とかいったと思います。

このままでは私は妄想野郎呼ばわりされてしまいます。だれか覚えてませんか。

●覚えているという方は、ガロ編集部気付・**「玄田牛一の妄想係」**までご一報を。

ガロッキングチェア

★今月のとうじ魔とうじ

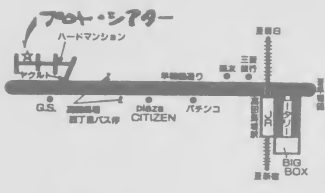
連載は2ヶ月お休みとなってしまいましたが、ちゃーんと「見る」とうじ魔とうじが3月中旬からご用意出来ておりますので、ご堪能下さいませ。

●文珠の知恵熱第7回公演
「世紀松アキノリウム」
構成・演出・出演：とうじ魔とうじ（特殊音楽家）、松本秋則（不思議美術家）、村田青朔（元舞踏演芸家）
日時：3／15（金）～20（水）19時開演（最終日20日はマチネのみ14時開演。開場は各30分前）
会場：プロト・シアター（高田馬場駅より徒歩13分☎03－3368－0490）
料金：電話予約2500円　当日2800円
予約・問☎：03－3794－5126（とうじ魔とうじオフィス）

●ジャンル撲滅運動　春のキャンペーン
出演：AKIRA、とうじ魔とうじ
日時：3／31（日）19時～
会場：高円寺ショーボート
料金：前売1500円
前売・問☎：03－3337－5745（ショーボート）

※ぜひ皆さんも何かひとつ**「ジャンルを越えた物」を持ってきて下さい。**例えばようじ付歯ブラシとか幼児付花嫁とか。**品評会**を行ないます。

【米】

●第2回●
題字…池松江美

コンピュウタを仕事に使っている人々は、たいがい腰を痛めるとか、痔瘻を患うとか悲惨な健康状態に至ってしまうようです。ようです、というのは、幸いにも僕はまだそのような憂き目にあった事のないピチピチのヤングマンだからなのですが、まあ患うのも時間の問題でしょう。

長時間イスに座りっきりでカタカタと仕事をしていることが、よもや体にいいわけがありません。ディスプレイからの電磁波とあいまって、我々人類はどんどん不健康になっていくのです。べつに、必ずしも椅子に座らなければならない理由は無いわけで、僕ん家ではコタツにパソを置くという事をやっていましたが、結局いかに座椅子が心地よいとはいえ、やはり長時間座っていれば疲れます。

コタツトップよりも気楽な体勢とは何でしょうか。それは布団に他なりません。布団に寝転んで仕事ができるなんて、夢のような二十一世紀のオフィスじゃあありませんことでしょうか。テレビやファミコンは寝ながらできるのに、パソコンは机でやらなければならないなどという固定観念に囚われているようでは、ハッピーメディアはクリエイトできません。ハッピーメディアって何ですか?

しかし、布団の道も奥が深いもので、より楽な体勢を追及するのならば、うつぶせよりもあおむけを是非おすすめしたいところです。しかし、天井にはディスプレイがありません。ノートパソコンなら腹の上に置いてラッコのようにカタカタできそうですが、首の角度が問題になりそうです。さて、布団にあおむけに寝た状態で、パソコンのモニタを完璧に楽に眺められるようになるためには、文明の利器の力をかりる事にならざるをえません。そこで、

「ごろねスコープ・見楽マン」！

なんかとりあえず中華ドラの音でも鳴らしといて下さい。

写真を見てわかるかどうかですが、眼鏡の形をしています。かけると、いきなり90度下の足元が見えます。

小学生でも考えつきそうな素晴しいアイディアではないでしょうか。これを商品化するに踏み切った会社は、なかなかだと思うのですが。説明書を読んでみると、

「このスコープは高級光学プリズム(三角プリズム)の一辺に特殊蒸着によるメッキ加工をし、光線を直角に屈折反射させて被写物体を鮮明に見ることができます。」

うんぬんと、難しい書き方がなされていますが、要するに鏡ですよコレ。前を向いたら下が見える角度の鏡。

ところが実際にかけてみると、単純な仕組みながら実にサイケデリックな錯覚に陥るのです。自分の手がすぐ下にあるはずなのに前方にあって、たしかに物をつかんでいるのに、うまく持てないのです。まるで自分の手がゲーム画面の中にあるかのようでいて、距離感もなにもムチャクチャな事になってしまうのです。立って歩こうとしようものなら大変な事です。前を見るためには上を向かなければならないと頭ではわかっていても、つい足をぶつけたりして、とっさに下を向いてしまい自分の腹がとつぜん視界いっぱいに広がったりして、なにがなんだかわかりません。

逆バーチャルです。

アナログな仕掛けを介して、現実世界が一瞬にして崩壊します。仮想現実ならぬ、現実の仮想化が起きてしまいます。いったい自分は本当にこの現実に存在しているのですか?時間とは?空間とは?そして、宇宙とは?

とまでは大ゲサですが、とにかくショッキングな体験ができます。サイバースコープでいくらリアルな3DCGを見せつけられたところで、現在の技術ではこの見楽マンにかなう衝撃は得られないのではないかと思われます。がんばれ、デジタル。

ところで、あまりのことに当初の目的を忘れてしまいましたが、これをかけて寝転んで仕事をするのでしたでしょうか。あの、それ、全然ダメでした。とにかく気が散って、能率が全く上がりません。鼻柱を隔てた左右の視界が分離してしまうという最大の欠点もあり、ぜんぜん実用的ではないのです。ヤバイわコレ、またムダな物を買っちゃったよ。どうするよ。

気になるお値段は、なんと3千8百円。どうするよ、この無駄遣い。こんな子供だまし。どうですか、お客さん。

今月のボブ・マーリィ

犬丸一男

　長井勝一氏が亡くなったという。一度もお会いしたことはなかったが、「ガロ」や青林堂の出版物を通して感じていた長井氏のマンガに対する姿勢、考え方は共感することが多かった。ご冥福を心よりお祈りしたい。実は僕がこんなコーナーを音楽誌でなく、マンガ誌に頼み込んで載せてもらったのは、白土三平氏のファンだったこともあり「カムイ伝」の載っていた雑誌にはボブ・マーリィ情報が載っているべきであるという、まことに自分勝手な理屈によるのだ。

　さて、以前一度お蔵入りになったマーリィの日本公演のCDがようやく日の目を見ることになった。原稿を書いている時点ではモノを確認していないのだが、この号が出る頃にはCD屋の店頭に並んでいるはず（レコード会社はこのところマーリィ関係の胡散臭い音源を続々リリースしているTDKレコーズ）。

　マーリィは79年の4月9日～13日、東京と大阪で計7回の公演をした。日本へ来たのは後にも先にもこの時だけ。翌々年5月にはガンで亡くなっている。4月10日の中野サンプラザ公演の模様は録音され、同年4月29日にFM東京系「東芝ステレオ・サンデー・ミュージック・スペシャル」で放送された。古くからのマーリィ・ファンはこの時のエアチェック・テープを大切に聴き続けていた人も多いが、今回ようやく、公式に日の目を見るわけだ。

　演奏は、初の英語圏以外でのコンサートということもあり、若干ぎこちないが、当時のマーリィといえば海外では大会場でないとさばき切れないビッグ・アーティストだった。それが日本では中野サンプラザである。同時期のマーリィのライヴには珍しく、小さなクラブ的な音になっているのが貴重。もちろん、今もしマーリィが生きていたらサンプラザなんかで収まるわけがない。

　考えて見れば15年ほど前まではレコード屋にもレゲエ・コーナーなんてものはなく、LPは「民族音楽コーナー」に入れてあったりした。今はレゲエ・コーナーはしっかりあるし、アーティスト別に分けられたりして昔とは大違いだ。

　ちなみに4月10日の公演は昼と夜の二回行なわれているが、CD化されたものがどちらの音源かは不明。この日の録音は実は既に一度「TOKIO・LASTA」のタイトルで二枚組の海賊盤CDがリリースされているが、演奏曲順はデタラメな上、当日演奏された2曲がカットされていた。たぶんFM放送時のものと思われるが、インタビューも収録されている。

MONTHLY READER'S SALON
GAROCKING-CHAIR
[COLUMNS]

伊藤徹
犬丸一男
小川敦生
切通理作
玄田牛一
古山啓一郎
バルコ木下
高野拳磁

今月はお休みです

[MOVIES REVIEW]
北園

[BOOKS&GOSSIPS]
手塚
白取
高市
志村
北園
浅川
大場

[LAYOUT&"JG"OPERATING]
白取

●お便り●アンケート●人生相談●写真●イラスト●ローテク／ハイテクCG●詩●俳句／川柳●単なる日記●何でもお送り下さい！

皆さんの投稿をお待ちしております！

MONTHLY ESSAY

大人も歩けば

VOLUME 95

●出雲蕎麦と格闘

12月27日　上海

魯迅の旧居跡を訪れる。3階建ての洒落た集合住宅の一番奥の一角だった。以前にぼくが書いた魯迅の子供向きの伝記をもっていくと、係員は興味をもってくれたようだ。あたりは日本人が住民のほとんどだったらしい。近くに上海神社があったらしく、今は魯迅公園と呼ばれ、彼の銅像の下で老人たちがゲートボールをしていた。藤井省三夫妻が和平飯店のスイートルームに泊まっているというので、部屋を見に行く。さすがに豪奢を究めた、アールデコの内装だった。

12月31日　東京

出雲に住む従姉が送ってくれた3キロの蕎麦粉を母の家で半日かかりで打ち、30人前の蕎麦を拵える。1年に1度、自分の本貫が出雲にあることを確認する日だ。従姉は信じられないことだが、子供のころに食べたっきりで、そのあとどこでも出会っていない、出雲の梅干しまで、探して送ってくれた。梅にザラメをまぶし、紫蘇の葉を巻き、さらにザラメと紫蘇を重ねて漬けこんだもので、全体が大きく包帯を巻いたように膨れあがり、糖分がドロッと溶けて、一種異様な甘酸っぱい味がする。阪急沿線でモダニズム生活を送っていたぼくの母は、この梅干しを故郷の後進性の象徴だと思っていたのだろうか、けっして口にしようとしなかった。3世？　のぼくには、むしろこの味が面白い。タマリンドを思わせ、汎アジア的な味覚のように思われる。

1996年1月2日

10人ほどが新年会に来る。こないだ上海で買ってきたアヒルを料理する。わりとうまくできた。出口三奈子・良兄妹がイクラとタラコとオキヅケをどっさりもってきてくれる。ニーナとトシが東大の上佑クンという学生を連れてきた。なるほどそっくりだ。彼はひとりでデリダだとか、ドゥルーズだとか、誰もここではわからないことを叫んでいる。最後に辰ちゃんが呑み足りない連中を連れて、新宿のゲイバーに引張っていく。クラコフのアンナ・シルヴァからカードが来る。なつかしさでいっぱいになる。あのおとぎ話のような邑に行ったのは、もう4年も前のことだ。

1月4日

今年の初仕事は、山田耕作の軍国主義歌謡についてCDの解説を書くことだ。調べてみると、「赤とんぼ」と「ペチカ」で名高いこの作曲家は満州国の国家が制定されるにあたって、2度にわたって関わり、三国軍事同盟が結成されると、ただちに文化使節としてベルリンに飛んで、ヒトラーから感謝状を貰ったりしている。音楽のことは、どうにも書き方がわからない。思い余って秋山邦晴さんに電話すると、あれ、きみ、そんなのも知らないの？　といった調子で、受話器の向こう側で満州国国家を歌ってくれる。

1月6日　曽良

子供たちが数人、白装束に身を固め、一軒一軒托鉢をして回っている。「南無観世音菩薩」と高らかに唱えながら、そのたびごとにチーンと小さな鐘の音を鳴らす。寒の行と呼ばれるこの習慣は、もう能登でもこのあたりにしか残っていないという。過疎の波はここにも決定的な打撃を与えていて、つい2年ほど前に地酒が消えてしまった。ぼくを案内してくれる地元の商工会議所の人は、神社の境内で椎の実を見付けて、童心に帰ったように拾っている。

1月9日

ジャン・カルマンが遊びに来る。『毛皮のマリー』の再演のため、照明の仕事にパリから来たのだが、いましがた楽屋裏で美輪明宏から「あんたはなんだか昔のフランス人みたいね」といわれ、うれしかったという。金沢で買ってきた酒で一杯やろうということになったが、その前にジャンが、もしよかったら亡くなったばかりのミッテランのために乾杯してくれないかと、小さな声でいう。

1月17日

クリストファー・ヨーケンの尺八をシアターXで聴く。最後の追分まで、面白かった。久し振りに高橋悠治と言葉を交わす。今度フロリダに行くのだけど、どこもかしこも経費削減で、やれ演奏をしろだの、ワークショップをしろだの、うるさいらしい。うるさいといえば、ついこないだまでタイ人がウチに4人、居候し

四方田犬彦
YOMOTA Inuhiko

てたけど、あれはけっこう疲れたな、などと、まるでひとごとのように話す。帰宅すると、原将人からのメッセージが残っていた。原が映画101年を祝うパーティを塩尻の古い映画館を使って行ったというのは、招待を受けていたから知っていたが、そのときのヴィデオが完成して、深夜に放送になるらしい。起きていてずっと見ていたが、面白かった。もう客が入らなくなってしまった小屋に、いかに新しい花を咲かせるかというテーマ。原は次の百年は、映画が見るだけではなく、撮ることもヴィデオを通してまったく自由になる時代だという。僕はまったく逆のことに関心がある。つまり映画はいかに過去の栄光を再解釈していくか、という問題のことだ。二人のむかうヴェクトルがまったく正反対を向いていることを面白く思う。原とみうらじゅんは、ボブ・ディランの魂をいまだに忘れていない、たった二人の日本人だろう。

1月18日

ジャンからもらったチケットで『毛皮のマリー』を見に、渋谷のPARCO劇場に行く。すごい入りだ。息子のみならず世界のすべてを呑み尽くそうという恐ろしい母親の物語。68年に初演されたとき、主役の美輪明宏はまだ若くほっそりとしていたはずだが、30年近くたって、まさに役柄にふさわしい大年増になった感がする。いっしょに観にいったアーサー・ウェイリー研究家の井原真理子は、これは白雪姫が生まれるまでの物語じゃないかしらと、感想をもらす。彼女を連れて新宿の風花に行くと、柄谷行人が沢山のアメリカ人の少年少女に囲まれていた。柄谷さんはどうして中上の『軽蔑』を評価しないの？　と真理子がいう。うるさい、お前らに何がわかる。勝手に書け！　と彼が怒鳴る。少年少女たちは彼を恐れて、いつのまにか姿を消していた。

1月20日

雪が降る。バッハの無伴奏チェロ組曲を聴く。夜、広告雑誌の企画で高山宏と対談。築地の新三浦という懐石料理の店だったが、いつものように彼は酒は呑めども、料理にはまったく手をつけず。それでいて「食」をテーマに話をするというのだから、わけがわからない。対談が終わったころ、いよいよ大学で教えることになった橋本勝雄君とアリタリアの晃子ちゃんが乱入してくる。結局、橋本君は僕のアパートの台所で、毛布にくるまって眠る。

1月22日

大学の期末試験。1年生の映画史は、1・グリフィスからエーゼンシュタインへ、モンタージュがどのように発展して定式化されたかを述べよ。2・ディープフォーカスを説明せよ。3・映画の発明が20世紀にもたらした功罪を論じよ。このうちの2つを選択。2年の映像演習は、「ハリウッドは馬の映像を真実の馬と思い込ませるという、1968年のゴダールの言葉の意味について考えよ」である。夜、桜木町の鳥伊勢でジョン・クラークと再会。彼は最近、タイ人の女性と再婚して、現在は京都で明治期の絵画の研究を続けている。

1月23日

マッキーが『スワスティカ』という小説を送ってくる。キディポルノを主題とした、ひどく暴力的な、アナーキーな欲動に満ちた短編だ。彼女はブコウスキーやキャシー・アッカーを読んでいるのだろうか。同じときに水原紫苑からも同人誌「游」が到着。彼女の歌のなかに「ニーチェのごとき君」という言葉を発見し、よよっ！　と驚く。

1月24日

ラルフ・サミュエルソンのコンサートで5年ぶりに作曲家の野沢美香に会う。スタジオ200があったころは面白かったよねえ、という話題になる。高橋アキと3人で、新宿の三日月へ行く。フランキ・ラデンはウィスコンシンを離れ、故郷のジャカルタに戻ったらしい。あの人が殿下だったなんて、四方田さんの本を読むまで少しも知らなかったわ、と、アキさんがいう。ホセ・マサダの偉大さという話になる。フランキがチャバカでは、実に敬意をこめて、それこそ三歩下がって師の影を踏まずといったふうにマサダに接してましたよというと、彼女は自分のよく知っている二人が、そんな風に知り合っているのを知って、うれしそうな表情になる。

懐かしのガリバン刷り書き文字のヌクモリ的ガガ新聞第23号!!

東京ガガ新聞

新宿西口ヨリ連絡アリテ

ガガガインフォメーション
電話(03)3362-7038
24時間OKです!
↑電話番号変りました

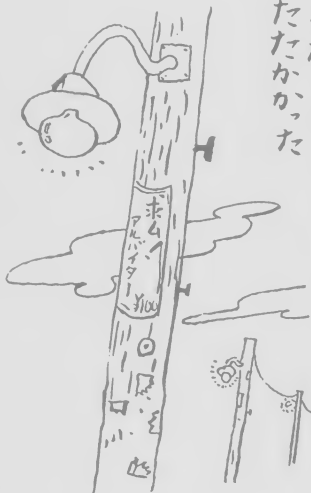
最近、動く歩道建設予定地の新宿西口が話題になっているのは、判っていて、きっと、何か、僕のまわりでも動き出すだろうと思っていた。
ある日、留守電(インフォメーションの事だ)に、新宿連絡会からメッセージが入っていた。
「同じ路上で闘う者として共闘しろ」という内容だった。否、もっと、リラックスした感じだった気がする。(とにかく、来てみろ)みたいな事だった。来て、見るくらいなら行ってたし、参加こそしなくても、眺めてたりした事はあったけれど、…………さあ—
……さて、どうやって"共闘"しようか?……
とにかくその声の主を探しに、でかけてみた。のだ

ピュー
寒い
Tさん
カラカラ
私

洋泉社のTさんは、ぼくの昔からの良き友で
まあ、何かと一緒に暴れてきた仲で、「とにかく、行ってみましょう!」とばかり、でかけた。しかし、結果は、いつもと同様、眺めるばかりで、シャイな2人は、誰にも声をかけれずに終った。帰り、小便横丁で、一杯、飲みつつ、「[表]さん、ガガガをいっその事 あそこで—

寒いのであったかい詩をどうぞ
詩 薫

五月

五月の秒針は青い。雲の上をゆうゆうと言う。
その背骨は美しい、滝のようだ。五月の秒針と僕は会う
デリケートな通学路で登校中の朝だ。
一本の思慮深い電信柱のように立っていた。
僕が顔を脱いでタマネギを見せると
かき氷のような歯を見せて笑った。僕が
通学路が滑走路になる夢を話すと
彼は宇宙がすべて晴れていることについて話した。
「君の体はいつも晴れてますね。」僕が言うと
五月の秒針は頬を染めて笑った。それはあたたかかった
夜中に出会う
一本の電信柱に灯った裸電球のように
それはあたたかかった

……T君はそのへんに詳しい。でも、やってみたい、何か……

……そんな事を考えつつ、**2月18日（日）**に、ガガガ……

……をやります。

その後の転々展開は次号で記す。その後、詩人の究極Q太郎、『路上』というミニコミを作っている快男子。新雑誌『紙のトリデ』を創刊する編集長eとC連絡会を応援する若者と再び小便横丁へ行くチャイあり、2月18日は…とにかく？

◎4月のロフト・プラス・ワン

他に映画プロデューサーもくる!!

4月1日 エイプリルフール

初代映画バカ「闇のカーニバル」「ロビンソンの庭」
山本政志（やまもとまさし）「KUMAGUSU」
遂に新作に突入する山本バカ一代に後輩バカ園が突っ込む！！

×

園子温（しおん）
その他に、福井ショージンとか バカ監督の飛び入り予定 無敵

しかつついたら午後7時スタート

今月のお題 エイプリルフールの映画バカ

今回は、先月号、先々月号と違って、僕、（園子温）独りで、作ってみました。

最近は、寒いですねえ。

僕は引越しました。

何か、ありましたら、是非、記事や詩や、感想、送って下さい。

〒161 東京都新宿区上落合
1の11の10の302
園子温まで

Sion Sono

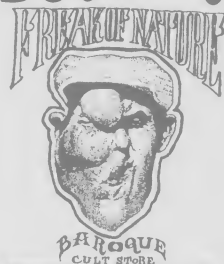
◦ガガインフォメーション（03）3362 7038 24時間OK

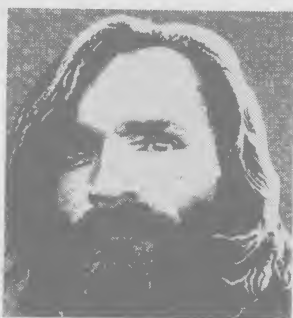
◦三月以降の予定を流します。

僕は、映画の新作の、編集を、ここでミニコミや、っております。東京ガガの皆で作りあげた、「BAD・FILM」という映画です。年内には公開したいです。

地下街の噂

総合変態カルトショップが東京にあるらしい……。

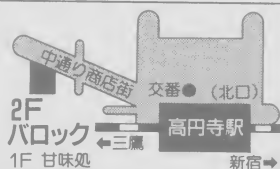
「珍しい物が見たけりゃ欲しけりゃバロックに来なさい／死体王国タイ産の殺人・事故後の生撮りビデオ『レア～人間であったはずの肉塊』①～⑤(バロックオリジナル)をはじめ世界各地の死体オンパレードビデオ『デス・シーン』や処刑シーンを集めたドキュメント『EXECUTIONS』。フリークスものでは彼らの生き様を収録した『I AM NOT A FREAK』、『My Very Unusual Friends』マーダーものでマンソン、バンディ、ゲイシー、ゲインら有名所のニュース映像を収めた『シリアル・キラー・スペクタクラー』『C・マンソン・スーパースター』など、他にもアメリカのへなちょこミニコミ「FUCK」のビデオ版『TERROR TARE』、日本の電撃ネットワークにもばかにされたジム・ローズ・サーカスのパフォーマンス・ビデオなど脳みそとろける系ビデオ多数／書籍ではおなじみのタイ・クライム・マガジン『アチャヤーガム』、『191』、くそったれミニコミ『FUCK』、げーじつ的でぶ女写真集、シリアル・キラー関連の読みもの充実。天下無敵の死体カメラマン釣崎氏撮り下ろし写真集『ハードコア・ワークス』CD-ROM『デス・ワークス』など脳みそのシワのびちゃう系の本多数／
その他にも、T・ブラウンや木村ちゃん、フリークス芸人のポスト・カード、イボ²、トゲ²バッグ、マス・マーダー、フリークス、死体のカードなどなど、貴重なものからふざけたものまで取りそろえてあなたをお待ちしておりますのでそーっとのぞいてみて下さい。

鮮度第一!!

(商品は常に入れ替ります。まめに店をのぞくべし!!)

BAROQUE
バロック

OPEN　CLOSE
12:00～22:00

バロック高円寺店

〒166 杉並区高円寺北3-2-14～2F
TEL 03-5373-2579

♥レンタルビデオ屋では見れない超こだわりアダルト、マニアビデオもいっぱいあった。18才未満はおことわりだってさ。♥

フラワーカンパニーズ

フラカンの 2nd Album
マイ・ブルー・ヘブン

1.マイ・ブルー・ヘブン　2.紅色の雲　3.雨よ降れ
4.積もった抜け毛に火をつけろ　5.夢の列車　6.酒と女とバクチと自由
7.ブラン・ニュー・エアコン　8.ダイヤモンド　9.孤高の英雄(ヒーロー)
10.復活の日　11.さわるな　ARCJ 30 ¥2,780(税込)

NEW SINGLE 同時リリース
[孤高の英雄(ヒーロー)]
c/w:ブラン・ニュー・エアコン(シングル・ヴァージョン) ARDJ 5026 ¥780(税込)

「フラカンの孤高のカリスマロックンロールツアー」

3月22日 金 名古屋CLUB QUATTROs 問 サンデーフォーク・プロモーション052-3[illegible]0-9100／3月25日 月 大阪ハナナホールs 問 サウントクリエーター 06-357-7500／3月27日 水 神戸チキンジョージs 問 サウントクリエーター 06-357-7500／3月28日 木 京都ミューズホール[illegible] 問 サウントクリエーター 06-357-[illegible]／4月[illegible]日 火 広島ネオポリスホールs 問 キャン[illegible]プロモーション 082-249-8334／4月4日 木 [illegible] 問 BEA 092-[illegible]2-4221／4月5日 金 福[illegible] 問 BEA 092-712-4221／4月8日 [illegible] 台一番町ヤマハホールs 問 キョードー東北 [illegible]215-8[illegible]00／4月11日 木 日清パワーステーション イベント s 問 ハウス 03-3205-[illegible]281／4月16日 火 札幌メ[illegible]セホールs 問 WESS 011-613-9000／4月19日 金 新[illegible] 問 キョードー北陸 0[illegible]5-245-5100　●問い合わせ：シンコー[illegible]ク TEL 03-3[illegible]9[illegible]-7911

「ライヴLP『オンステージ』シリーズ続々と登場!!」

フラワーカンパニーズのオフィシャルブートレグL[illegible]
オンステージ第1集～下北沢の夜・実[illegible]録音盤 4月21日リリース予定
ライヴ一発録音、アナログのみの限定[illegible]です 7月に第2集、9月に第3集もリリース予定

03-3475-7411

寒くて外に出られなかった方も、そろそろ起き出してタコシェでお買い物

●前号でお知らせしたトレヴァー・ブラウンの原画、好評につき再度入荷しました。ご来店できない方からの問合せも多かったため、通販希望の方には絵柄をＦＡＸするサービスを開始いたします(郵送不可)。現在のところ、トレヴァー・ブラウンとひさうちみちおのものだけですが、他も希望があれば検討します

●鴨沢祐二「**サイン入りカラーコピー**」再入荷：一見版画のよう。カラーコピーとは誰も思うまい。ただし、十年経つと退色する可能性があります。ご了承ください。サイン本も入荷

●井口真吾「**I LOVE YOU**」:バレンタイン用グッズ。サイン入り『Zちゃん』も入荷

●鈴木翁二シルクスクリーン再入荷。限定30枚、今回が最終入荷になりそう。また、同時に作られた原マスミのシルクスクリーンも近日中に入荷予定

●まんだらけ出版：EO(イオ)著『**廃墟のブッダたち**』『**ひきつりながら読む精神世界**』『**地球が消える時の座禅**』など。まんだらけ出版、遂にその本質を現すか？　EOは既にこの世にいない人物らしいが、古川社長に聞いても多くは語らず

●恒松政敏「**百物語ポストカード**」6枚組。サイン入り作品集もよろしく

●小沢剛「**ほのぼのとした帽子**」：ジゾーイングの小沢剛、最大のヒット作品、再入荷

●天明幸子ポストカード2種：作者は「**珍しいキノコ舞踏団**」のチラシなどのイラストでおなじみの若手新進イラストレーター

●伊藤晴雨『**江戸地獄図絵**』10枚組、再入荷。SPA!「松沢堂の冒険」で取り上げた伊豆・了仙寺所蔵品の複製カード

●塚本晋也監督「**東京ＦＩＳＴ**」ピアス：映画上映会場のみで売られているもの。片耳用。サインつき。Tシャツも再入荷

●メトロファルス「**ＬｉMBO島**」：メトロファルス、久々の新作にして最高傑作。タコシェ関係者の間では大ヒット、自信をもって大推薦。特に7曲目「オーロラレゲエ」がヒットチャート上昇中（あくまでタコシェ内)。エッグマン・ディスクより。

●ＪＡＰＡＮＯＶＥＲＳＥＡＳ取扱い開始：DER EISENROST「**ARMORED WEAPON**」：「鉄男」のサントラでおなじみの石川忠率いるメタル・パーカッション・ユニットによる93年から94年にかけてのライブ音源／MINGA&EYE「**EYE love MINGA**」山塚アイと生後10カ月の明河によるコラボレーション。ハート形アナログ盤／MASONNA「**PSYCHETRONIC ERECTILE**」などなど／**GEROGERIGEGEGEのＴシャツ**も各種入荷

●TRANSONIC取扱い開始：TRANSONIC各種、TRINITYレーベル各種取り揃えたコーナー設置しました

●ハル・プロダクション：鈴木治行「**システマティック・メタル**」“TEMPUS NOVUM”率いる現代音楽の俊英によるテープ作品集／あきらこ「**半獣神の午後**」ケイト・ブッシュ、矢野顕子などにも通ずるヴォーカリストの初ＣＤ。

●地底レコード：Kita Youichiro「**Freeman**」渋さ知らズのトランペッターにして法律家、法律家にして探偵のソロカセット／どこでもドアーズ「**未来世紀ハコバン**」

●ゲルニカＴシャツ・ピンバッヂ：セカンド・アルバム発売に合わせて作られたもの。フランス製作シルクスクリーン作品集が話題の太田蛍一デザイン。貴重

●小野由美子写真集「**左目散歩**」：友部正人の妻にしてマネージャーによる写真集。被写体は友部正人と猫。友部正人のＣＤ、サイン本など、久々に再入荷。

●ファラオ企画取扱い開始：ウィリアム・バロウズ著『**ア・ブーク・イズ・ヒア**』／バリー・マイルス著『**ウィリアム・バロウズ　視えない男**』／高取英著・喜国雅彦絵『**少年マンガ画報**』／高取英編『**梶原一騎を読む**』(みうらじゅん、竹熊健太郎、杉作Ｊ太郎夏目房之介、切通理作、関川夏央、中島らもなど）／林静一著『**モモコさんと僕**』ほか

●北宋社取扱い開始：佐川一政著『**生きていてすみません**』／北村想著『**けんじのじけん／インダンタルギフト**』『**PICK POCKET 2**』、南原企画編『**怪・情報**』など新刊、旧刊あれこれ

●「**日曜研究家**」4号：発行人の串間努は扶桑社より単行本も発表（タコシェでは扱っておりませんので、トリオの並び、明屋でお求めください)、いよいよ注目度が高まる。

●「**ALICELAND**」5号：アニメソング歌手専門誌　今号特集は「**石田ようこ魅力120%**」

●「**すもうちょっぷ**」0号～2号：ミニコミ・チャート急上昇(これもタコシェ内)、映画評、創作童話、アンケートあり

●砂野徹『**ゴジラ対モスラ**』『**ウタネタの海　パーフェクト102**』『**ウタネタの海　特選3168**』『**役に立たない格言集1493編**』など怒涛の駄洒落人間による作品集。

○「**思想の科学**」は今月発売号で第8期終了、しばらく休刊となります。バックナンバーはお早めにお求めください。

○2月11日(日)、店員の白川が、商品と一緒に店員ノートを袋に詰めてお渡ししてしまいました。心当たりのある方はタコシェまでご連絡ください。

○3月17日(日）宅八郎ＬＩＶＥビデオ第二弾「**SPA!編集長解任の夜**」発売記念宅八郎一日店長を予定しております。

中野駅から徒歩4分。ブロードウェイのエスカレーターをあがって手前にもどる。友沢ミミヨの看板が目印。

〒164　中野区中野5-52-15

中野ブロードウェイ 3F TRIO内

タコシェ

TEL・FAX（3店共同）　**03-5343-2333**

営業時間：*12:00～20:00*　年中無休

孤立無援のあなたに! ロフトプラスワン

様々なジャンルの「知識・経験・オタク」を持った人が「一日店長」として出演。お客さんとのライヴ・トーク・セッションを展開!!

今、話題のトーク・ライヴハウス。
ライヴチャージは無料!
なんたって、居酒屋の料金(例・300円(チャージ)+ビール(おつまみ付)=800円〜)だけで、いろいろな人に出会えて直接話まで出来る、凄い店なのだ!(トーク・ライヴの時間が2時間30分以上続いた時は、追加オーダー400円〜が必要)

一日店長 SCHEDULE MARCH 3

一日店長就業時間 19:00〜21:00

1(金) 「環境映像プロデューサー武藤起一の日本映画言いたい放題VOL.2」 GUEST あがた森魚(映画監督/ミュージシャン)

2(土) 「誰も知らなかったヒットラー」 鈴木邦男(一水会) 後藤修一(ヒットラー研究家)

4(月) 「MTB(マウンテンバイク)の冒険・ペダルを漕いで見た世界の熱帯雨林(森林伐採問題)」 綾野真(カメラマン)

5(火) キネマ旬報・植草信和の「映画は今、アジアの時代!」 GUEST 顧 暁東(映像プロデューサー)

6(水) 「21世紀へ進めない日本のシステム」 中村敦夫(俳優)/三上治(評論家)

7(木) 池田貴族プロデュースVOL.3 「現代アイドルを憂う3」 GUEST アイドル 水野あおい

8(金) 伏見憲明のキャンピィトークVOL.2 「女装論」 GUEST マーガレット小倉(ドラァグクイーン) 三橋順子(女装家)

9(土) もう一つのニューシネマパラダイス 「『地球交響曲(ガイアシンフォニー)』を鞄につめて旅する男」 長渕治雄(映画技師)

11(月) レイナ・里亜の西洋占星術でみる"世紀末・フェティシズム" GUEST 某雑誌記者・COM人形(ゴム愛好者)

12(火) 「ガロ初代編集長長井勝一氏を偲んで【追悼会】」 ガロ編集部 GUEST ガロ漫画家多数

13(水) サトウユキエのレコード・あら・カルト 「根本敬に聞く韓国ロックのすべて」 GUEST 根本敬

14(木) サエキけんぞうのコアトークVOL.5 「『結婚魔境』発売記念スペシャル」 GUEST しりあがり寿夫妻

15(金) タイトル未定 町田康(町蔵改め)(パンクロッカー) ゲスト有り 詳細は問い合わせ乞う

16(土) 「ライターズ・デン"課外授業"」 藤井良樹(ライター)/他ゲスト有

17(日) 「てきとうにやる」 大槻ケンジ GUEST 未定 チャージ制、2500円(1Drink付)

18(月) 村上真一PRESENTS 1 「聖なる野蛮人の集い」〜川と友達になろう 我童(叫ぶ詩人の会)/生田卍(SoSo)

19(火) 「高野拳磁 お待たせ! 平成のカルト王第2弾」

20(水) 「プロレスの謎、徹底解明!」 すべて納得がいくまでエンドレストーク 杉作J太郎(特殊漫画家) GUEST 鈴木邦男/バトルロイヤル風間/夢月亭清麿/古川一郎

21(木) 「東京ホームレス事情」 森川直樹(フリーライター) GUEST けんサン(路上生活経験者)

22(金) 唐沢俊一プロデュース VOL.12 「ゲロゲロ悪趣味夜話」 GUEST 睦月影郎(アダルト作家) ソルボンヌK子(ビジュアルアーチスト)

23(土) 平野悠(ロフトプラス1席亭) 「風が吹くとき、山は動く!」 ロフトプラス1「風」結成大会!

25(月) 今一生プロデュースVOL.2 「日本一のヤリマン主婦・フミエさんの"777人目はアナタ!"」

26(火) 今一生プロデュースVOL.3 「AIDSのお話」 GUEST パトリック(DJ/HIVポジティブ) エミ・エレオノーラ(ミュージシャン)

27(水) 強制参加! 69人の王様ゲーム お忍びであの人もやってくるぞ パンチUFO/吉田ぶきみ/吉本興業芸人他多数

28(木) 「4人はアイドル海賊版2」 おもしろ隊(オホホ商会)

29(金) コント山口君の常識まっとうLIVE! 「厚生省に破防法を適用せよ!」 お役人から若手芸人までツッコミ千本ノック! 山口ひろかず/松原一成

30(土) 君もオタクになれる! 「オタク教室第1回」 オタク講師 岡田斗志夫

新宿区富久町16-11武蔵屋スカイビル1F
(地下鉄丸の内線「新宿御苑前」4分 JR新宿東口12分)
TEL:03-3357-1676
●営業時間 PM6:00〜AM4:00

★ニフティサーブ★
東京フォーラム(FTOKYO)
"15番会議室" プラス1の情報満載!!
アクセスしてね!(担当RETZ)

LOFT SHINJUKU MARCH 3

TEL:03-3365-0698
全て18:30 OPEN 19:00 START

6(水) 〈TOKYO JESUS TOUR 1996〉 ザ・ストラマーズ ¥2,300/¥2,800

9(土) MAX-KC/ニッキー&ノスタルジアマッド/他 ¥2,000/¥2,300

12(火) 〈CATCH MY SOUL '96〉 ¥2000/¥2300 THE ZETT/雷矢/HOT & COOL

〈LOFT-SMILEY'S DAM(LSD-0962)〉 ¥2,500/¥3,000

18(月) 〈POP FILE#2〉 デキシード・ザ・エモンズ/The Playmates/Jupiter Smile

19(火) 〈Pure Voice〉 B.L.WALTZ/ Platinum Peppers Family/ IMAGE-SOUL(ex.SEEDS TONE)

20(水) 〈STRANGE FURUIT〉 Plastic Tree/The Close/THE MARK

21(木) 〈摩訶不思議PARALLEL WORLD〉 舞士/GROOVY GUYS/エコエコサイクルズ

22(金) 〈TRANCE POP〉 VIDEO rODEO/echo-U-nite

〈H.G.F.P〉 ¥1,800/¥2,000

23(土) SLANG/雷矢/SDS/IDORA/ANTIAUAUTHORIZE

24(日) SLANG/ENVY/HALF LIFE/FADE/DIVIDED WE FALL

27(水) 〈時計じかけの肥満児〉 死ね死ね団 ※入場者へのプレゼント有り ¥1,800/¥2,000

29(金) KENZI & THE TRIPS ¥3,000/¥3,300

SHELTER shimokitazawa MARCH 3

TEL:03-3466-7430

3(月) 〈下北沢ファンク外伝〉 ¥2,000/¥2,300 シャバグッチーズ/KINGBEES/ゲスト ドミンゴス

8(金) 〈下北バカ祭りVOL.5〉 ¥1,800/¥2,000 蛇古屋/安泰ガバメンツ/ザ・チャイナボウルズ

11(月) 〈フィンガーポッピンタイムVOL.2〉 apple & pears/SKIP COWS/carnies ¥2,000/¥2,300

〈K.O.G.A RECORD presents〉 THE PLAYMATES「SHORT WAVE」発売記念

17(日) THE PLAYMATES ¥1,800/¥2,000 ゲストRON RON CLOU/Samantha's Favourite

23(土) LAUGHIN'S NOSE/他 ¥2,300/¥2,700

29(金) ホブルディーズ/他

4/1(月) Seagull Screaming Kiss Her Kiss Herレコード発売記念

LOFT INFORMATION

4-STiCKS

2/29(木) 新宿ロフト
開場19:00 前売¥2,300
開演19:30 当日¥2,500
デビューシングル「I wish you」発売記念ワンマンライブ

リリースインフォメーション

エピックソニーレコードより
デビューシングル 3月1日発売「I wish you」
セカンドシングル 5月21日発売「See Your Smile」
デビューアルバム 6月1日発売「STICK IT OUT!」
(問)PINK MOON (03-3365-5774)

STREET AND CLUB SOUNDS MAGAZINE

remix

毎月29日発売

定価890円
（本体864円）

編集／発行：株式会社アウトバーン　〒150東京都渋谷区桜丘町29-24-604　TEL03(5458)0012 FAX03(5458)0013
営業／発売：株式会社青林堂　〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F　営業部TEL03(3373)2142 FAX03(3373)3550

ガロビデオ 広告

根本敬第一回監督作品ガロビデオ

亀一郎(40才・土方・北区立岩ブ
チ中学校卒)は実生活でもズボンのポケッ
トに穴をあけ手を突込み街頭で
ミニスカ姉ちゃん追いかけてスコスコ。
それをドラマでも本当にしてもらい、ある日
見つかり下足番の職を追われ作曲
家吉田佐吉の弟子となり、より転落の
一途をたどるが、まことにかく
ヒドイ

これでぬければ人生もう怖いものなし!

——強力なキャスト——

- ▶下足番で歌手の卵の亀ノ市(亀一郎40才)
- ▶作詞家の平やん(甲斐平吉44才)
- ▶作曲家の吉田佐吉(大宮イチ)
- ▶淫乱妻(ママ野際40才)
- ▶先輩(73才のラップ歌手)
- ▶弟(湯浅学39才) 他
- ▶怖い上司&街娼(佐川一政46才※2役)
- ▶撮影/藤原章

VHS/カラー60分/ビスタサイズ
¥3800(税込)/大人向けビデオ作品
製作:エロケン/発売:青林堂ガロビデオ

3月中旬発売!!

《さむくないかいの買い方》

●お近くの書店、もしくは中野のタコシェで……「せいりんどうから出てるビデオさむくないかいください」と言う。
●または、通信販売で……「定価3800円+送料390円=4190円」を、現金書留に入れて青林堂さむくないかい宛に郵送する。

園子温 エロV 日本国憲法

近日リリース!!

平口広美的こころ

Water.　魚喃キリコ 著

新鋭女流作家・ファン待望の処女作品集!!　好評発売中！

定価980円　Ａ５判並製

MEL-O-DRAMATIC・安彦麻理絵

好評発売中！

★ Ａ 5判並製・定価980円
★ 装幀・大塚陽子

青　林　堂

ガロ バックナンバー在庫一覧

写真のあるものだけです。なくなってから泣くより今買いましょう！

◀93年2・3月号
◀93年6月号
◀94年2月号
◀94年3月号
◀94年6月号
◀94年7月号
◀94年10月号
◀94年11月号
◀94年12月号
◀95年1月号
◀95年2月号
◀95年3月号
◀95年4月号
◀95年5月号
◀95年6月号
◀95年7月号
◀95年8月号
◀95年9月号
◀95年10月号
◀95年11月号
◀95年12月号
◀96年1月号
◀96年2月号

★写真は出ていませんが、96年3月、長井勝一追悼号も在庫ございます。

尚、今月は在庫のある号のみ、長井勝一登場号に★印をつけてみました。

特集＆名作劇場一覧

お問い合わせの多い91年以降の特集号と名作劇場の一覧です。在庫のないものがほとんどですが、古書店などで探す際のご参考にして下さい。

●91年7月号■特集：つげ義春
●91年9月号■特集：水木しげる
●91年10月号■競作：超私的快楽主義
●91年11月号■特集：「無能の人」
●91年12月号■青林堂創立三十周年記念号
●92年1月号■根本敬インタビュー■名作劇場1／白土三平「赤い竹」
●92年2・3月号■特集：近藤ようこ■名作劇場2／水木しげる「神様」「イソップ式漫画講座①②」
●92年4月号■特集：IDEN&TITY ディランの如く■名作劇場3「ガロ草創期の名文たちⅠ」
●92年5月号■特集：花輪和一の世界■名作劇場4「ガロ草創期の名文たちⅡ」
●92年6月号■特集：ねこぢる■名作劇場5／つげ義春「チーコ」
●92年7月号■特集：林静一の華麗な世界■名作劇場6／林静一「まっかっかロック」
●92年8月号■特集：追悼 山田花子■名作劇場7／池上遼一／矢口高雄（インタビュー）
●92年9月号■特集：鈴木翁二の世界■名作劇場8／滝田ゆう「剥製の館」
●92年10月号■特集：特殊漫画博覧会■名作劇場9／楠勝平「おせん」
●92年11月号■内田春菊インタビュー■名作劇場10／つりたくにこ「ジンロク」
●92年12月号■特集：泉昌之■名作劇場11／岡田史子「邪悪のジャック」
●93年1月号■特集：水木しげる2■名作劇場12／佐々木マキ「ピクルス街異聞」
●93年2・3月号■特集：やまだ紫■名作劇場13／やまだ紫「性悪猫」★
●93年4月号■特集：蛭子能収■名作劇場14／つげ忠男「リュウの帰る日」
●93年5月号■特集：丸尾末広■名作劇場15／安部慎一「美代子阿佐ヶ谷気分」
●93年6月号■特集：新人漫画人行進■名作劇場番外編「花輪和一「かんの虫」／鴨沢祐仁「クシー君の発明」／近藤ようこ「ものろおぐ」
●93年7月号■特集：70年代フォークとガロ■名作劇場16／鈴木翁二「ギター壊し浮かれた」
●93年8月号■特集：つげ義春する！■名作劇場17／勝又進「狸」
●93年9月号■特集：流エロ劇画の黄金時代■名作劇場18／古川益三「九月」「日風渺々として」
●93年10月号■特集：根本敬や幻の名盤解放同盟■名作劇場19／辰巳ヨシヒロ「あな」
●93年11月号■特集：みうらじゅん「生前葬」■名作劇場20／淀川さんぽ「たこになった少年」
●93年12月号■特集：日本のインディーズ映画■名作劇場21／橋乙揶「ビューティフルシティ」
●94年1月号■特集：永島慎二■名作劇場22／永島慎二「フーテン」
●94年2月号■特集：新人漫画人行進■名作劇場23／泉昌之「夜行」／みうらじゅん「ほとほとなんぎなパパとママ」★
●94年3月号■特集：ガロ的写真特集■名作劇場24／荒木経惟「浪漫写真」★
●94年4月号■特集：江戸川乱歩の世界■名作劇場25／川崎ゆきお「人阪猟奇戦争 ロマンの日は遠く」
●94年5月号■特集：ガロを捨て街へ出よう!!■名作劇場26／村野守美「清次」
●94年6月号■特集：ステキな女性作家たち■名作劇場27／杉浦日向子「麻衣」
●94年7月号■特集：地下出版の蠢き■名作劇場28／菅野修「ローカル線の午後」★
●94年8月号■特集：荒木経惟■名作劇場29／たむらしげる「終電車」
●94年9月号■特集：創刊30周年記念号■名作劇場30／赤瀬川原平「円盤からの手紙」
●94年10月号■特集：創刊30周年記念特集Ⅱ
●94年11月号■特集：安西水丸■名作劇場31／安西水丸「汽車」
●94年12月号■特集：私のカルト・スター■名作劇場32／渡辺和博「お父さんのネジ」★
●95年1月号■特集：心に残る漫画■名作劇場33／古田光彦「みじかい夏ながい日」
●95年2月号■特集：新人漫画人行進3■名作劇場34／森元暢之「理想的家庭崩壊劇」／みぎわパン「ぱんこちゃんになろうっ」／津野裕子「冷蔵庫」★
●95年3月号■特集：エロス■名作劇場35／平口広美「愛のタバコ屋」★
●95年4月号■特集：世紀末■名作劇場36／蛭子能収「地獄のサラリーマン」★
●95年5月号■特集：真実のマルチメディア■名作劇場37／高信太郎「幻想の明治」
●95年6月号■特集：丸尾末広特集2■名作劇場38／ますむらひろし「再会」
●95年7月号■特集：新・面白主義■名作劇場39／糸井重里＋湯村輝彦「ペンギンごはん」
●95年8月号■特集：祝再版記念「幻の廃本解放同盟」■名作劇場40／ひさうちみちお「愛妻記」★
●95年9月号■特集：宮沢賢治の世界■名作劇場41／谷弘兒「闇小路家の密室」
●95年10月号■特集：ガロまんが道★■名作劇場42／ユズキカズ「シカゴパレス」
●95年11月号■特集：ガロ的読書術
●95年12月号■特集：ザ・対談“いいたい放題!!”
●96年1月号■特集：ガロ的映画
●96年2月号■特集：新人漫画人行進4★

※印のある書籍は品切れ中

書名	価格
▼山田花子	
嘆きの天使	¥880
花咲ける孤独	¥980
改訂版·神の悪フザケ	¥1000
▼ねこぢる	
ねこぢるうどん	¥1000
ねこぢるうどん②	¥1000
▼山野	
パンゲア	¥980
▼大越孝太郎	
月喰ゥ蟲	¥980
▼友沢ミミヨ	
いもほり	¥980
▼花くまゆうさく	
野 良 人	¥980
▼逆柱いみり	
象　魚	¥980
▼高山和雅	
パラノイア・トラップ	¥880
▼根本敬	
怪人無礼講ララバイ	¥880
豚小屋発犬小屋行き	¥1200
※ディープ・コリア	¥1500
※生 き る	¥980
※生 き る ②	¥980
▼みうらじゅん	
ＩＤＥＮ＆ＴＩＴＹ	¥1200
▼森元暢之	
反省しない犬	¥880
▼マディ上原	
決定判	¥830
▼みぎわパン	
ぱんこちゃん	¥880
▼ＱＢＢ	
栄二＝金星人説	¥880
とうとうロボが来た!!	¥980
▼東　元	
あなたに	¥880
▼唐沢商会	
脳天気教養図鑑	¥980
近未来馬鹿	¥880
※ZORO ZORO	¥880
▼とり·みき	
とりのいち	¥980
とり・みきのもう安心。	¥980
▼しりあがり寿	
コイソモレ先生	¥980
▼津山週二	
伊丹哲次氏の優雅な生活	¥880
▼高信太郎	
頭痛にコーシン	¥880
▼とがしやすたか	
青春劇場	¥880
▼石川次郎	
みぃんなじろうちゃん	¥875

書名	価格
▼内田春菊	
春菊（改訂版）	¥980
シーラカンスロマンスⅠ	¥830
シーラカンスロマンスⅡ	¥830
闇のまにまに	¥880
南くんの恋人(新版)	¥750
しあわせのゆくえ	¥880
凛（りん）が鳴る	¥880
愛のせいかしら	¥1200
▼近藤ようこ	
妖霊星	¥980
HORIZON BLUE	¥880
猫っかぶりｾﾞﾈﾚｰｼｮﾝ上	¥900
猫っかぶりｾﾞﾈﾚｰｼｮﾝ下	¥900
▼桜沢エリカ	
チェリーにおまかせ！	¥880
▼松井雪子	
東京デビュー＜上＞	¥880
東京デビュー＜下＞	¥880
▼岡本蛍＆刀根夕子	
おもひでぽろぽろ①	¥910
おもひでぽろぽろ②	¥910
▼鳩山郁子	
※月にひらく襟	¥880
ＳＰＡＮＧＬＥ	¥980
▼津野裕子	
デリシャス	¥1010
雨宮雪氷	¥1000
▼月岡直美	
セクシー＆ビューティ	¥980
▼魚喃キリコ	
Ｗａｔｅｒ	¥980
▼安彦麻理絵	
メロドラマチック	¥980
▼芳賀由香	
すっかりお客さま	¥880
▼松本充代	
青のマーブル	¥880
ダリヤ・ダリヤ	¥880
▼蛭子能収	
※地獄に堕ちた教師ども	¥880
▼ひさうちみちお	
托　卵　（たくらん）	¥1300
パースペクティブキッド	¥1500
唄の上手な娘	¥1000
▼丸尾末広	
※薔薇色ノ怪物	¥980
※夢のＱ－ＳＡＫＵ	¥980
ＤＤＴ	¥980
キンランドンス	¥880
ナショナル・キッド	¥980
少女椿	¥1100
▼花輪和一	
赤ヒ夜	¥980
猫谷	¥980
▼たむらしげる	
スモールプラネット	¥1240
▼鈴木翁二	
透明通信	¥1500

これは便利!! この注文書にご希望の書名を書いてお近くの書店へお持ち下さい。（本が書店に到着するまで2〜3週間かかりますのでご了承下さい）

帖合印

ご注文数　　　冊

条件	著者	書名	版元
定価 定価　円			株式会社 青林堂

お名前

ご住所

TEL

切り取り線（コピー可）

帖合印

ご注文数　　　冊

条件	著者	書名	版元
定価 定価　円			株式会社 青林堂

お名前

ご住所

TEL

切り取り線（コピー可）

▼イタガキノブオ

ペーパーシアター	¥1000

▼吉田光彦

夢　化　色	¥1030

▼谷 弘兒

薔薇と拳銃	¥1200

▼古川益三

邪尼曼陀羅	¥1240

▼井口真吾

Z－CHAN	¥1500

▼安西水丸

青の時代	¥1550

▼日野日出志

地　獄　変	¥1650

▼青林傑作シリーズ

A5版上製・定価各1240円

- 狂人関係①／上村一夫
- 狂人関係②／上村一夫
- 狂人関係③／上村一夫
- 狂人関係④／上村一夫
- だ め 鬼／村野守美
- 泥沼（どぶだめ）／村野守美
- 媚 薬 行／村野守美
- 龍　神／村野守美
- 傀儡（くぐつ）がえし／白土三平
- 六の宮姫子の悲劇／つりたくにこ
- チライアパッポ／矢口高雄
- ブルーセックス／川本コオ
- よさこい節／青柳裕介
- 白い伝説／真崎　守
- 青春相続人／宮谷一彦

▼永島慎二

永島慎二傑作集 ①	A5版上製箱入	¥1550
永島慎二傑作集 ②	A5版上製箱入	¥1550
永島慎二傑作集 ③	A5版上製箱入	¥1550
永島慎二傑作集 ④	A5版上製箱入	¥1550
一郎くんの長い旅		¥1010
リリィのブルース		¥2060
風の吹く街		¥1860
港野郎にきをつけろ！		¥1240

■実用書／PCソフトウェア　◎＝CD-ROM付　💾＝フロッピー付

SUPER KiD テクニカルワークブック	◎WIN	¥4200
ぼくらのつくるマルチメディア	◎MAC	¥2800
JG 技術	💾3.5inch	¥3200
SUPER KiD VISUAL WONDERLAND パテンテ7日間の旅	◎WIN	¥3200

■変形版ほか

文庫・ロッケティア／P.ディヴィッド著・石井享訳	¥540
セレブリィ・テスト／A.ゴールドスミス著・石井享訳	¥2000
リリィのブルース／永島慎二著	¥2060
風の吹く街／永島慎二著	¥1860
宇宙人の落物／黒塚直子＆藤幡正樹著	¥1030
「無敵のハンディキャップ」製作ノート／天願大介監督	¥1000
月光文化② 【特集・近親相姦】	¥950
ラジカル・インテリジェンスのためのクロスカルチャー読本 RECEPTOR（レセプター）	¥800

日本の現代マンガは、質的にも量的にもきわめて高度な発達を遂げ、諸外国からの関心も高まっている。しかし、実作に比して評論・研究は著しく遅れ、各種マンガ賞がマンガの実情を必ずしも反映しなかったり、ジャーナリズムのマンガ論議が的外れであったり、という遺憾な現象もしばしば見られる。このような現状を憂慮し、マンガ評論・研究の深化と拡大をはかるため、マンガ評論新人賞を設立する。　一九九二年五月一日

★宛先★ 〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F ㈱青林堂「マンガ評論新人賞」係

第五回 マンガ評論新人賞募集

◆1：賞の種類と賞金

マンガ評論新人賞（五十万円）

同奨励賞（十万円）

佳作

各賞に人数の枠は設けない。また、本誌掲載の場合、賞金の他に規定の原稿料が支払われる。

◆2：応募規格

新人であること以外、年齢・性別・国籍等は一切問わない。新人とは、マンガ評論・研究の単行本を出したことのない者とする。ただし、自費出版はこの限りでない。マンガ隣接の文芸・映画・美術等の評論・研究の単行本を出したことがある応募希望者は、問合わせをされたい。

◆3：評論の対象・形式

現代マンガに対する未発表の評論・研究。種類や形式は限定せず、作家論、作品論、マンガ史研究、評論史研究、ルポルタージュ等を広く含むものとする。現代より前のマンガや外国のマンガに関するものも、現代マンガを考える上で有益なものは本賞の対象となる。

◆4：銓衡

銓衡委員会の合議による。各委員のマンガ論・マンガ観と対立する作品であっても、そのことによる銓衡上の不利益は一切生じない。

◆5：枚数・その他

四〇〇字詰原稿用紙で五〇枚前後。内容によっては二〇枚程度の作品も考慮する。ワープロ原稿も可。いずれも、日本語・縦書き、点字原稿は墨字訳を付ける。必要な図版類があれば、出典明記の上、コピーを貼付する。また、本文の後に、住所・氏名・電話番号・生年月日・最終学歴・職業を記した別紙を添える。応募は一人一作品に限る。応募原稿は返却されない。

◆6：締切り、発表

毎年十二月十日を締切りとする。結果は翌春「ガロ」誌上で発表される。

◆7：

本賞の存続

本賞の賞金および掲載作の原稿料は、呉智英「現代マンガの全体像・増補版」（史輝出版）の印税によってまかなわれる。同書の印税発生がなくなった場合本賞の継続が中止されることもある。

銓衡委員会（五十音順）

呉　智英　村上知彦　米沢嘉博

協力「ガロ」編集部

月刊ガロ 新人大賞 長井勝一賞募集

大賞…賞金10万円

佳作…賞金5万円

◆月刊『ガロ』は一九六四年の創刊以来、商業的には小さな規模ながらも、常に新しい才能を発掘し、漫画における新たな表現方法を開拓し続けています。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、漫画という枠に留まらず、映画、文学、音楽、絵画など様々な分野で活躍される方も少なくありません。

その事実を鑑みれば、我々が考える『ガロ的』という概念も、やはり単に漫画という一ジャンルを越えたものではないでしょうか。

◆我々は、常に新しい才能を求めています。もちろん漫画作品として優れている事はもちろん、既成の漫画という表現を越える、後の幅広い活躍を予感させるユニークで独創性のある作品を募集します。

◆商業誌に未発表であり、漫画作品として完成されているものであれば、どんな作品でも結構です。ぜひ、長井勝一賞に応募下さい。

ガロ編集部

★応募要領★

①原稿枠内サイズは、天地273mm×左右184mmです。枠を越えて絵柄やベタを伸ばす場合は、枠より外に15mm以上伸ばして描いて下さい。

②原稿は黒一色で仕上げて下さい。但しうす墨は不可ですので中間色はスクリーントーンなどを使用のこと。

③ネーム（せりふ）、ナレーションなどは必ず鉛筆で記入して下さい。スミベタやトーン上にかかるネームは原稿の上にトレーシングペーパーなどをかけ、該当箇所に鉛筆で記入して下さい。

④作品の最終頁の裏に、必ず住所、氏名、電話番号を明記して下さい。（ペンネームの場合は本名）

◆年齢・性別・国籍などは一切問わない。但し外国語作品には必ず日本語訳を添付すること。

◆原稿返却希望の方は、返信用封筒に該当料金分の切手を貼付の上自分の宛先を記入したものを作品に同封のこと。返信用封筒のないものは一切返却できない。

◆本賞の募集は随時行なっている。対象は本賞宛投稿作品、編集部への持込み作品、本誌入選作品などその年度に応募された新人の作品全てである。従って、一次選考通過作品は毎年一月の本選考まで、最大で一年間預る場合がある。

◆本賞の選考結果発表は毎年『ガロ』二月号誌上で行なう。

審査…ガロ編集部（長井会長の死去に伴い、現在選考委員を制定中です）

〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F ㈱青林堂「長井勝一賞選考係」

◆両賞共選考結果の発表は年一回、ガロ誌上で行ないます。お電話やお手紙でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。…………編集部

「新浪曼写真」モデル募集！

荒木経惟氏の芸術に染まりたい、というモデルを募集します。
縛り、挿入、何でもできるという優しくてアート好きな方は、
履歴書と写真（できればヌード、ない方はスナップ写真でも可）を同封の上、お送り下さい。
きっと荒木氏が素晴らしい芸術に引き込んでくれることを保証します。

★……宛て先……★
〒151東京都渋谷区初台1－47－1小田急西新宿ビル8F
（株）青林堂「ガロ編集部・新浪曼写真モデル係」迄

どしどしご応募下さい。お待ちしております。

F R O M * E D I T O R S

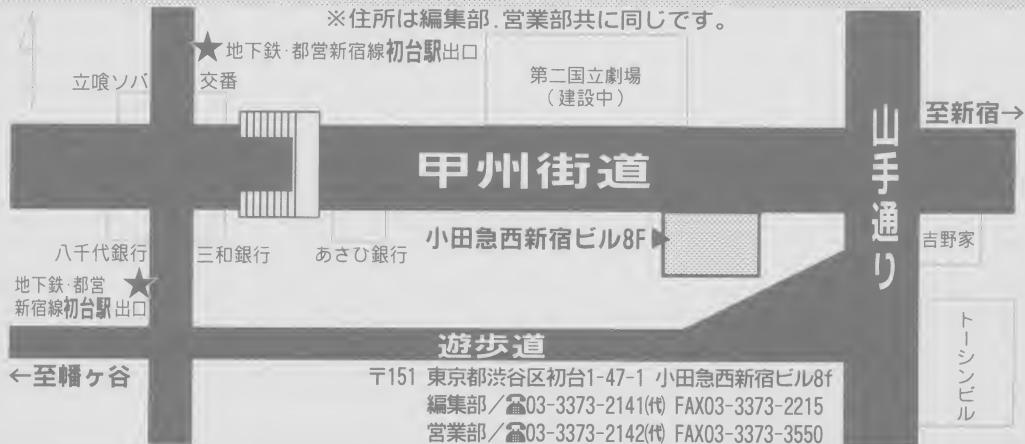
編集部から

★小社に直接お越し頂く方は、下記の地図を参照して下さい。
★本のお買い求めは、現在小社には在庫がございませんので、書店さんにご注文下さい。通販の場合は送料がかかりますので、小社営業部までお問い合わせの上、送料を添えて現金書留でお送り下さい。その際、バックナンバーなどは品切のものもございますので、必ず事前に営業部まで在庫のご確認をなさった上で、お送り下さい。
★編集部に直接漫画の持ち込みをなさりたい方は、前日までに編集部にあらかじめ予約のご連絡を頂いた上で、お越し下さい。
★原稿の持込みはガロの校了になる、毎月10日〜20日はなるべく避けて下さい。郵送でも投稿は受け付けておりますが、返却希望の方は必ず返信用封筒に当該料金分の切手を貼付したものを同封下さい。毎月大変多くの投稿が集まりますので、返信用封筒を同封されない作品の返却は出来ません。

★月刊『ガロ』は全国どこでもお近くの書店さんにてお買い上げ頂けます。書店さんの店頭に在庫が無い場合でも、「毎月取り寄せお願いします」とお申込み下されば発売日に入荷しますし、郵送料もかからないのでお得です。
　なるべく、書店さんにお申込み頂けると小社としても助かります。
　お近くに書店さんが全くナイ！という場合は、小社から直接郵送サービスを致しますが、発売日から若干遅れる事もありますのでご了承下さい。
【お申込み方法】
　お近くの郵便局で郵便振替にて以下
★口座番号＝００１００−５−１３５４７７
　　　　　㈱青林堂
★お申込み人の住所氏名電話番号
★「何年何月号より」一年間、と記入し、
　講読料金￥９８００（送料、梱包手数料込）をご送金下さい。
　なお、勝手ながら切手および現金書留でのお申込みは受け付けておりませんのでご了承下さい。
青林堂定期購読係

青林堂編集部／営業部のご案内

※住所は編集部.営業部共に同じです。

地下鉄·都営新宿線**初台駅**出口
立喰ソバ
交番
第二国立劇場（建設中）
至新宿→
甲州街道
山手通り
八千代銀行
三和銀行
あさひ銀行
小田急西新宿ビル8F
吉野家
地下鉄·都営新宿線**初台駅**出口
遊歩道
トーシンビル
←至幡ヶ谷

〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8f
編集部／☎03-3373-2141㈹ FAX03-3373-2215
営業部／☎03-3373-2142㈹ FAX03-3373-3550

個人広告のお知らせ
PERSONAL AD.

1ブロック
¥5000
40mm
50mm

★サイズは1区画が天地40ミリ、左右50ミリです。
★料金は1区画¥5000です。2区画なら¥10000と、1区画増えるごとに倍増します。
ただし、区画をつなげる事は出来ませんので、ご了承下さい。
★ご利用される際は、現金書留に料金と広告版下を同封して、下記までお送り下さい。一番近い号に、必ず掲載されます。
★内容はライブや個展、演劇などの広告はもちろん、連載小説や短詩、写真の掲載、文通希望&自己PR、イラスト、漫画何でも可です。ただしライブなどの告知の場合は、前の月の15日までに届かないと翌月掲載になってしまいますので、日程をご確認の上、お送り下さい。
★書店・古書店、演劇・音楽関係など、情報的側面のある広告の場合は、さらにお安く区画を提供致しますので、ぜひご利用下さい。

※法規に触れない限り、必ず掲載されます！

周りの罫線は不要

タチキリの場合はトンボを入れて余裕を持って絵柄やベタを伸ばして下さい

〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F
㈱青林堂 月刊ガロパーソナルAD係まで

●ご不明点は03(3373)2141 ㈱青林堂月刊ガロ編集部・読者係まで。

投稿規定

★お便り/1200字以内(原稿用紙/ワープロ可)で
「ガロッキング・チェア/お便り係」までどうぞ。
漫画の感想文、意見、身辺雑記など何でもお寄せ下さい。
ペンネームを使用される場合でも、住所本名年齢☎番号を明記下さい。
★アンケート用紙の感想は従来通り匿名で、編集部が抜粋要約します。
★文通希望・誌上売買・募集・ライヴ・演劇他の情報は規定用紙(コピー可)に記入の上「読者サロン○○係」まで封書でお送り下さい。
掲載は抽選で、必ず掲載されるとは限りませんのでご了承下さい。
★必ず掲載して欲しいという方は、個人広告(前頁参照)をご利用下さい。
★情報・お便りのメ切は、広告も含めて全て毎月15日必着です。
(15日が土日祝の場合は前日)情報などのスケジュールを告知される際はご注意下さい。
★ガロ編集部ではニフティ・サーヴによる電子メールも受付けております。お便り、ご意見・ご感想などは電子メールでも結構ですが、売買や文通希望など、その他に関しては従来通り左の規定用紙で送付して下さい。
メール送信先はVYE02140です。どしどし、お待ちしております。

★情報掲載用原稿用紙★
〈コピー可〉

★分 類 □文通□売買□募集□演劇□ライヴ□映画□その他(　　　)

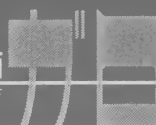
※封筒の宛名に、「ガロッキングチェア○○係」と記入して下さい。
※文通・誌上売買・募集などの直接交渉の情報は、ペンネームは使用できません。

★住所★〒□□□-□□

★氏名★　★ペンネーム★　★電話番号★(　　)

★性別★ ♂/♀ ★氏名★年齢　★ご職業/学年★

ガロッキング・チェア投稿用紙1996年4月号

月刊漫画 ガロ
MONTHLY ECCENTRIC COMIX MAGAZINE

1996 4 April

CONTENTS

追悼②初代「ガロ」編集長 長井勝一

●追悼文／漫画／コメント

●再録・漫画に出てきた長井さん

★表紙デザイン…羽良多平吉＆EDiX ／cover graphics…Heiquiti Harata,EDiX and associates
★表紙写植印字…オギー／cover phototype-setting…OGY
★表紙写真………荒木経惟／cover photograph…Nobuyoshi Araki & ArT room

● 残飯整理 ●

♨ 2月13日の「故・長井勝一を偲ぶ会」では御多忙の中、本当に大勢の方々に御献花いただきありがとうございました。また引続き今号の追悼特集でも時間の無い中原稿御寄せくださいました諸先生方にも、重ねて御礼申し上げます。今後とも長井さんの遺志に従い、編集部一丸となってガロを続けていきたいと思いますので、御支援の程宜しく御願い致します。

【周】

◎ 長井さんの追悼会には、沢山の先生方や関係者の方が御見えになりました。そして、大勢のファンの方にも献花をしていただきました。本当に有難いことだとおもいます。追悼会に来られなかった人でも、こうやって「ガロ」を読んでいただいている事は、「ガロ」と青林堂を愛していた長井さんにとっての、最高の供養だと私は思います。

できれば、この追悼号は、チリ紙交換なんかに出しちゃったりなんかしないで、数年後もこの追悼号を見ては、長井さんの事を思い出してほしいです。

【大場Q】

(－.－) 2月13日の「偲ぶ会」には六百人以上の方にお集まりいただき、ありがとうございました。また、今回は何せ急だったもので追悼号やら「偲ぶ会」の準備やらで営業に出ている暇がなく、書店の皆さんには多大なご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び致します。この号が終り次第、また回りますので、何卒棚をドーンと空けて待っていて下さり度く、御願い奉り候ますます。

【浅川満寛三十歳1996・2月記】

♂ 追悼会で、不肖わたくし、カメラマンの役を仰せつかり、バッシャバッシャとシャッターを切っておったワケでありますが、写真が出来上がって、これを見ると。ヤヤ！キッカイなことに、パーティ会場での写真が…写ってないッ!!

げっ！　ガクゼンとしたのでありまして。

しかも、何人かの方に頼まれて、遺影を前に名残の記念撮影などをいたしたワケですね。いやもう、そちらの方々には、本当に、お詫びのしようも御座いません。ゴメンナサイ。誠に、申し訳ありません！

せっかく会場にお越しいただきながら、誌面でご紹介することのかなわなかった諸先生方にも、深くお詫び申し上げます。

また、こころよくお写真を提供して下さった北海道新聞の森川さんに、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

トホホです。

【ウミボーズ大富豪】

◐ 長井さんが亡くなって、まだ落ち着いて考えられない部分がありますが、そんな事を言っているといけないので、長井さんに「ガンバンなさいよ」と言われているつもりで毎日生活するつもりです。

今月もお忙しい中、追悼の原稿を多くの方々に執筆いただきましてありがとうございました。また13日の偲ぶ会にも多くの方々に出席していただきました。重ねてお礼を申し上げます。

【志村】

✻ 気づいてみれば2月ももう終わろうとしていますが、長井さんが亡くなったことに未だに実感が湧いてこないのは、追悼号やらなんやらで、長井さんに関することに触れることが多いからだろうか？

お忙しい中、追悼集会にお越し頂きました皆様、追悼原稿をお寄せ頂きました皆様、どうもありがとうございました。

【高市】

♪「大変でしょうけど、体こわさないように頑張って下さいね」という暖かいお言葉をたくさんの作家さんや読者の方々に頂きました。1月5日、あの日からほとんど休み無しで働いてきた我々ですが、疲れもフッ飛ぶ思いです。3月号はよくあの短期間で、とも言われましたが、正直な話、あまり〝大変だった〟とか、〝疲れた〟という感じはないのです。何かにつき動かされていつの間にか出来上がっていた…そんな感じさえします。手塚さんも書いてますが、ホントに校了後は頑張った編集部員で酒を呑みたいと思います。長井さんの〝楽しい〟思い出話を肴に。そして、たまには、自分たちを褒めてやってもいいのではないかと思っています。

【白取】

⛩ 長井さんが亡くなってから今日まで、たくさんの人々と電話で話し、たくさんの人々とお会いし、たくさんの方々に助けていただいたこと、きっと一生忘れないと思います。長井さんはもういなくなってしまったけれど、心優しい方々に囲まれて仕事ができるのは、ホントに幸せなことだと痛感しております。先月の追悼号で水木さんが「長井さんの幸せ度は五十点くらい」とかかれておりましたが、ならば、はばかりながらも私は、グッと大きく出て、六十点を目指して今後の人生を歩んでいこうかと思っております。

この号の編集が終わったら、今度は社員だけでゆっくりと近所の一杯飲み屋で小規模な追悼会をやろうと思っています。まっ、こんな時にエラそうなことをいってもしかたないので、まずは希望を持って元気に仕事をすることです。

【手塚】

♥ 長井さんが亡くなってしまってから、もう約2ヵ月がたとうとしていますが、なんだかまだすぐそばにいるような気がしてなりません。僕は長井さんにはなれないけれど、でも長井さんに出会えた一人として、ホコリを持ちたいと思います。今言えるのはそれだけです。

【山中】